

外交代表者ニ對シテ之ヲ行フヘク該通告ハ右外交代表者ニ爲シタル通牒ノ日ニ行ハレタルモノト看做シ且其ノ日ヨリ効力ヲ生スルモノトス何レカノ一國ノ爲シタル廢止通告カ効力ノ生シタル日ヨリ一年內ニ締約國全部ハ會議ヲ開催スヘシ」

「本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證謄本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ

本條約ハ英吉利語及佛蘭西語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證謄本ハ同政府ヨリ他ノ締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百二十二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス」

條約
第二十條

凡例

- 一、保有主力艦表ニ於テ米國提案ト條約ト其噸數計算ニ差異アルハ米國提案ハ米國式ニ依リ條約ハ各國自國ノ様式ニ依リタレハナリ
- 二、米國提案及ヒ條約ノ原文ハ附屬書トシテ添付セリ

第二章 主力艦問題

第一節 日英米假協定ノ成立ニ到ル迄

第一款 海軍制限ニ關スル米國提案ト各國ノ態度及我修正案提出

第一項 第一回總會議ニ於ケル米國國務長官「ヒューズ」氏ノ海軍制限提案演說

華府會議ノ第一回會議ハ大正十年十一月十二日（土曜日）午前十時半ヨリ華府「コンチネンタル、メモリアル、ホール」(Continental Memorial Hall)ニ開催、會議ハ牧師「アバーネシー」博士(Dr. Abernethy)ノ祈禱ニ初リ、次テ大統領「ハーディン」氏ノ演說アリ、終ツテ英國全權「バルフォア」氏ノ提議ニ依リ米國國務卿「ヒューズ」氏ヲ議長ニ推ス、於茲「ヒューズ」氏ハ立ツテ曰ク

「ヒューズ」氏

諸君、諸君ノ余ニ與ヘラレタル此ノ榮譽(議長推薦ヲ指ス)ヲ受クルニ當リ、其特權ト責任ノ深甚ナルヲ感シテ止マス余ハ被招請各國政府代表者諸氏カ寛容ナル態度ヲ以テ友好的協力ノ保障ヲ與ヘラレタルニ對シテ深厚ナル感謝ノ意ヲ表セントス。本會ニ至ル道程ニ於テ隨時「吾人ハ時宜ニ適セル效果アル行爲ヲ以テ、監視ノ眼ヲ緩メサル世界ノ意義アル期待ニ添ハサルヘカラス、云々」ト表白セラレタル熱望竝目的ハ會議ノ成功ヲトスル最上ノ吉兆ナリ

大統領ハ英吉利佛蘭西伊太利日本各國ニ對シ軍備制限竝ニ太平洋極東問題ヲモ議スヘキ會議ニ參加方ヲ招請セリ。世界各國ヲ本會議ニ招請スルコト元ヨリ結構ナルコトナリシモ、今日實際緊急ノ必要ニ應センカ爲メ大戰後主トシテ世界ノ武力ヲ左右スル所謂主タル同盟及聯合國ヲ招請シタル次第ナリ。軍備制限ノ鍵鑰ハ實ニ是等各國ノ掌中ニ存ス

唯太平洋極東問題ニ付テハ利害關係諸國ヲモ招請スルノ適當ナルヲ認め、右五ヶ國ノ同意ヲ以テ白耳義支那和蘭葡萄牙四國ヲモ右問題討議ニ參加方ヲ求メタリ

抑モ本會議ニ太平洋極東問題ノ討議ヲモ含マシメタルハ、軍備制限ニ關スル協定ヲ妨ケ又ハ之ヲ遲延セシメンカ爲メニ非スシテ、本會議ヲ機會トシ極東ニ於ケル主義政策ニ關シ共通ノ了解ヲ遂ケ各國軍備ノ根源ヲ滅殺シ又出來得ヘクンハ全然之ヲ除去シ仍テ以テ軍備制限ノ企圖ヲ助成センカ爲メニ外ナラス。此機會ニ於テ意見ヲ交換シ各國政府協調ノ基礎ヲ發見シ且ツ永遠ノ親善ヲ保セカ爲メ其希望ヲ述フルヲ得ン

會議ノ進
行方法

本會議開會前世上論議二説アリ。一ハ軍備問題ノ研究ハ極東問題討議ノ結果ヲ待ツテ之ヲ行フヘシト云ヒ、他ハ軍備制限ニ關スル協定ノ成ルヲ俟チテ極東問題ヲ議スヘシトナス。余ハ此ノ兩極端論ノ何レニモ充分ナル理由ヲ發見スルヲ得ス。軍備制限ノ問題ヲ遲延シ、本會議ニ對スル世上ノ希望ニ背クカ如キハ最モ不幸ナルコトナリ。世界ハ本會議ニ期待スル軍備競争ノ人類ニ課スル過重ノ負擔ヲ輕減セムコトヲ以テス。而シテ合衆國政府ノ見解ハ何等無用ノ遲滯ヲナサス右期待ニ沿フコト是ナリ。故ニ本會議ハ直ニ軍備制限問題ノ討議ニ入ランコトヲ提議ス

尤モ之カ爲メ極東問題ノ研究ヲ遲延スヘシト云フニ非ス。是等重大問題モ同シク解決ヲ迫リツツアリ。故ニ是等重大問題ヲ處理スヘキ端ナル準備ヲナシ、先ツ各指定ノ委員會ヲ設ケテ事務ヲ分割シ、以上兩項ノ問題討議並ニ處理ヲシテ互ニ相抵觸スルコトナク所期ノ目的ヲ達成セムコト然ルヘシ

軍備制限
問題ノ歴
史

列國ノ協定ニ依リテ軍備ヲ制限セムトスル提議ハ何等新シキモノニ非スシテ、吾人ハ過去ニ於ケル努力ノ空シカリシヲ見テ訓ヘラルル所アリ。今ヨリ二十三年以前露國皇帝陛下ノ勅書中ニ提唱サレタル崇高ナル希望ヲ回想セヨ。明白且強烈ニ次ノ如キ句ハ指摘サレヌ「國民ノ智力、體力即勞動資本ハ其ノ大部分ヲ其ノ自然ノ適用ヨリ轉セラレテ不生産ノ消費ニ向ケラル。幾百幾億ノ類ハ今ヤ恐レヘキ破壊ノ機關ヲ獲ンカ爲メニ投セラレツツアリ、而シテ此破壊ノ機關ハ今日科學ノ極點(the last word of science)トシテ目サルト雖モ、同一方面ニ何等カ新シキ發見ノ結果明日ハ其ノ全價值ヲ失フヘキ運命ヲ有スルモノナリ。此發達ノ結果ハ國民ノ教養經濟ノ發達及富ノ生産ハ痲痺セシメラレ又ハ其ノ發達ヲ阻止セララル、尙列國ノ軍備増進スルニ比例シテ、政府ハ其本來ノ目的遂行ヲ怠ルニ到ル。其ノ大部分ニ於テ尤大ナル軍備制度ニ基ク經濟的危機ト此

ノ軍需材料ノ集積ニ因ル不斷ノ危險ハ現代ノ武裝の平和ヲ過重ノ負擔ニ變形シツツアリ、國民ハ益々此ノ重荷ニ堪ヘサラントス。若シ此ノ狀態更ニ繼續セハ必然吾人ノ避ケント欲スル災厄ニ進ムルコト疑ナカルヘシ、而シテ此ノ恐怖ハ凡ユル思慮アル人々ニヨリ豫見セラレ、是等ノ人ヲ戰慄セシメツツアリ。此ノ不斷ノ軍備ニ終末ヲツケ、全世界ヲ威嚇シツツアル災厄ヲ避クル手段ヲ提供スル如キハ今日各國ニ課セラルル最高ノ義務タリ」

此ノ義務の觀念ニ因リテ露國皇帝陛下ハ此ノ沈痛ナル問題ヲ處理セン爲會議ヲ提議シ一八九九年海牙ニ於テ之レカ開會ヲ見タリ。該會議ニ於ケル各演説及各決定 (the deliberations and conclusions) 特ニ國際紛争ノ平和的處理 (Pacific settlement of international disputes) ニ關スルモノハ重要ナルモノナリト雖モ軍備制限ノ特殊事項ノ結果ハ次ノ如キ意見ヲ開陳スル最後ノ一決議ヲ採用ノ外何物モ得サリキ

現今世界ノ重荷タル陸軍費用ノ制限ハ以テ人類ノ有形的及無形の福利ヲ増進センカ爲メ極力熱望スルモノナリ而シテ米國政府ハ「陸海軍兵力及軍事豫算ノ制限ニ關スル協定ノ可能性ヲ審査センコト」ノ希望ヲ表セリ

其後七年ヲ經テ米國國務長官「エリユー、ルート」氏 (Mr. Elihu Root) ハ露國大使ノ示セル第二回平和會議ノ覺書ニ答ヘテ次ノ如ク言ヘリ。「故ニ合衆國政府ハ之以上ニ成シ得ル處ナシトスルモ露國皇帝ヲシテ第一回會議ヲ招集セシメタル崇高ナル觀念ノ實現ニ對シテ多少ナリトモ進歩ヲ希望シ、議題ノ一トシテ軍備縮少又ハ制限 (the reduction or limitation of armaments) ヲ第二回平和會議ニ提議スルノ自由ヲ留保スルヲ其ノ義務ナリト感ス」ト。獨逸帝國政府カ「軍備撤廢 (disarmament) 問題ニ絶對ニ反對」ナル旨ヲ表示シ獨逸國皇帝カ「若シ軍備撤廢議題討議セラルルナラハ代表者派遣ヲ拒絕スヘシ」ト威嚇シタルハ意味深長ナリ。然レニ第一回海牙會議ニ於テ採用セラレタル決議ニ顧ミ、合衆國代表者ハ「軍備制限ノ議題ハ未完成ノ事業ト看サルヘカラスシテ、第二回會議ハ第一回會議ニ於テ表示セラレタル希望ヲ追求シテ協定可能ノ件ニ關シ各國政府ノナシタル審査ノ結果ヲ確メ且充分ノ考慮ヲナササルヘカラス」ト訓令ヲ受ケタリ。然レニ該議題ハ障害ニ遭遇シ、第二回海牙平和會議ハ紛争ノ平和的處理ニ關スル條項ニ於テハ格段ノ進歩ヲ爲セリト雖モ、軍備制限ヲ處理スルヲ得

ス、單二次ノ如キ一般の決議ヲ得タルノミ

「本會議ハ軍事費ノ制限ニ關スル一八九九年ノ會議ニ於テ採用サレタル決議ヲ確認ス。軍事費ハ同年以降殆ント各國ニ於テ非常ナル増加ヲナセルニ鑑ミ、本會議ハ各國政府ニ於テ再ヒ嚴密ニ本問題ノ審査ヲ遂ケムコトヲ切望スル旨ヲ宣言ス」是レ八年間ノ努力ノ賜物ナリキ。軍備競争ハ其ノ行ク所見エ透キタルニモ拘ラス、之等ノ徒ラナル提言ニ累サルコトナクシテ繼續セラレ有吏以來ノ大戰争ニ至レリ。而シテ今ヤ吾人ハ比類ナキ人命ノ損失、希望ノ壞滅、經濟的脱線 (economic dislocation) 及廣汎ナル貧窮ニ苦シミツツアリ。此等ノ事實ハ武力ノ暴戾ナル口實 (brutal pretensions of military force) ヲ征服スルニ要スル犠牲ヲ示スモノナリ

機會到レ

サレト吾人ハ軍備制限ニ對スル從前ノ努力ノ不充分ナリシニ依リ警メラルルモノナリト雖モ今ヤ絶好ノ機會ノ到レルヲ認メサルヲ得ス。吾人ハ過去ノ教訓ニヨリテ教ヘラルルノミナラス、又戦争ノ經驗ハ吾人ノ迷夢ヲ醒シ今ヤ其ノ反動ヲ有スルノミナラス、尙又避ヘクカラサル經濟的要求ノ挑戰ニ應セサルヘカラス。以前ニ於テ便利ナリシ事或ハ最望マシカリシ事ハ今ヤ絶對必要事トナレリ。若シ經濟的回復アルヘキモノトセハ、又合理的發達ニ對スル希望ニシテ之ヲ拒否スヘカラストセハ、又最早一刻モ堪ヘ難キ重荷ヲ振り放サントシテ人々カ死物狂ニ蹶起スルヲ止メントスレハ、軍備競争ハ停止セラレサルヘカラス。目下ノ機會ハ只此ノ軍備ヲ一般ニ承認スルコトニ鑑ミテ有利ナリトスルノミナラス、危險ヲ救フヘキ力ハ此處ニ代表セラルル各國民ノ小團 (small group of nations, represented here,.....) ノ雙肩ニ存ス。是等各國民ハ平和ヲ希ヒ、和親ヲ進ムル凡ユル理由ヲ有スルモノナリ。第二回海牙會議ノ約束ニ逆ヘル驚クヘキ野心ハ最早此世ヲ脅威セサルナリ、而シテ自由好愛平和維持ノ「デモクラシイ」(liberty-loving and peace-preserving democracies) ノ絶好機ハ來レリ。「各締約國ハ軍備制限問題ヲ審議スヘシ」トイフ如キ單ナル決議ヲナス如キ時代ハ去レルコトハ云フ迄モナキコトニ非スヤ。吾人ハ最早調査、統計、報告、緩漫ナル審査ヲ以テ満足スヘキニ非ス。主要事實ハ既ニ充分ニ知ラルル所ナリ。時ハ來レリ、本會議ハ單ナル一般の決議或ハ相互ノ忠告ノ爲メノミナラス、實行 (Action) ノ爲ニ招請セラレタリ。巧妙ナル遲延策ニヨリ或

ハ完全ヲ期スル餘リ實行不可能ナル計畫ヲ爲シテ人類ノ切望ヲ無ニスヘキニ非ストイフ充分ノ了解ノ下ニ吾人ハ相會セリ實力ト責任ハ茲ニ在リ、世界ハ即刻遂行ニ着手スル實行可能ナル成案ヲ待チツツアリ

余ハ本件ニ付キテ同シク會議ニ上ルヘキ他事項同様分離ヲ生シ易キ議事進行法ヨリモ寧ロ成功ノ望最モ大ナル議事進行法ニ從フヲ望マシキモノト提言シ、諸君ノ承認ヲ得ルヲ信スルモノナリ

斯クテ常ニ出來得ル限り協定成立ヲ希ヒ、一步一步協定ヲ遂ケ審議ヲ進行ヲ容易ナラシムヘシ

軍備ニ關スル問題ニシテ現在最モ重要ト認メラレ而カモ最モ迅速且有效ニ處理シ得ヘキモノハ海軍軍備制限ナリ。茲ニ本問題ニ關係アリト思ハル若干一般の考察アリ

海軍軍備
制限ニ關
スル一般
的考察

其ノ第一ニ困難ノ焦點ハ造艦計劃ノ競争ニ在リテ、海軍軍備ヲ適當ニ制限センカ爲メニハ造艦競争ヲ拋棄セサルヘカラスルコト是也。競争ノ弊ハ競争繼續方法ニ關シ如何ナル決議ヲナスモ之ヲ匡濟スル能ハサルヘシ。一ノ計劃ハ必然他ノ計劃ヲ促シ、競争ノ存續スル限リ其ノ調節ハ實行不可能ナリ。之カ唯一ノ解決方法ハ今日直ニ競争ヲ終熄セシムルニ在ルノミ如斯ハ重大ナル犠牲ヲ支拂フニ非レハ之ヲ實現シ得サルコト明カナリ。既ニ莫大ノ金額ハ建造中ノ艦艇ニ支出セラレ、而シテ現ニ實行中ノ造艦計劃ハ重大ナル損失ヲ負擔スルニ非レハ之ヲ放棄スルヲ得ス。然リト雖モ若シ現今ノ主力艦建造ヲ繼續スル以上ハ之ニ對抗スル爲メ必ス他ノ軍艦ヲ起工スルニ至ルヘク、此ノ事實ハ更ニ他ノ造艦ヲ促スヘシ。斯クシテ競争ハ競争能力ノ存スル限リ續行セラルヘク犠牲ヲ免レントスル努力ハ無益ナリ。吾人ハ犠牲ヲ支拂フカ或ハ目的ヲ斷念スルカノ二途ヲ有スルノミ

又大海軍國中ノ一國ニ對シテノミ此ノ犠牲ヲ要望スヘカラス事モ明カナリ。海軍軍備制限ハ唯關係列國間ノ協定ニ依リテノミ之カ實現ヲ期待シ得ルモノニシテ、斯ル協定ハ各國ノ負擔スヘキ犠牲ノ程度ニ於テ全ク公平且妥當ナラサルヘカラス。斯ル協定ノ基礎及各國ニ要求セラルヘキ適當ノ犠牲ヲ考慮スルニ當リテハ建造中ノ艦船ノ竣工程度ヲ包含セル各大海軍國ノ現在海軍力ヲ斟酌スルヲ要ス。蓋シ何國ト雖モ他國ト競争スルノ自由ヲ有シ各國孰レモ其行動ニ付キ相當ノ根據ヲ

發見シ得ヘシ。一國ノ爲ス所ハ他國モ之ニ對抗スルノ機會ヲ求メ斯クシテ吾人ハ遂ニ競争ノ勢力ヨリ脱却スル事能ハサルニ至ル。米國専門委員ハ米國全權ニ對シ主力艦 (Capital ship) ノ噸數ハ以テ各國ノ海軍ノ勢力比ノ公平ナル標準トナスヲ得ヘク、補助艦艇 (auxiliary combatant craft) ニ關スル規定ハ主力艦割當噸數ト適當ナル比例ニ立ツヘキモノナルヲ獻言セリ

次ニ海軍休息 (a naval holiday) モ海軍軍備制限案ノ重要ナル一部分ナルカ如シ。仍テ茲二十年ヲ下ラサル期間主力艦ノ建造ヲ停止スヘキコトヲ提議ス

具體案ノ提出
余ハ茲ニ以上ノ概括的提議ヲ爲スニ止マラス、更ニ進ミテ米國大統領ノ訓令ニ基キ米國全權ヲ代表シ海軍軍備制限協定ニ關スル具體案ヲ提出シ得ルコトヲ欣幸トス

此提案ハ直チニ英帝國、日本及合衆國ニ關係アルモノナルコトヲ附言シ得ヘシ。佛蘭西伊太利兩國ノ海軍ノ現在勢力ハ世界大戰ノ影響ヲ受ケタル特殊ノ狀況ニ在ルニ鑑ミ、本議事ノ階梯ニ於テハ、是等兩國ノ噸數割當ヲ討議スルコトハ必要ナリト思考セラレス、サレト合衆國ハ本問題ヲ本會議後日ノ考量ノ爲留保センコトヲ提議ス

合衆國ハ本提議ヲ爲スニ當リ各關係國ノ正當ナル利益カ適切ニ保護セラレ且國家ノ安寧及防衛ノ維持セラルヘキ事ヲ目標トシ、全然合理的且實際的ナル基礎ニ依リ本問題ヲ處理センコトヲ切望スルモノニシテ、四個ノ一般原則ヲ適用セリ

則四ヶノ原

(第一) 實行中若クハ既定ノ主力艦建造計畫ハ全部之ヲ拋棄 (abandon) スル事

(第二) 老齡艦ノ或モノヲ廢棄 (scrap) スルコトヨリ更ニ縮少ヲ行フ事

(第三) 一般ニ關係列強ノ現在海軍力 (existing naval strength) ニ考量ヲ加フヘキコト

(第四) 主力艦ノ噸數ヲ以テ海軍力測定ノ基準 (measurement) トナシ又一定ノ補助艦艇ノ勢力ヲ之ニ比例シテ割當ツヘ

キ事

茲ニ提議スル協定ノ主要點ハ左ノ如シ

●●● 主力艦

主力艦ニ
關スル提
案

「米國」

米國ハ今ヤ方ニ新戰艦 (battleships) 十隻及巡洋戰艦 (battlecruisers) 六隻ヲ建造スル一九一六年計畫ヲ完成セントシツツアリ
一戰艦ハ既ニ完成シ其他ハ種々ノ進行程度ニアリ。即或者ハ六割乃至八割以上迄建造ヲ終レリ。是等十五主力艦ハ現ニ建造中ニ屬シ今日迄既ニ三億三千萬弗ヲ費シタルカ、而カモ米國ハ海軍軍備ノ即時制限ノ爲メ是等一切ノ軍艦ヲ廢棄セムト欲ス、若シ本提案ニシテ受諾セラレムカ米國ハ左ノ通り提議セムトス

(一) 目下建造中ノ主力艦全部ヲ廢棄スルコト。右ハ起工中若ハ建造中ノ一巡洋戰艦及七戰艦並進水濟ノ二戰艦ヲ含ム斯ノ如ク廢棄セラルヘキ新造主力艦ノ總數ハ十五隻ニシテ、竣工ノ上ハ其總噸數六十一萬八千噸ナリ

(二) 「デラウェア」 (Delaware) 及「ノースダコタ」 (North Dakota) ヲ除ク外老齡戰艦全部ヲ廢棄スルコト。廢棄セラルヘキ是等老齡戰艦ノ數ハ十五隻ニシテ、其噸數ハ合計二十二萬七千七百四十噸ナリ

如斯本提案受諾セラルル場合ニハ米國ニ依リ廢棄セラルヘキ主力艦ノ數ハ三十隻ニシテ其噸數合計八十四萬五千七百四十噸トナル

(建造中ノ軍艦竣工シタル時ノ噸數ヲ含ム)

「英國」

本案ハ日英兩國ニ於テ米國側ノ前記措置ニ正シク匹敵スヘキ措置ヲ執ルヘキコトヲ考慮セルモノニシテ英國ニ就テハ左ノ通り提議ス

(一) 新「フード」 (New Hood) 型四隻即未タ起工セサルモ既ニ幾分ノ經費ヲ支出シタル新主力艦ノ建造ヲ中止スヘキ
ト○是等四隻竣工ノ上ハ排水噸數 (tonnage displacement) 十七萬二千噸ニ上ルヘシ

(二) 右ノ外前弩級艦 (pre-dreadnaughts) 第二線戰艦 (second line battleships) 及「キング・ジョージ」五世級 (King George V class) ヲ除ク外ノ第一線戰艦 (first line battleships) ヲ廢棄スヘキコト、是等ハ既ニ廢棄セラレタリト承知スル或前弩級艦ト併セテ主力艦十九隻ニ上ルヘク、四十一萬三千三百七十五噸ノ縮少トナルヘシ、如斯シテ英國ノ廢棄スヘキ軍艦ノ噸數ハ合計五十八萬三千三百七十五噸トナルヘシ、「フリード」型四隻竣工後ノ噸數ヲ含ム)

「日本」

日本ニ就テハ左ノ通り提議ス

(一) 未タ起工セサル軍艦即紀伊、尾張、第七號及第八號ノ各戰艦並ニ第五號第六號第七號及第八號ノ各巡洋戰艦ノ建造計畫ヲ拋棄スヘキコト

但シ以上諸艦ハ何レモ未タ建造ニ着手セラレサルヲ以テ右ノ提議ハ建造中止ヲ含ムモノニアラサルコトヲ注意セサルヘカラス

(二) 既ニ進水シタル陸奥、現ニ起工中ノ土佐及加賀ノ三主力艦並ニ現ニ建造中ノ天城、赤城及未タ起工セサルモ或種ノ製艦材料ヲ蒐集シタル愛宕、高雄ノ四巡洋戰艦ヲ廢棄スルコト

此項ノ下ニ廢棄サルヘキ新主力艦ハ七隻ニシテ、其噸數ハ竣工後合計二十八萬九千六百噸ニ上ルヘシ

(三) 前弩級艦及第二線戰艦全部ヲ廢棄スルコト

右ハ攝津ヲ除ク外總テノ軍艦即十艘ノ老齡艦其總噸數十五萬九千八百二十八噸ノ廢棄ヲ含ムコトトナルヘク、現存ノモノ及製艦材料ノ蒐集セラレタルモノノ縮少噸數ハ竣工後ノ新艦ノ噸數ヲ加算スレハ合計四十四萬八千九百二十八噸ニ上ルヘシ

如斯本提議ニ依レハ三國海軍中既成及建造中ノ主力艦六十六隻噸數合計百七十八萬八千四十三噸ハ直ニ廢棄セラルルコトトナルヘシ

右提議ニ依レハ米國、英國及日本ハ主力艦ニ關シ協定成立後三月以内ニ本提議ニ指示セラルル一定ノ軍艦ヲ以テ之ヲ構成シ且ツ其隻數ヲ米國十八隻英國二十二隻日本十隻トスルコトヲ協定スヘキモノトス

其噸數ハ左ノ如クナルヘシ

米國 五十萬六百五十噸

英國 六十萬四千四百五十噸

日本 二十九萬九千七百噸

右ノ結果ニ到達セルカ爲メ各海軍ニ於ケル艦齡ノ點ニ付適當ナル考慮ヲ加ヘタリ

「代換」

代換ニ關シ米國ノ提議スル所ニ依レハ

(一) 第一次代換噸數ニ對シテハ協定成立後十年間起工セサルコトヲ約定スルコト

(二) 代換ハ協定セラルヘキ主力艦噸數合計ノ最大限ニ依リ左ノ如ク制限セラルヘキコト

米 五十萬噸

英 五十萬噸

日 三十萬噸

(三) 主力艦ニシテ艦齡二十年ニ達スル場合ニハ代艦トシテ新主力艦ヲ建造スルコトヲ得、但前記十年ノ制限及噸數合計ノ最大限ニ從フヘキコト

(四) 代艦トシテ三萬五千噸以上ノ排水量ヲ有スル主力艦ヲ建造スヘカラサルコト

余ハ本提議ヲ爲スニ當リ單ニ其大綱ヲ述フルニ止メ其専門的細目ニ至テハ全權ニ附託セラルヘキ正式提議 (formal proposition) (附屬書參照) ニ讓ラムトス。右提案中ニ補助艦艇制限ニ關スル規定ヲモ包含ス。而シテ補助艦艇ナル語ハ(一)巡洋艦

(cruiser) (巡洋戰艦ヲ除ク) 驅逐隊嚮導艦 (fleet leader) 驅逐艦 (destroyer) 及各種水上艦種等 (various surface types) ノ如キ補助水上艦艇 (auxiliary surface combat craft) (i) 潜水艦 (submarine) (ii) 航空母艦 (airplane carrier) ノ三種艦形ヲ包含ス

此等種々ノ艦種ハ主力戰艦ニ關スル條項ト一定ノ關係ニ立ツモノナルカ故ニ余ハ此等ノ各艦種ニ對スル提案ノ論議ヲ試ミサルヘシ

本案ノ受諾ニヨリ海軍軍備競争ノ負擔ハ免セラレ莫大ノ額ハ釋放セラレテ文明ノ進歩ヲ援ケン。同時ニ十年間ノ海軍休暇中國防ノ本來ノ要求ハ充分ニ達セラレ、各國民ハ將來ヲ考慮スル潤澤ナル機會ヲ得ン。攻撃の海軍戦争ノ準備ハ即今止マシ

余ハ今茲ニ會議豫定ノ假議題ニ登載セラレタル他ノ點ニ言及セサルヘシ

(註) 帝國全權ハ十一月十二日「ヒューズ」ノ提案ヲ聽クト同時ニ米國政府提案ニ對スル我方態度ニ關シテ左ノ

如ク政府ニ具申セリ

帝國全權ノ意見

一、第一回總會議ニ於ケル「ヒューズ」氏ノ演說ハ既述ノ通りナル處本會議ニ於テ軍制問題ト太平洋極東問題ノ何レカ先議セラルヘキカノ問題ニ就キテハ當國新聞紙中ニハ頃日來頻ニ論議スルモノ多カリシカ「ヒューズ」氏ハ右演說中特ニ此點ニ言及シ「米國政府ハ本會議ニ直ニ軍制問題ニ付キ考慮セムコトヲ提議ササレト右ハ極東問題ノ審議ヲ延期スヘシトノ意味ニ非ス同問題ノ重要ナル速ニ解決ヲ必要トスルモノアリ從テ之カ處理ニ關シテモ直ニ充分ナル準備ニ着手スルコトヲ希望ス」云々ト述ヘテ之カ爲委員會ヲ組織セムコトヲ提議シタリ旁々現下四圍ノ情勢ヨリスレハ結局太平洋極東問題ト軍制問題トハ併行討議セラルルノ止ムナキニ至ルヘク又右併行討議スルコトナルモ米國政府ノ主力ヲ置ク所ハ軍縮問題ニ在ルヤニ觀察セラルルニ就テハ右様ノ場合ニハ軍制問題委員會ニハ加藤全權又太平洋極東問題委員會ニハ幣原全權出席スヘシ

二、前記「ヒューズ」ノ演說ハ終始多大ノ注意ヲ以テ傾聽セラレ屢々熱誠ナル拍手ヲ呼起シタルカ就中同卿カ米國ノ海軍計畫ヲ述ヘタル後米國ハ海軍制限ノ即時實行ノ爲ニハ進ンテ現ニ建造中ノ主力艦十五隻ノ廢棄ヲモ辭スルモノニ非ラスト斷言シタル際ノ如キハ滿場一齊ニ起立シ拍手喝采暫ク止マス(階上ニ列席セル上下兩院議員ノ熱烈ナル拍手ハ特ニ注意ヲ惹キタリ)一同ニ深甚ナル印象ヲ與ヘタリ

米國政府カ斯ク具體の成案ヲ提ケテ會議ニ臨ミ劈頭之ヲ公表シテ其所信ヲ表明シタルハ其目的ノ貫徹ニ就テ決心ヲ有スルニ基クコトハ申ス迄モ無ク又其内容ニ於テモ大體論理立チ居ル様思考セラルニ付帝國政府ニ於テモ右米國ノ提案ニ對シテハ大英斷ヲ以テ之ニ臨ムノ決心ヲ要スト確信セラル而シテ本問題ハ今後急轉直下ノ勢ヲ以テ發展スヘキヤモ計ラレス若シ其ノ場合一々御訓令ヲ俟チ處理スルニ於テハ或ハ機宜ヲ失シ帝國ノ立場ニ重大ナル不利益ヲ來スノ虞アリト信セラルルトキハ曩ニ全權ニ與ヘタル御訓令ノ趣旨ヲ體シ機適宜ノ處置ニ出ツルコトト致度シ

右御承認相成度シ

第二項 第二回總會議ニ於ケル五ヶ國全權ノ米國案ニ關スル態度聲明演說

(大正十年十一月十五日前十一時開會)

「バルフ
オア」氏

一、英帝國首席全權「バルフォーア」氏 (Mr. Balfour) ノ演說

議長閣下。閣下ハ前土曜日(第一回總會議)ニ開始セラレタル討議ノ繼續ヲ吾人ニ勸誘セラレタリ。余ハ前土曜日ニ於ケル提案カ各國側ニ於テ何等考慮ヲ加フルコトナクシテ通過セシメラララムニハ夫ハ甚タシク不幸ナルヘシト思惟スルモノナリ。而シテ余カ率先シテ討議ヲ爲サムトスルハ諸氏ノ知悉セラルル如ク余ノ代表スル英帝國ハ總テノ海軍事項ニ關シ茲ニ集マレル國ノ中最モ深キ利害關係ヲ有スルヲ以テナリ

惟フニ今ヤ各國ノ政治家ハ平和運動ノ困難ニシテ且ツ有能ノ士ヲ要スルコト戰爭ニ勝利ヲ得ムトスル場合ニ劣ラサルヲ知ルニ至レリ。五年間ノ戰爭ニ依リテ甚タシク破壊セラレタル均衡ヲ恢復スルコトハ、一ニ各人ノ努力ニ俟タサルヘカラス。

此點ニ付キ余ハ議長ニ祝意ヲ表セムトス、即チ議長ハ吾人カ數時間前平和克復ノ記念日ヲ祝福シタルト同一ノ精神ヨリシテ永遠ニ祝福セラルヘキ復興運動ノ記念日ヲ茲ニ創設セラレタルヲ以テナリ。十一月十一日カ總テノ同盟及聯合國又大半ノ中立國ニトリテ衷心感謝セラルヘキ日ナリトセハ十一月十二日モ亦斯クノ如キ記念日タルヘシ、即チ將來ニ於テ現ニ各文明國民ノ爲シツツアル此困難ナル運動ヲ同願シ、且ツ之カ單ニ戰後ノ恢復ヲ圖ルノミナラスシテ絶體ニ戰爭ヲ惹起スヘキ原因ノ存在ヲ許ササルモノナルヲ思ハハ、必スヤ感謝ノ念ヲ以テ此ノ日ヲ迎フルナルヘシ

余ハ前土曜日ノ會議ニ列席スルノ光榮ヲ有シ其議事ニ與ルノ幸福ヲ有シタリ、其議事ハ眞ニ忘レ得サル所ナリ、祕密ノ嚴守セラレタルハ驚嘆ニ値ス、余ハ吾人ノ討議ニシテ祕密ヲ要スヘキモノニ付キテハ之ト同様祕密ノ嚴守セラルヘキヲ希望シ亦之ヲ疑ハス。兎モ角此場合ニ於ケル祕密ハ誠ニ良ク守ラレタリ、余ハ將ニ開カレムトスル、否大統領ニ依リ既ニ開カレタル本會議ノ事業ノ序言トシテ眞ニ適切ナル雄辯ヲ傾聴シツツ而カモ背後ニ何等劇的分子ヲ含メルヲ想像セサリキ。然ルニ吾人カ唯單ニ雄辯ニシテ且ツ嘆賞スヘキ演說ヲ傾聴セルニ止ラスシテ、重大ナル歴史的事實ニ逢會シツツアルヲ卒然感付キタルハ恐ラクハ余ノミニ非サルヘシ。右ノ歴史的事實ノ展開セラルルヤ極メテ自然ニシテ、論者カ今ヤ彼ノ文明世界ノ隅々ニ至ル迄傳達反響ヲ喚起セル記念スヘキ言辭ヲ述ヘタル際ニハ、吾人ハ深甚ナル感動ニ打タレタリ。吾人ハ突如全ク新シキ事實ニ遭遇セル場合ニ起ス感激ヲ覺エ世界改造史中ノ新ナル一章ノ開カレタルヲ感知セリ

凡ソ方法ノ極メテ簡單ナルト議論ノ變化ノ容易ナルト偉大ナル劇の高潮トハ策ノ上乘ナルモノニシテ、最高ノ技巧ハ完全ナル簡明ト結合セラルルコト多キモノナリ。扱テ余カ今日敢テ他ニ先ンシテ問題ヲ議セムトスル所以ハ曩ニ一言セシ如ク英帝國及大不列顛國カ共ニ海軍問題ニ關スル所深キコト到底他國ノ比ニ非サルカ爲ニシテ決シテ野心ノ爲ニモ傳統ノ爲ニモ非ス、眞ニ明白ナル事實ニ基ク止ムヲ得サル必要ニ出ツルモノナリ

英國ノ海軍ヲ要スル特殊事情

世界ノ歷史上未タ嘗テ英帝國ノ如キ大帝國ノ建設セラレタルヲ見ス。之レ諸氏ノ知悉セラルル所ナルヘキモ英帝國カ此點ニ付キ如何ナル狀態ニ在リヤハ諸氏ノ總テカ明確ニ知レル所ニハ非サルヘシ。茲ニ集マレル者ノ大多數ハ米國民ナリ。米國ハ獨リ他國ト離レテ存シ攻撃ヲ受クルノ恐レナク、且ツ自給自足ヲ爲シ得、其交通路ハ總テ如何ナル攻撃ニ對シテモ二重ニ完全ニ保護セラレ居レリ

夫ハ唯貴國カ人口一億一千萬ヲ有スル爲ノミニ非ス、又富メルコト世界第一ナル爲ノミニ非ス、貴國ハ大勢上即チ地理的位置等ニ依リ英帝國ノ受クル如キ特殊ノ脅威ヲ受クルコト無キカ故ナリ

例ヘハ貴國自ラ安全擁護ノ責ヲ負ヘル其西部諸州カ突如トシテ一萬海哩ノ彼方ニ移動セリトセヨ、又貴國ノ中心カ人口密集セル最爾タル島國ニシテ奢侈品ハ固ヨリ過剰人口カ依リテ以テ生活スル各種製造工業ノ原料竝ニ此等人口ノ生命ヲ繫クヘキ食料サヘモ偏ニ海外貿易ニ仰クモノトセヨ、更ニ又國內ニ存スル食料ノ額ハ常ニ其人口ニ對スル七週間分ヲ超ユルコトナク且ツ之カ補充ハ海上輸送ニ俟タサルヲ得サルモノトセヨ、諸氏若シ此ヲ想像シ其地位ノ如何ナルヘキカニ思ヒ及ハハ英帝國ノ國民ハ其ノ太平洋ノ自治領ニ在ルト北海ノ小島ニ在ルトヲ問ハス、總テ自己ノ生存スルハ偏ニ海上交通ニ在リ之ナクシテハ英帝國モ自己自ラモ滅亡ノ他ナシト確信シ居レル所以ヲ了解シ得ヘシ

淑女紳士諸君。余カ自國ノ弱キヲ嘆クモノト思フ勿レ、夫ハ全ク異レリ。吾人ハ強大ナリ、我カ帝國内到處潑刺タル活氣旺溢スレハナリ。吾人ハ強大ナリ、吾人ハ熱烈ナル愛國心ヨリ一致團結スレハナリ。サレト右戰略上ノ弱點ハ何人ニモ明カナル所ニシテ、吾人カ敵ヲ有ストセハ敵モ亦知ル所ナリ。之レ吾人カ我カ友邦諸國ニ對シ記憶セラレムコトヲ希望スル所ナリ

以上述ヘタル所ハ余カ茲ニ論議スルノ理由ヲ語ルモノナリ。吾人ハ議長ニ依リテ提出セラレタル偉大ナル計畫ニ關シ考慮スルヲ要シ、而シテ吾人ハ嘆賞ト共鳴トヲ感シツツ之ヲ爲セリ

吾人ハ其ノ精神ト原則トニ於テ之ニ同意スルモノナリ、吾人ハ之ヲ以テ軍備及戰爭準備ノ問題ニ關シ嘗テ政治家ノ勇氣ト愛國心トカ爲シ得タル最大ノ改革ノ基礎ナリト思惟ス。余ハ固ヨリ此案若クハ如何ナル天才ノ案モ凡ユル問題ヲ網羅シ國際改造ノ全範圍ニ互リ得ヘシト爲スモノニ非ス、斯カル事ヲ企ツルハ愚ナルヘク、又唯一箇ノ計畫ニ於テ斯クノ如キ企ヲ爲

シ得ヘシトスルハ愚ナルヘシ。前土曜日ニ於テ國務卿ノ明カニセラレタル如ク、本計畫ハ唯世界ニ於テ現在最モ大ナル艦隊ヲ有スル三國ニ關スルニ過キス。從ツテ既ニ海軍ヲ減シ現ニ國家ノ名譽ト防禦トノ必要ヲ超ユル艦隊ヲ有セス又希クハ將來ニ於テモ之ヲ欲セサル可キ歐洲諸國ヲ暫クハ全ク考慮ノ外ニ置ケルモノナリ。更ニ本計畫ハ歐洲ヨリ來ル總テノ者カ殆ント比儔ナキ大問題ト爲ス陸軍軍備テフ重荷ニ觸ルルコトナシ、之レ他ノ計畫ニ依リ他ノ方法ニ依リ論スヘキモノトシテ後日ニ殘サレ居レリ。本計畫ノ企ツル所ハ誠ニ建設的政治家カ嘗テ爲セル大事業ノ一タルヘシ、其ノ關スル所ハ世界ノ三大海軍ニシテ余ノ代表セル政府或ハ國家ハ此等三國ノ海軍ニ對シテ比率ヲ以テ軍備制限ヲ爲サムトスル其汎キ精神ニ於テ米國ノ吾人ニ示シタル政策ニ滿腔且ツ衷心ノ同意ヲ致スモノナリ。(拍手)即チ夫ハ戰艦艦隊ヲ以テ攻撃のモノト看做シ主トシテ之ヲ考慮セムトスルナリ。此ノ戰艦艦隊中ニハ戰艦艦隊ノ耳目ノ用ヲ爲シ防禦力ヲ増加シ偵察力ヲ増ス等其交戦力ヲ増大スヘキ補助艦ヲモ包含セシムルヲ要ス

此ノ二者共ニ事實上戰艦艦隊ニ屬スヘシトセハ、即チ此二者ヲ以テ戰艦艦隊自身及戰艦艦隊ニ缺ク可カラサル補助艦ト解セハ諸國間ノ比率ハ正當ナリト思惟ス、其總數ニ關スル制限ハ受諾シ得ヘキモノナリト思惟ス否受諾サレサル可カラスト信ス、(拍手)吾人ハ其受諾サルヲ疑ハサルモノナリ

惟フニ前土曜日全世界ニ傳達サレシ彼ノ通牒ハ關係者ノ冷淡ナル受諾ヲ以テ迎ヘラルヘキモノニアラス、余ハ夫カ熱誠ナル是認ト完全且忠實ナル協同的努力トヲ以テ迎ヘラルヘキヲ信ス。(拍手)此ノ席ニ於テ細目ニ互リ論議ヲ爲スハ不可ナラム、唯此點ニ關シテハ幾多ノ問題存スルヲ以テ恐ラク議長ハ之カ討議ヲ委員會ニテ爲スヲ適當トスル旨述ヘラルヘシ。然レトモ唯一箇ノ例ヲ述ヘムニ我カ專門家ハ潛水艦ノ許容噸數カ多キニ過クトノ意見ヲ有シ居レリ、蓋シ潛水艦ハ艦艇中最モ濫用サレ易ク、這般ノ戰爭ニ於テモ事實上最モ惡用セラレタリ、吾人ト雖モ潛水艦力適當ニ使用サル時ハ弱者ノ防禦用武器トナリ、之ヲ全廢スルハ假令可能ナリトスルモ希望スヘキコトニ非サルヘキヲ認ム、然レトモ新計畫ニ依リテ許容セラレタル潛水艦噸數ハ何レノ國ニ於テモ現ニ有スル噸數ヨリ遙カニ大ナリ、而シテ余カ茲ニ注意ヲ乞ハムトスルハ此ノ噸數ヲ更

潛水艦

ニ制限スルヲ至當トセスヤ又總噸數制限ニ加ヘテ大型潛水艦ノ建造ヲ全ク禁スルコトカ可能ニハ非サルヤ、若シ可能トセハ希望スヘキニ非サルヤノ點ニシテ、考慮ノ價值アルヘシト思惟ス、此等ノモノハ防禦ノ爲ニスルニ非ス、弱者ノ武器ニ非スシテ、目的トスル所ハ唯偏ニ攻撃ニ存シ、恐ラクハ文明國民ノ戰慄スヘキ方法ニヨル攻撃ノミニ存スヘキヲ以テナリ。(拍手)

更ニ代艦問題及艦隊運動ニ要セサル巡洋艦問題ノ細目ノ問題アルモ之等ハ專門家ノ考慮ニ俟ツ可ク、而カモ其決定ノ如何ハ米國カ成立セシメトシテ吾人カ之ニ協力シムト欲スル大綱ニハ影響ヲ與フルモノニ非ス。(拍手)

蓋シ右ノ大綱ハ明瞭且確固タルモノニシテ、來ルヘキ數週間ノ討議中如何ナルコトアルモ依然其始メ提出サレタル儘ニ殘リ人類ノ嘆賞ヲ贏チ得テ之ニ裨益スル所アルヘシ

尙余ノ一言セムトスルハ本計畫ヲ採用センカ、關係各國民ハ納税ノ負擔ヲ輕減スルヲ得ヘク、之カ弗又ハ磅ヲ以テ幾何ニ達スルヤヲ計算スルハ極メテ容易ニシテ、一見其救済ノ大ナルヲ見ルヘシ、又之ニ依リテ國內のニモ國際的のニモ産業ヲ刺戟シ且現ニ各文明國政府ノ關ヒツアル諸種ノ困難ヲ減殺スルヲ得ヘシト信ス。此等計算のニ示サル效果ハ數字の事項ニ過キサルモ、本計畫中ニハ單ナル數字の計算ニ示サレス而カモ之ニ優ル或モノヲ藏ス、即チ更ニ根本的ニシテ最高ノ國際道德ニ觸ルル或ルモノヲ有スルナリ、之ヲ要スルニ本計畫ハ理想ヲ實際の提案トナシタルモノト云フヘシ。(拍手)

本計畫ハ實ニ改革家詩人著述家又ハ先日吾人カ耳ニセル如ク權力者迄カ屢々人類努力ノ最終ノ目的ナリト爲シタル夢想ヲ捉ヘ來レルモノナリ

戰爭ノ慘禍ヲ除去スヘキ幾多ノ計畫ハ過去ニ於テハ總テ水泡ニ歸セリ、而シテ前土曜日議長ハ再ヒ一ノ計畫ヲ示サレタリ、夫ハ徒ラニ人ヲ歡喜セシムルモノニハ非スシテ、言フ事ノ如何ニ易ク行フ事ノ如何ニ難キカヲ示セルモノナリ。本計畫カ一大偉業タル所以ハ言フト共ニ實行スルニ在リ、即チ何レノ國民ト雖モ爲シ得ヘキ雄辯宏辭ヲ以テ正義ノ論ヲ爲スニ止ラスシテ、何人モ知リ得ヘク如何ニ頑固ナル心中ニモ透徹スヘキ具體的方法ヲ示セルニ在リ。米國政府ハ平和ノ熱望スヘク戰爭

ノ恐怖スヘキヲ言フニ止ラスシテ、戦争ヲ全ク無カラシメ、戦時ト異ラサル平和時代ノ負擔ノ苦痛ヲ世界ノ人類ヨリ輕減セシメ得ル方法ヲ存スルヲ示シタルナリ。之ニ依リテ茲ニ集マリシ者ノミナラス、又偉大ナル米國民ノミナラス實ニ全文明國民ノ視聽ヲ聳動セリ。而シテ又之ニ依リテ本會議ノ第一日ヲシテ人類文明ノ一大轉期ヲラシメタルナリ。(拍手)
以上ヲ以テ余ノ述ヘムト欲シタル所ヲ盡シタルカ、余カ本會議ニ臨メル時英國首相ヨリ接到シタル電報ヲ茲ニ朗讀スルヲ許サレ度シ。(拍手)

「ロイド、ジョージ」ノ來電

「ロイドジョージ」氏 (Mr. Lloyd George) ヨリ「バルフォア」氏 (Mr. Balfour) 次ノ通り

貴下ノ電報ヲ多謝ス。若シ貴下ニ於テ本電報ヲ公表スルヲ有益ナリトセラルトキハ之ヲ公表セラレテ可ナリ
英國政府ハ會議劈頭ノ議事ヲ閱了シ深甚ナル嘆賞ヲ覺エタリ

「ハーディング」大統領 (President Harding) 及國務長官ノ演説力大膽且政治的價值ニ富ミ、無限ノ可能性ヲ有セリトノ貴下ノ所感ハ政府ノ所感ト全ク一致ス、本會議ノ最終ノ成功ハ最モ切望スル所ナリ。兩氏ニ對シ我カ衷心ノ祝意ヲ傳ヘラレムコトヲ望ム(拍手)

二、日本國首席全權加藤海軍大臣ノ演説

加藤全權

議長閣下。余ハ閣下ノ許ヲ得テ軍備制限ヲ此ノ大問題ニ關スル余ノ意見ヲ本會議ニ開陳セムト欲ス。余ハ雄辯ノ術ヲ知ラス、簡單明確殊ニ卒直ニ陳述セサルヘカラス

日本ハ米國政府ノ軍備制限案ニ現レタル其ノ目的ノ誠實ナルヲ深く多トスルモノナリ。日本ハ本提案カ各國民ヲシテ著シク冗費ヲ免レシメ、且必スヤ世界ノ平和ヲ助成スヘキヲ思ヒテ満足スルモノナリ(拍手)

日本ハ米國ノ提案ヲ促シタル高遠ノ理想ニ共鳴セサルヲ得ス。故ニ日本ハ欣然右提案ヲ主義ニ於テ (in principle) 受諾シ、敢然海軍軍備ノ大々的削減 (sweeping reduction) ニ着手スルノ用意アリ

凡ソ一國民ハ自國ノ安寧ニ必要ナル軍備ヲ保有セサルヘカラサルハ一般ニ容認セラルル所ナルヘシ。而シテ此ノ必要ハ本

提案ノ審議ニ當リ充分考慮セラレサルヘカラス。右ノ必要ニ鑑ミ、日本ハ各艦種ノ代換噸數基準 (the tonnage basis for replacement of the various classes of vessels) ニ關シテ些少ノ修正案ヲ提出スルコトトナルヘキカ、本問題ハ海軍専門家ノ特別審

議ニ附託スルコトヲ要ス。余ハ右修正案ノ提議セラルル場合ニハ米國竝ニ其ノ他ノ各國代表ハ日本代表カ他國代表ノ考案ニ對スルト同様吾人ノ觀念ニ合致セムトスル希望ヲ以テ右提議ヲ考慮スヘキヲ知ル

日本ハ未タ曾テ英國又ハ米國ノ艦隊ト均勢ノ艦隊ヲ有セムコトヲ主張シタルコト無ク又之ヲ主張セムトノ意思ヲ有シタルコトモナシ日本ノ現存計畫ハ日本カ未タ曾テ攻撃戰ノ準備ヲ企圖シタルコト無キヲ明確ニ立證スヘシ。(拍手)

伊「シ」氏

三、伊太利國首席全權「シランツ」氏 (Mr. Salazar) ノ演説

議長閣下。余ハ閣下カ本會議ノ事業ノ概要ヲ述ヘラレタル雄辯ノ中ニ於ケル「時ハ來レリ本會議ノ開催セラレタルハ一般ノ決議又ハ意見ノ交換ヲ爲サンカ爲ニ非スシテ實ニ實行ヲ爲サンカ爲ナリ」トノ言ニ衷心贊同スルモノナリ

議長ハ其意見ヲ直チニ實行スル意圖ナルヲ明ニセラレタリ、議長カ海軍制限ニ關シテ爲セル陳述ハ極メテ誠實ニシテ力強ク且ツ果敢ナリトノ第一印象ヲ與ヘタリ、議長ハ本會議ニ對シ又全世界ノ輿論ニ對シテ明確ニ且ツ躊躇スル所ナク海軍制限問題ハ特ニ大海軍國ニ關スルモノナルヲ述ヘ事實ト數字トヲ精確ニ示シテ論議ニ確固タル基礎ヲ與ヘラレタリ

余ハ特ニ大海軍國ニ關スル問題ノ專門的方面ハ之ヲ思考セサルヘキモ伊太利國全權トシテ提案ノ大綱ニ深甚ナル贊意ヲ表セントス。余ハ議長ノ提案カ受諾セラレタル時ニ於テ凡ユル經濟的利益ヲ生スルニ至ルヘキヲ希望ス。世界ノ平和ハ世界ノ經濟的平衡ヲ恢復スルノ方途ヲ考究スルニ非スンハ永久ニ維持スルコトヲ得サルナリ

近代ノ文明ハ經濟的文明ニシテ現在ノ世界ハ土地ノ遠隔及自然的疆界ノ存スルニ拘ラス之ヲ單一ナル大經濟組織ト認メサルヲ得ス。然ルニ此經濟組織ハ戰爭ニ依リテ全ク破壊サレタルヲ以テ之ヲ恢復シ之ヲ再ヒ活動セシムルハ實ニ刻下ノ必要事ナリ

余ハ議長ノ提案ハ世界ヲシテ經濟恢復事業ニ着手セシムヘキ方策ノ最モ有效ナル第一歩ナリト思惟ス

「バルフォア」氏 (Mr. Balfour) カ佛蘭西國及伊太利國海軍力問題ニ論及セラレタル所ニ就テハ余ハ數言ヲ述フヘシ
余ハ伊太利國及佛蘭西國ノ海軍制限問題ヲ世界ノ海軍制限問題ヨリ分離セントスルハ寧ロ困難ナリト思惟スルモノナリ。
議長ハハ海軍國ニ關スル問題ヲ第一ニ決定セサル可カラストセラレ且ツ議長ハ米國カ此問題ヲ本會議後日ノ考慮ニ附スヘ
キコトヲ提議スル旨述ヘラレタリ。仍テ余ハ佛蘭西國及伊太利國ノ海軍問題カ議長提案中ノ問題ノ前ニ考慮セラレンコト
ヲ希シ又議長ノ言ニ顧ミ之ヲ信ス

之ヲ要スルニ余ハ伊太利國全權トシテ本會議カ議長ノ提案ヲ其事ノ基礎トナシ以テ直接關係諸國ノミニ止ラス全世界ニ
對シテ幸ナル結果ヲ生セシムヘキヲ熱望シテ止マス (拍手)

四、佛蘭西國首席全權「ブリアン」氏 (Mr. Briand) ノ演說

議長閣下。余ハ英國首席全權カ雄辯ナル其演說ノ初ニ於テ述ヘタル「本會議ハ世界史上ニ將又文明史上ニ一大轉期ヲ劃スル
モノナリ」トノ見解ニ全然一致ス

米國全權ノ陳述ヲ傾聴シタル際ノ余ノ感想ハ英國首席全權ト必スシモ同一ナラサルヘキヲ以テ余ハ余ノ感想ヲ述ヘン。余
カ茲ニ來レル時米國ノ如キ偉大ナル國民ハ斯クノ如キ重大ナル事業ノ着手ヲ爲スニ當リ必スヤ決定的ニシテ明確ナル目的
ヲ有スヘキヲ感知セリ。吾人カ漸クニシテ慘憺タル苦闘ヨリ脱シタル今日ニ於テ今後戰爭ハ無カルヘク永遠ノ平和ノ來ル
ヘキヲ世界ニ約シタル以上最早吾人ハ此等ノ希望ヲ實現スヘキ最良ノ方法ヲ決定スルノ覺悟ヲ爲スニ非スンハ戰爭ト平和
トノ問題ニ携ルノ資格ナク又世界ノ國民ヲシテ最終ノ平和ヲ希望セシムルコト能ハサルヘシ

此崇高ナル理想ヲ實現セント欲シテ過去ニ於テモ幾多ノ會議ハ開カレタリ。然レトモ此等ニ於テ問題ヲ理想主義ノ見地ヨ
リ觀察セル爲ニ好果ヲ得サリシハ「バルフォア」氏 (Mr. Balfour) ノ言ノ如シ。然ルニ議長ハ吾人ノ進ムヘキ途ヲ與ヘテ最早
困難ヨリ脱スルノ方途ヲ模索スルノ秋ニ非サルヲ示サレタリ。議長ハ大膽ニ例ヲ示シテ吾人ニ機會ヲ與ヘラレタリ、余ハ余
カ議長ニ後援スルモノナルヲ茲ニ聲明ス (拍手)

理想ヲ實現スルニ缺ク可ラサル細目ノ審査ハ極メテ困難多カルヘキモ其間ニ於テ吾人カ正道ヲ外レ邪道ニ陷ルヲ感スルコ
トアラハ固ヨリ佛蘭西國側ハ正義ニ與スル者ト協力シテ正道ニ復シ以テ吾人ノ目標ニ達スヘキ決意アリ (拍手)

本會議ニ於テ第一ニ討議スヘキハ言フ迄モ無ク大海軍國ニ關スル問題ナリ。余ハ大不列顛國及日本國カ原則ニ付テ爲シタ
ル極メテ廣汎ナ 同意ヲ傾聴シテ欣喜ニ堪ヘス。佛蘭西國ハ本問題ニ全然無關心ナルニハ非ス、後日ニ於テ本問題カ數字ト
例示トヲ以テ現ハレタル時余ハ陳述スルノ機會アルヲ信スルモ、現在ニ於テハ吾人カ既ニ正道ヲ進ミ居リ且ツ議長ノ指示
セル方針ニ基キ既ニ爲ス所アリシヲ言フニ止ム。戰爭カ佛蘭西國ヲシテ或地位以上ニ上ルコトヲ得サラシメタルハ論ナシ。
戰爭ハ吾人ノ計畫實行ヲ妨ケ而シテ吾人ハ弱小ナル艦隊ヲ有スルノミ、恐ラクハ國防上ノ必要ニモ充タサルヘシ

然レトモ余ハ此點ヲ議論スルノ意ナシ。寧ロ問題ノ他面ニ目ヲ注カムトス。之レ「バルフォア」氏 (Mr. Balfour) ノ暗示セラ
レタル所ニシテ余ノ感謝スル所ナリ。當面ノ問題ハ單ニ經濟上ニ限ルヤ單ニ計算若クハ豫算上ノ問題ニ限ルモノナリヤ、若
シ然リトセハ若シ之ノミヲ以テ目的トスルモノトセハ夫ハ吾人ヲ茲ニ招集セラレタル米國ノ大國民ノ名ニ背クナルヘシ。
故ニ茲ニ討議スヘキ主要ナル根本問題ハ實ニ世界各國民カ戰爭ノ災厄ヲ避クル爲ニ相互ニ了解ヲ齎ラスコトヲ得ルヤ否ヤ
ヲ知ルニ在リ而シテ議事カ陸軍問題ニ入リタル時ハ同問題ハ諸氏ノ知悉セラルル如ク佛蘭西國ニトリテハ特殊ノ複雑ナル
問題ナレトモ余ハ之ヲ回避スル意志毫モ無シ。余ハ本問題カ吾人ニトリテハ極メテ重大ナルヲ念頭ニ置キテ應酬スヘシ

陸軍問題ハ既ニ提起セラレタルモ之カ提起ヲ眞ニ欲スル國アリトセハ夫ハ佛蘭西國ナリ。本問題カ本會議ニ現ハレタル時
余ハ之ヲ論議スル機會ヲ有スヘク其時ニ於テ佛蘭西國ノ地位ニ關シ公ニ陳述シ以テ米國及世界全般ヲシテ完全ニ了解セシ
ムトス。若シ余ノ陳述ニ耳ヲ藉サハ諸氏ハ佛蘭西國カ其安全ト生存トノ必要上之ヲ正當ニ保有スルモノニシテ何等世界
平和ヲ紊スノ意圖ナキヲ確信セラルルニ至ルヘシト信ス。右ノ陳述ハ他日ニ機會アルヘキヲ以テ今日ハ唯本會議ノ最初ノ
大問題カ既ニ協定セラレタルニ對シ全幅ノ欣快ヲ表明シ、併セテ本會議ノ解決ニ俟ツ他ノ凡テノ問題ニ關シテモ亦同様ノ
協定ニ達センコトヲ希望スルモノナリ (拍手)

「ヒューズ」氏

五、米國首席全權「ヒューズ」氏 (Mr. Hughes) ノ演説

諸君。我々ハ海軍軍備制限ニ關スル合衆國ノ提議ヲ主義ニ於テ承認セラレタル如何ニモ誠實ナル各演説ヲ傾聴シテ感謝ニ堪ヘサルノミナラス深キ感銘ヲ感セリ。今ヤ多數ノ細目ヲ考慮按排シ、彼ノ目的ヲ達センカ爲メ確固タル協定ヲ結ブノ順序ニ至ルヘシ

茲ニ提案サレタル所ナルカ海軍専門家ニ依リ適當ニ審査サルヘキ問題アリ。而シテ合衆國政府ノ提案ハ英國政府代表「バルフォア」氏 (Balfour) 日本政府代表加藤大將ヨリナサレタル提案 (Zetzsche's) 及其他正當ナル變更修正批評 (modification or amendment or criticism) 等凡ユル方法ニ依ル提案ト共ニ總テ徹底的考究ヲナシ、最モ成熟シ且周到ナル論議ノ末、本件ヲ達成セントシテ招集セラレタル會議ノ大目的ヲ成就セント欲スルコト合衆國政府ノ希望ナリ (拍手)

時ハ將ニ是等細目考究ノ機ナルカ、大ナル第一歩ハ既ニ開始セラレ、米國政府ノ提案ヲ主義ニ於テ (in principle) 承認セル著名ナル聲明ニ現ハレタリ、而シテ余ハ更ニ言ヲ進メテ言ハシ、吾人ハ本件ヲ専門的考慮ニ移スニ當リ攻撃的の海軍戰爭ヲ終止シ永久平和ノ達成ニ此大進歩ヲ爲サンコトヲ目的トシテ、圓滿緊要且重大ナル海軍軍備制限ノ適當ナル協定ヲ此會議ヨリ產出スルコトヲ疑ハサルナリ。而シテ此事タルヤ我國民ノ心ヲ満足セシムルコト疑ナシ (拍手)

(註)

帝國修正案

一、帝國全權ハ十一月十六日海軍問題ニ關スル修正案トシテ左ノ意見ヲ政府ニ具申セリ

今回米國カ提出セル海軍制限案ニ對スル當方ノ修正案トシテ (一) 米國ノ勢力比ヲ最少限十對七トシ (二) 陸奥、安藝ヲ復活シ (三) 航空母艦ノ同等ヲ主張スルニ決シ今後此ノ方針ヲ以テ會議ニ臨ム豫定ナリ米國案ニ對シテハ十五日午前ノ公開會議ニ於テ英米委員ノ意見開陳ノ次第モアリ周圍ノ狀勢ハ右ノ態度ニ出ツル外ナシト信ス然レトモ右ハ場合ニ依リテハ尚修正變更スルコトアルヘキニ依リ此ノ旨諒知有之度

二、右具申ニ對シ、十一月二十二日政府ヨリ左ノ答電アリタリ

「御來示ノ趣示ニ付テハ嘗テ外交調査會ノ席上加藤海軍大臣カ我海軍ノ米國海軍ニ對スル比率ハ一〇對七ヲ限度トスヘシト説明セラレタル事實ニ最モ重キヲ措クカ故ニ右限度ニ對シテハ努メテ支持セラルルノ意義ニ何等變更ナキコトト諒解ス」

第三項 海軍分科會ニ於ケル討議

海軍分科會ノ成立

一、大正十年十一月十五日午前ノ第二回總會議ニ於ケル了解ニ基キ同日午後第一回軍備制限總委員會開催。右委員會ニ於テ五國ヨリ一名宛ノ海軍専門委員ヲ以テ組織スル海軍分科會ノ件決定セラレ、海軍軍備制限ニ關スル米國提案及之ニ關シ第二回總會議ニ於テ各國ヨリ提言セル所ヲ凡テ各分科會ニ附議スルコトニ決定セリ

尙ホ専門分科會ニ問題ヲ移牒スル場合ニハ單ニ其ノ意見ヲ聞クニ止マリ委員會ハ分科會ノ意見、報告ニ依リ何等ノ拘束ヲ受クルモノアラステフ議長「ヒューズ」氏ノ提言ハ總委員會ニ於テ採用セラレタリ

海軍分科會委員トシテハ米國海軍次官「ルーズベルト」、英國「ビーティ」提督、日本加藤海軍中將、佛國「ドウ、ボン」海軍中將、伊國「アクトン」海軍中將ヲ任命シタルカ「バルフォア」氏ノ推薦ニ依リ「ルーズベルト」氏ヲ議長ニ推セリ

第一回會合

二、海軍分科會ハ第一回會合ヲ千九百二十一年十一月十六日午前十一時汎米會館ニ開ク。議長米國海軍次官「テオドル、ルーズベルト」氏英國委員「アール、ビーティ」提督、佛國委員「フルジナンド、ジャンジャック、ドウ、ボン」海軍中將、伊國委員男爵「アルフレッド、アクトン」海軍中將、日本國委員加藤寬治海軍中將、其他各國専門家出席

劈頭議長立テテ本會ハ専ラ技術的の方面ヲ詮議シ政策ニ觸レサルコト、本委員會ハ最終的決定權ナキ事等ヲ説キ、本日ハ單ニ米國提案ニ付キ各國其意見ヲ開陳セラレ度ク猶佛蘭西、伊太利モ共ニ提案ヲ妨ケサルモノニシテ、各國各種ノ提案ヲ得タル後委員會ニ附スヘキコトヲ提議ス。尙議長ハ各國提案互ニ相關係スルコトモアルヘク、總テノ提案ヲ取揃ヘテ所持スルヲ便トスヘト述フ

「ビーティ」提督 (Earl Beatty) ハ修正追加ヲ要求シテ曰ク、米國案ニ關シ余ハ今直ニ修正案ヲ提出スル準備ナシ。只「ヒューズ」

「ズ」氏 (Mr. Hughes) ノ「ステートメント」中或部分ニ付テハ説明ヲ要ス、例ヘハ主力艦ノ代換ノ部分ノ如キ之ナリ
此案ヲ米國民力提議セル根據如何。海軍政策上或ハ産業上經濟上重要ナル考慮ヲ費スヘキ事アリ
二點アリ、即該提案ハ今日何ヲ意味スルヤ及十年十五年ノ間何ヲ意味スヘキヤ之ナリ。云云

議長ハ「ビートイ」提督ノ議論ヲ概説シテ曰ク、「ビートイ」提督ハ何等特殊ノ提議ヲナサスシテ、米國提案ノ主力艦代換、海軍休暇中軍需品製造所ヲ繼續スル方法ニ付キ今一層説明ヲ希望セラレタリ。此質問ニ答フル前ニ余ハ其他ノ國ノ特殊ノ修正若ハ提案ヲ希望ス

「ドゥ、ボン」中將 (Vice-Admiral de Bon) ハ曰ク、余モ亦英國ト同意見ナリ。即チ十年間全々軍艦建造ヲ休止スルハ不可能ニシテ、此期間經過後海軍船渠ハ建造ノ復活ヲ期シ難シ、余ハ尙特ニ提議スルコトアルヘシ。佛蘭西ハ大戰ノ結果多大ノ艦船ヲ失ヒ困難ノ地位ニ在リ海軍休暇ハ佛蘭西國ニトリ實質的ニ不可能ニシテ修正ヲ要スヘキ事ナリ

「アクトン」中將 (Vice-Admiral Acton) 曰ク、佛國側ノ議論及「ビートイ」ノ議論ニ對シ意見ナシ

加藤中將 (Vice-Admiral Kato) 曰ク、日本ハ米國提案ヲ未タ充分ニ承知セサルカ故細目ノ論議ニ入ルコト能ハス。日本ハ去ル火曜日(十二月十五日第二回總會議)述ヘタル如ク、或變更ヲ希望ス。加藤大將ハ主要點ヲ實行スヘシト言明セリ。余ハ特ニ縮小、廢棄ノ斷行後保持サルヘキ海軍力問題ヲ議セント欲ス。本會議ノ崇高ナル目的ハ各國民ヲ軍律ノ重荷ヨリ救ヒテ文明ノ進歩、人類福利ノ増進ヲナスニ在リ。此ノ高尚ナル理想ヲ現實ニ齎サントスルニ方リテハ各國カ他國ノ治安ト存在ヲ嚴重ニ尊重スルコト最モ肝要ナリ

惟フニ國家ハ一國ノ安全及自己防衛ノ爲メ軍備保持ノ固有ノ權ヲ有ス。而シテ其軍備ノ防禦的ナル範圍内ニ於テハ自國ノ安全ノ必要ニ應ジ自國ノ意志及判斷ニ據リ定ムヘキモノタルヘシ

我日本ハ其理想的地位及其ノ特殊ノ國情ニ鑑ミ如何ナル他國ニモ劣ラサル程度ニ海軍ヲ絕對的ニ必要ナリトス。サレト日本ハ其ノ國家安全ニ絕對必要ノ最小限度ヲ超ユル軍備ヲ有セサルコトニ決シ居レリ

日本ハ六割率ヲ受諾スルヲ得ス、何トナレハ七割以下ノ勢力ヲ以テシテハ其安全及防禦ニ備フルコト不可能ナリト考フルハナリ

日本ハ島國ニシテ自給自足ノ國ニ非サルモ、大英國及合衆國ト同等ノ海軍力ヲ保持スヘク固持スルモノニ非ス。是レ即チ日本ノ唯一ノ目的ハ防禦ニ在リテ、攻撃侵略思想ヲ有セサレハナリ

自己防禦ニ必要ナル海軍力最小限ニ關シ、日本海軍専門家ハ英米ノ七割以下ニ非サル海軍力ヲ保有スルニ非サレハ自國ノ安全防禦ヲ期スルコト絕對不可能ナルヲ獻言セリ

航空母艦ニ關シテハ日本ハ英米國ト同一ノ比率ヲ保持セサル可カラス。蓋シ日本ハ長ク南北ニ延長セル數多ノ小島嶼ヨリ成リ此特殊ナル地理的事情ハ内地タル沿岸タルト問ハス容易ニ航空艦ノ襲撃ヲ蒙ルヘキ地位ニアリ。然モ建築物其他ノ大部分ハ木造ニシテ發火、爆破容易ナリ。斯ル地理的國情ナレハ沿岸一帯、各島嶼ニ相當ノ航空隊ヲ配置スルハ絕對ス不可能ナリ。而シテ選擇考慮ノ餘地既ニナク只動カシ得ヘキ航空機運搬機ニ賴ルノミ。且ツ航空機ノ將來ノ發達ニ伴ヒ此種艦船ノ必要ハ日本國防上益々其ノ度ヲ加ヘン。故ニ日本ハ少クモ英米ト同率ノ航空母艦ヲ要求ス

要言スレハ左ノ如シ

(1) 米國案ニ據レハ英米日三國ノ海軍力比ハ十、十、六トセラルレトモ、日本ハ英米ト同率ヲ要求セサレトモ少クトモ七割以上ヲ要求スルモノナリ

航空母艦ニ關シテハ日本ハ其ノ地理的地位及其ノ特殊ノ國情ニ鑑ミ其防禦ノ爲メ英米ト同率ヲ要求ス

(2) 吾人ハ多數ノ老朽艦及多數建造中ノ主力艦廢棄ニ衷心賛成ス。サレト戰艦陸奥ハ既ニ完成セルモノナレハ之ヲ保持セラルヘキモノナリ。猶七割以上保持ノ爲メ安藝ヲ保持スルヲ要ス

此ノ修正提議ハ日本ニヨリ最モ重要ナリト考ヘラレタル事項ヲ示シタルニ過キス、細目ニ關シテハ一層研究考慮ノ上意見ヲ開陳スヘシ。云云

次ニ議長ハ議事進行上加藤中將ノ如キ具體的提案ノ多カラシコトヲ希望シ、進ンテ「ビーテイ」提督ニ代艦問題ニ關スル具體案ノ提出ヲ催促ス

「ビーテイ」提督ハ米國案ニ不賛成ナル趣ヲ述ヘタルコトナキヲ辯シタル後、要ハ議長ニ於テ彼ノ提案カ如何ニシテ作成セラレタルカノ説明書ヲ今日ナラストモ後日交付サルレハ直ニ其賛否ヲ決スルヲ得ヘシ。サレハ米國案若シ満足ナルモノナルニ於テハ提案ヲ幾ラ提出スルトモ夫ハ徒ニ時間ヲ費スノミナルヘク、要點ハ米國案ニ充分ノ説明ナキコトニシテ吾人ノ知ラントスルハ如何ニシテ米國側カ代艦問題ヲ遂行セントシツアルカトイフ事ナリト述フ

議長曰ク、此點ニ關シ吾人ハ其ノ圖表ヲ作成セリ。故ニ余ハ代艦建造案ヲ諸君ニ交附スヘシ。之ニヨリ賛否ヲ決セラレタシ。又「ドウ、ボン」中將ノ質問ニ對シテ述ヘンニ、佛伊兩國海軍ノ特別問題ハ之ニ關スル總テノ問題ト共ニ本提案ヨリ切り離シテ留保セラレタリ、蓋シ佛伊兩國海軍ハ最近戰爭ニ直接ノ影響ヲ受ケタル狀態ニ在リ故ニ本件ハ貴國ヲ考慮外ニ置ケリ。猶又各國間意見ヲ異ニスル問題ノミナラス、之ニ加ヘテ全部ニ關係アル提議ヲ得タシ。例ヘハ或ル點ニ於テハ制限充分ナラサルカ如キ感ヲ惹起セラレシコトアルヘシ。例ヘハ輕巡洋艦ノ單艦噸數ニ異ル制限ヲ課スルヲ可トスルヤモ知ルヘカラス而シテ米國ノ代艦建造計畫ヲ各國ニ配布スヘキヲ約シ、又各國書面ニテ其計畫ヲ提出センコトヲ希望シ、本日ハ此上議事進行セサルヘケレハ閉會ヲ可トスト述フ

「ビーテイ」提督ハ或條項ノ説明ヲ求メテ曰ク、一例トシテ補助戰艦艇「ヒューズ」提案第十七條ヲ取上ケンニ茲ニハ巡洋艦ノ總噸數ヲ提議セラレタリ。問題ヲ確實明白ナラシムル爲メ質スルカ如何ニシテ彼ノ噸數ハ得ラレタルヤ

又潛水艦ニ付テモ同様ノ事ヲ云ヒ得ヘク、航空母艦ニ付テ亦同シ、本會ハ專門委員會ナリ。若シ議長ニシテ其説明ヲナスヘシトセハ如何ニシテ總噸數ヲ定メタリヤ承リ度シ第八條佛伊問題、議長ノ説明及本條ニ依リ判斷スルニ此等兩國ノ噸數割當問題ハ他日ノ考慮ニ留保セラル。勿論之ハ英國ノ見地ヨリスレハ甚シク満足ナル事トナスヘカラス。吾人ハ祕密會議ヲ爲シツツアルモノナレハ噸數割當問題ハ本日直ニ考慮サルヘキヲ可トス、蓋シ英帝國ハ合衆國及日本ト非常ニ異ル地位ニ在

佛伊問題

リ、吾人ハ歐洲ニ存在スル國家ナリ、又或ハ實力ナカルヘシト雖モ、此書類中ニ記サレサル他ノ國アルコトモ事實ナリ。然ルニ若シ本協定カ少クトモ何等カノ價值ヲ生セントシツツアリトセハ、之ハ一年乃至三年間繼續スル協定ニ非スシテ恒常的協定トナルニ相違ナシ。茲ニ代表セラレサル國中或一國ハ今之ヲ考慮スヘキ狀態ニアラス、サレト此ノ狀態モ長クハ續カサルヘク又「ベルサイユ」條約ニ基キ其翼ヲ折ラレタル國モアレトモサレト之カ幾何繼續スルヤ吾人之ヲ知ラス、此種協定カ幾何繼續スヘキハ種々ナル條件ニ關スルモノナリ。此等諸國ハ將來進歩シテ怖ルヘキ危險トナルヤモ計ルヘカラス云々

議長ハ「ドウ、ボン」、「アクトン」兩提督ニ「ビーテイ」提督ノ述ヘタル處ヲ了解セラレタリヤト問ヒタル後續ケテ曰ク、「ビーテイ」提督ハ米國專門家カ如何ニシテ補助艦ノ割當ヲナセルカヲ問ヒタルカ、米國ハ各全權ニ對シ「ステートメン」トヲ提出スヘシ、猶同提督ハ英國カ歐洲ノ一國ナル事實ヲ擧ケ、歐洲事變ニ直接關係アルヲ述ヘ、日米兩國ハ斯ル關係ニ立タサルヲ以テ英國ハ諸國ノ海軍軍備ニ關シ英國ノ關スル限り本件ニ別段ノ關係アリト述ヘラレタリ。此點ハ事政策ニ關シ吾人ノ指摘サレタル外ニアリテ此點カ協定ノ必要點ナルヲ告ケテ各全權ニ提言スルノ外ナシ。余ノ考ニテハ全權會議ニ附スヘキモノト思召ス、云々

猶議長ハ「ビーテイ」提督ノ提起スル問題ニ對シ「ドウ、ボン」中將ノ意見ヲ問ヘルニ、「ドウ、ボン」中將ハ三國ノ討議中ニ一般軍備ニ關スルモノアレハ、佛伊全權ヲ出席セシメサレハ不確定ノ項ヲ生スヘク、又決定遲延スヘキヲ説ク、「アクトン」中將ハ「ビーテイ」提督ノ言ニ贊シ、他國海軍問題モ議スヘキヲ述フ。議長ハ佛伊問題ハ事政策ニ關スル問題ニシテ本會ノ權限ニ非サレハ諸氏ノ議論アル處ヲ「ヒューズ」氏ハ提言スヘキヲ述フルヤ、「ビーテイ」提督モ之ニ贊シ、議長ハ閉會ニ際シ他ニ議論ナキヤト問フ

加藤中將ハ之ニ應シテ我海軍ノ致命的重大問題アレハ眞實充分ニ論議ヲ要ス又説明ヲ乞ハサル可カラサル點モ多々アルヲ以テ準備ノ爲メ二日間ノ猶豫ヲ請フト述ヘタルニ議長ハ成ル可ク議事ヲ急キ度キヲ告ケ「ビーテイ」ハ夫ハ米國側ノ説明

日本委員
ノ質問

如何ニ依ル問題ナリトイヘルニ議長ハ目下代艦計畫及補助噸數ノ二問題ノミニ付キ説明ヲ提出セント爲シオル所他ニ何カアリヤト問ヘルヲ以テ、加藤中將ハ他ノ問題アリト答ヘ、我専門委員ノ一人ハ述ヘテ曰ク

- (一) 英國ノ場合代艦ハ如何ニシテ之ヲ行フヤ承知シ度シ
- (二) 休暇期間中或艦ヲ失ヘル時其補充ハ如何ニスヘキヤ明白ナラス
- (三) 米提案第十四節 (am) ヨリ初ル所「其他次項ニ於テ特ニ除外セルモノヲ除キタル水上用各種艦」(and all other surface types except those specifically exempted in the following paragraph) ノ條ノ意味明白ナラス

吾人ハ此ノ具體的説明ヲ知り且ツ第十七節ニ關スル本節ノ關係ヲ知り度シ
又第十五節第十六節ノ細目ノ説明ヲ得タシ。此上更ニ進シテ研究スルハ提議ニ關スル疑問其他ノ問題ヲ解決スル良法ナランモ差當リ上記ノ諸點ノ充分ナル説明ヲ欲ス。云云

議長ハ加藤中將ニ其報告ヲナスヘキヲ約シ、翌日午後三時迄閉會スヘキヲ諮ルヤ異議アリテ四時ニ變更シ、其際今日質問サレタルモノノ理由及説明ヲ充分ニ考慮スヘク、又夫迄ニ參考ノ爲メ代艦建造表ヲ配付スヘシト告ク。其形式ニ就キ「ビーテイ」提督ト問答アリテ後、議長ハ閉會ニ際シ發言ナキヤト問フ

佛伊問題
ニ關スル
「ビーテイ」
ノ意見
ト論争

之ニ對シテ「ビーテイ」提督ハ曰ク、余ハ歐洲列強ノ海軍問題ヲ全權ニ廻付スルニ當リ本委員會ヨリ全權ニ對シ他ノ列強ノ海軍問題モ同時ニ審査スル様勸告センコトヲ提議ス、蓋シ若シ歐洲列強ノ問題ヲ吾人カ或種ノ決定ヲ爲シタル後ニ上程スルナラハ或ハ歐洲ノ海軍問題カ折角吾人カ協定シタル所ヲ轉覆スルカ如キコトアルヘシ故ニ吾人ハ最初ヨリ問題全部ニ着手スヘシ

之ニ答ヘ議長曰ク、「ビーテイ」提督ノ意ハ佛伊ノ海軍ノ關スル限リニ於テ問題ハ英米日ノ海軍ト專門的關係ヲ有スルモノナルヲ以テ之ヲ合一シテ審議セサル可カラスト云フニアリ

玆ニ諸賢ノ意見ヲ發表セラレムコトヲ望ムトテ先ツ「ドウ、ボン」中將ヲ指ス

「ドウ、ボン」中將。「ヒューズ」氏ニ依レハ海軍問題ノ審査ハ明ニ一方ハ日英米三國間ニ限ラレ、他方佛伊間ニ限ラレタリ而シテ三國間ニ審査サルヘキ問題ノ或種ノモノハ明ニ佛國ノ地位ニ關係ス(伊太利ニ就テモ同様ナルヘシ)。吾人ハ三國間ニ議論ヲ許シテ只議論終決ノ時ヲ俟ツカ、或ハ直ニ意見ヲ開陳シテ直接議事ニ參加スルカニ在リ。余ハ只々専門的の見地ヨリ之ヲ述フ

「アクトン」中將。余ハ佛伊海軍モ亦利害關係ヲ有スル一般海軍問題アルモノト思考ス。又佛伊海軍モ他國ト共ニ考慮サルヘキモノト信ス、佛伊海軍ノ最終ノ勢力ハ他國海軍ト關係アレハナリ

加藤中將。原案ニ關シ余ハ佛伊兩國代表ノ意見ヲ聞クヲ欲ス、然ル時ハ吾人ハ日本ノ意見ヲ提出スルノ地位ヲ得ヘシ議長。余ハ委員會ニ與ヘラレタル訓令 (instruction) ニ依レハ政策ニ涉ル事項ニ付キテハ何等此委員會ニ於テ決定ヲ與フヘキモノニ非スト思考ス。サレト余ハ「ビーテイ」提督ノ本件ハ政策タルト同時ニ専門的の事項タリトノ意見ニ同感ナリ。サレト余ハ吾人ノ執ルヘキ方法ハ委員會トシテ全權ニ勸告スルニ非スシテ、吾々各々力別々ニ今日ノ卒直淡白ナル論議ノ次第ヲ各自ノ全權ニ傳フヘキモノナリト思考ス

之余カ本委員會ニ對スル訓令ノ主旨ト解スル所ナリ若シ余ニシテ誤レルトキハ明朝再ヒ之ヲ論スレハ可ナラスヤ之ニ對シ「ビーテイ」提督ハ曰ク、余ノ之ニ反對スルハ時間ヲ節約センカ爲ナリ。玆ニ代表セララル諸國全部ヲ考慮ニ入ルルコトヲ希望ストイフニ過キス。余ハ本委員會ハ勸告ヲナスノ權限アリト思考ス。然ラサレハ無權限ナリ

議長之ニ答ヘテ曰ク、純粹ナル専門事項ニ關シテ勸告ノ權アリ。昨日與ヘラレタル訓令ニ依レハ大政策ノ問題ハ玆ニ議セスシテ全權ニ廻付スヘシトイフ。吾人ハ此席ニ於テ諸國委員ノ意見ヲ聞キタルカ右等意見ノ處分ハ全權ノ權内ニアリ余ノ訓令ノ解釋ハ決定ヲ爲スヘカラストスルニアリ。余ハ之ヲ「ヒューズ」ニ諮リ若シ余カ誤レル場合ハ次回ニ論スヘシ。云々

「ビーテイ」提督ハ、議長ハ貴國首席全權「ヒューズ」氏ニ「本委員會ハ吾々各自ノ全權ニ建議スルノミナリヤ或ハ會議ニ建議スルノ權アリヤ」ヲ問フ積リナリヤト問フ。議長ハ吾人ハ純粹専門事項ニ就テ會議ニ建言スヘク、政策事項ハ各自ノ全權ニ

建言スヘシト答フ。斯クシテ政策問題ハ全權ニ回附スヘキヲ主張シテ止マス。「ビーテイ」提督ハ猶モ追求シテ數回ノ問答ヲナス

第二回會合

最後ニ加藤中將ハ議事進行ノ爲メ、反對者ナクハ日本ノ希望ヲ述ヘタシト云ヘルニ、議長ハ米國ノ關スル限り反對ナケレト、米國案ノ質問ナラント推量スル所(加藤中將之ヲ肯フ)然ラハ終了後「クーンツ」大將ニ開カレタシト告ケ閉會ス

三、第二回會合ハ翌十七日午後四時ヨリ開會セラレタリ出席者ハ第一回會合ニ於ケルト同シ
第一回會合議事録ニ關シ議長ト「ビーテイ」提督トノ間ニ問答アリタル後

議長。諸君ハ已ニ我海軍省ノ作成ニ係ル代換案ヲ有セラルルコトト了解スルモ未タ諸君ノ全部ニ之ニ關スル意見書提出ノ準備ハナカルヘシ

昨日生シタル第二ノ問題ハ提案中ノ或句節ノ解釋問題ナリキ。(加藤中將ニ向ヒ)將軍ハ何等カ他ニ説明ヲ要求セラルル希望アリヤ。又ハ昨日ノ解釋ヲ以テ満足セラルルヤ

加藤中將。余ハ大體ニ於テ了解セリ

議長。若シ何カ御話アラハ吾人ハ喜ムテ會議終リタル後貴下ト共ニ更ニ立入りテ談合スヘク、又御希望ナラハ貴下ト共ニ該案ヲ審査セムコトヲ此處ニ出席セラルル「ブラッド」提督ニ御願スヘシ

次ニ氏ハ委員會ニ對シ討議方法ニ關スル説明ヲ試ミタル後曰ク

緒ヲ昨日提出セラレタル第一ノ問題ハ佛國及伊國ノ海軍力ヲ本原案ノ一部ト爲スヘキヤ否ヤニ在リキ。余ハ本問題ヲ我全權ニ回附シ彼等ハ之ニ付商議スル所アリシカ各國全權トノ間ニ於テ決定ニ到達シタルトキ直ニ本委員會ニ通告スヘシト言明セリ。故ニ本問題ハ今ノ所吾人ノ討論外ニ在ルナリ

「ビーテイ」提督ノ質問ニ答辯セムカ爲余カ本委員會ノ權能ニ付大體ノ説明ヲ求メタルニ對シ、華盛頓會議議長タル我カ國務卿ハ余自身ノ陳述ヲ以テ氏ノ了解スル所ノモノナリト認メラレタリ、即チ吾人ハ問題ヲ専門的方面ヨリ觀察スヘキ

モノニシテ、政治上ノ問題ニ立至リタル場合ニハ、直ニ之ヲ全權ニ廻附スヘキモノナリ、國務卿ハ吾人ハ文書ニ依リ政治上ノ決定的勸告ヲ爲スヘキ者ニ非スト言明セリ。(「ビーテイ」提督ニ向ヒ)サレト「ヒューズ」ハ機會ヲ見テ他ノ全權ト共

ニ本問題ヲ考慮シ彼等ノ要求ニ關シ特別ノ陳述ヲ聞ク所アルヘシトイヘリ。提督ハ之ニテ満足セラルルヤ

「ビーテイ」提督然リ

議長。然ラハ之ヲ以テ今日ノ討論ハ終結ニ至リタリ。蓋シ吾人ニシテ一切ノ提議ヲ同時ニ論セムト欲スレハ、此等一切ヲ了知スルニ至ル迄ハ之ヲ爲スコト能ハサレハナリ

「ビーテイ」提督。提案ノ理由、根據ニ關スル吾人ノ質問ニ對シ何時回答ヲ入手シ得ヘキヤ

議長。該回答ハ目下急速準備セラレツツアリ「ブラッド」提督カ又ハ「クーンツ」提督カ應答セラルル所アルヘシ

「クーンツ」提督。該回答ハ準備セラレタレトモ未タ之ヲ檢査スルノ餘裕ナカリキ。吾人ハ之ヲ檢査シテ送付スヘシ議長。多分明日ナラン

「ビーテイ」提督。然ラハ吾人ノ爲シ得ルコトニ關シテ豫定ヲ立ツルコトヲ得。回答ヲ得ルハ明朝ナリヤ

「クーンツ」將軍。午前中ナリ

次テ次回會合ニ關スル打合セアリタル後會議ハ午後四時三十分閉會セラレタリ

註、十一月十七日午後第二回海軍分科會終了後極メテ内密ニ「ルーズベルト」海軍次官ハ加藤中將ヲ海軍省ニ招キ左ノ如ク述ヘタリ

勢力比變更ノ日本提案ニ對シ同意スルコト困難ナリ日本ノ勢力比ヲ十對六トセルハ主力艦ノ總噸數ヲ基準トシ其範圍ヲ(イ)現ニ海中ニアル總噸數(ロ)建造中ニアルモノハ進捗程度百分ノ比ヲ乘シタルモノトシ之ヲ合計比較セル結果ニ基クモノナリ

前記ノ算出法ハ完全ナルモノニアラサルモ比較的合理ノモノヲ採用セリ要スルニ米國案ハ主義トシテ現勢力維持主

義ヲ採リ國家安全主義ヲ採ラス之レ後者ニ據ルトキハ議論紛糾シテ容易ニ決定セサルヘケレハナリ而シテ算定ノ際ニハ日本ニ對シテ寛大ナル方針ヲ採リ殊ニ若干ノ増加ヲ *arbitrarily* ニ許シ百分ノ六十トナセルモノナリ之ニ對シ加藤中將ハ我修正案ニ就キ縷々要點ヲ説明シ日本トシテハ國家安全本位ノ點ニ對シ甚深ノ考慮ヲ加ヘサルヲ得サル旨ヲ述ヘ併セテ勢力比算定ノ方法ニ就キ訂正ヲ要スル點アリタル際ハ之ニ應セザルヤト尋ネタルニ彼ハ異論ナシト云ヒタルニ付キ然ラハ便宜協同研究スルモ可ナラント述ヘ會見ヲ終レリ

概説

第二款 日英米三國全權第一回會見ヨリ第二回會見迄

日英米海軍比率ノ問題ハ日米間ノ意見ノ齟齬大ニシテ海軍分科會ニ於ケル論議ハ第一款第三項ニ述ヘタル如ク不調トナリタルヲ以テ之ヲ全權間ノ問題トナシ三國全權會見シタルカ右ノ會見ニ於テ再ヒ此問題ヲ三國ノミノ専門家ノ審議ニ附スルコトトナリタル處之亦不調ニ終リ遂ニ「バルフォア」ノ加藤男來訪、三全權ノ再會見トナリ談判甚タ難澁ナリシカ加藤全權ハ本國政府ニ請訓ヲ約シ暫ク其回答ヲ待ツコトトナレリ

本款ノ材料ハ主トシテ電報ニ據リタルカ、全權ノ意見、政府ノ同訓等ハ註トシテ之ヲ附記シタリ

第一項 第一回三全權會見

第一回三全權會見

前款末項ニ於テ述ヘタル如ク専門分科會ニ於ケル討議徒ラニ雙方自説ヲ執ツテ對持スルノミナルヲ以テ之ヲ全權ノ議ニ附スルコトトナリタル處

加藤全權ハ「ヒューズ」ノ希望ニ基キ十一月十九日午後國務省ニ於テ「ヒューズ」「バルフォア」兩氏ト會合ス其會談ノ要領左ノ通り

「ヒューズ」今後モ種々ノ問題ニ關シ米英日ノ全權丈ケ今日ノ如ク會合シ懸案ノ進捗ニ資シタシ
加藤全權、「バルフォア」素ヨリ同意ナリ

次テ談ハ海軍制限問題ニ入りタルヲ以テ加藤全權ハ帝國ハ舊艦ノ多數ヲ廢棄シ建造中ノ主力艦ヲ殆ント全部中止スル提案ニハ賛成ナルモ勢力ノ比例ニハ修正ヲ希望スト述ヘタルニ

「ヒューズ」

海軍ノ勢力比ハ佛伊ニ付テモ定ムル必要アルモ先ツ米英日ノ勢力比ヲ先ニ定ムルヲ順序トスヘシト述ヘ「ヒューズ」ノ口

吻ニ依ルニ佛伊ノ勢力比ハ後ニ至リ同氏ヨリ指令的ニ提案スルノ意向ナル如ク想像セラレタリ次テ勢力比決定ノ基礎ヲ現存勢力ノ比例ニ於ケル點及之ニ準據セサレハ議論紛糾シテ制限協定ハ破壊ニ終ルヘキ點等ヲ縷々陳述シ應答ヲ求メタリ

之ニ對シ「バルフォア」ハ沈黙シテ述フル所ナカリシヲ以テ

加藤全權

七割必要論ノ由來ヲ述ヘ此意見ハ華府到着後ノ一時的立案ニ非スシテ我海軍ノ多年ノ研究ニ基ケルモノナルコト帝國議會ニ於テモ同様ノ趣旨ニテ應答シ且我國民モ希望スル所タリ何卒好意アル考慮ヲ煩シタシト述ヘタリ

「ヒューズ」

現勢力ヲ計算セルニ日本ノ勢力ハ多クハ四八又ハ五〇「パーセント」トナル如シ故ニ好意ヲ以テ之ヲ六〇トナセリ

加藤全權

現勢力比率ノ算定法ニ就キテハ余ハ充分ニ了解シ居ラサルモ我海軍ノ專門家ニ於テモ若干研究シ居レル如シ之ノ點ニ關シ雙方ノ專門家ヲ會合セシムルヲ便宜トセサルヤ

「ヒューズ」

米國ノ探レル現勢力算定方法ニシテ若シ誤リアリトシ他ノ正シキ算定法ニ依レル結果六〇ト異ナル場合起ラハ別ノ議論トナルヘシ要スルニ米國トシテハ現勢力比維持論ヲ強硬ニ主張セサルヲ得ス

英國全權ノ見ル所如何

「バルフォア」

海軍專門家ノ意見ヲ聽ク時ハ結局各國トモ大海軍ヲ要求スルニ歸着スルヲ以テ自分ハ專門家ノ意見ヲ聽カサル方針ナリ唯日本ノ主張ヲ英國ニ轉用セハ英ハ日ノ十倍以上ノ勢力ヲ必要トストノ議論ヲモナシ得ヘシ其結果ハ當然製艦競争ニ了

ルヘク當面ノ所置トシテハ成ルヘク議論ヲ避ケ進歩スルヲ可トス余ハ米案ニ全然賛成ナリ

加藤全權

專門家ニ諮問セハ各自大海軍ノ要求ニ終ルハ何レノ國モ同シ之ヲ取捨スルハ吾人ノ責任ナリ

「ヒューズ」

現勢力維持ノ主張ヲ破壊セララルトキハ協定成立セス日本ノ全權ハ本案ニ賛成出來サルヤ

加藤全權

御精神ノアル所ハ充分了解セルモ賛否ハ須ラク待タレタシ、順序トシテ雙方ノ專門家ヲ會合セシメ討議ヲ旨トセス寧ロ研究ノ趣旨ニテ算定法ニ就キ審議セシメタシ

「バルフォア」

英專門家ヲモ加入セシメタシ

加藤全權

至極同感ナリ

「ヒューズ」

至極賛成ナリ

以上ノ結果

二十一日(月曜)午後極東問題ノ委員會開催前「ヒューズ」自ラ三國ノ專門委員ヲ招キ親シク希望ノアル所ヲ陳述シタル後專門委員ノミ殘リ引續キ勢力比算定法ニ就キ研究スルコトトシ米ヨリ count 英ヨリ beauty 我ヨリ加藤中將ヲ出スコトトシ佛伊ヲ交ヘサル關係上佛伊ノ感情ヲ慮カリ可然「ヒューズ」ヨリ釋明シ置クコトトシ會談ヲ了レリ

要スルニ此日ノ會談ハ問題ノ範圍ハ自然ニ主力艦ノミニ限ラルル成リ行トナリタルヲ以テ他ノ艦艇ニ對シテハ論議スル機

會起ラサリキ

註 「チャットフィールド」少將ノ加藤海軍中將來訪

「チャット
フィールド」
少將ノ加藤
中將來訪

英國海軍委員「チャットフィールド」少將十一月二十九日午後六時頃私服ニテ加藤中將ヲ其ノ宿舍ニ訪問ノ要旨トシテ語ル所次ノ如シ只今在東京英國大使館附武官「マリオット」大佐ヨリ電報ヲ受領セリ之ニ依レハ日本言論界ニ於テ「ヒューズ」海軍制限案ニ對シ英米ハ事前ノ諒解アリタルモノナルヘシ否ラサレハ英國カ「ヒューズ」原案ニ同意スル筈ナシトノ說ヲナスモノ多ク爲ニ英國ニ對スル不平ノ感情高マリツツアリトノコトナルヲ以テ小官ハ之カ辨解ノ爲來レルモノナリ實際ニ於テ吾等ハ「ヒューズ」原案ノ發表以前ニ於テハ絕對ニ之ヲ知ラス十二日「ヒューズ」ノ演說ヲ聞キテ一驚ヲ吃シタルモノナリ若シ之ヲ豫知シ得タリトセハ貴官等ニ對シ沈黙シアリシ筈ナキナリ實情斯ノ如キヲ以テ可然御諒察アリタシ

右ニ對シ加藤中將ハ

貴官ノ主旨ハ克ク了解セリ英米間ニ何等諒解ナカリシハ吾等モ之ヲ認メタル所ニシテ此ノ旨ハ既ニ本國ニ電報セル所ナリ

ト答ヘ次テ話頭ヲ轉シテ目下日米海軍専門委員間ノ爭論タル比率問題ニ移リ大要左ノ左キ對話ヲナス

加藤中將

比率問題ノ爭點ハ現有勢力ノ計算法ニ歸着セルカ如シ元來 existing naval strength ナル term アルモノナリヤ

「チ」少將

左様ナル熟語ハ無シト思考ス

加藤中將

日米雙方ノ計算ノ結果ハ多大ノ懸隔アルハ現有勢力中建造中ノ艦船ヲ含ムヤ否ヤニ原因スルモノナリ貴官ノ所見如何

「チ」少將

日米間應答ノ覺書類ハ多大ノ興味ヲ以テ精讀シ居レリ日本カ「現有勢力」ニ對シ寧ロ執拗ナル態度ヲ以テ奮闘スルハ特ニ面白ク傍觀シ居ル次第ナリ元來本問題ハ英國ニトリテハ日本以上ニ之ヲ質問シ度キ所ナルモ比例問題ニ就テハ政治的ニ英米同等トナスニ同意シアル關係上吾等ハ質問ヲ控エアルナリ目下ノ日米ノ論爭ハ要スルニ見解ノ相違ニシテ何人モ其ノ優劣ヲ判定スルコト能ハサルヘシ

ト論シ更ニ廣キ勢力比ノ問題トシテ之ニ對スル一般所感ヲ述ヘテ曰ク

英國カ米國ト同等ノ海軍勢力ニ甘シスルハ重大ナル讓歩ニシテ英國ノ將來及英帝國ノ前途ニ對シ容易ナラサル影響ヲ來スモノナリ吾人ハ海軍軍人トシテ相當ノ主張アルモ右ハ政治家ノ決定セル事項ニシテ何トモ致方ナシ英國カ其ノ海軍力ノ優勢ヲ失フハ英帝國ノ滅亡ヲ意味スルナリ之ヲ歴史ニ徵スルモ西班牙和蘭ハ一度其ノ海軍兵力ヲ失ヒテ忽チ衰亡ニ向ヘルニアラスヤ英國ハ制限セラレタル此勢力ヲ以テ如何ニシテ其位置ヲ維持スルコトヲ得ヘケンヤ英帝國ハ米國ニ比スレハ勿論日本ニ比スルモ其ノ領土八方ニ分散シアルモノニシテ斯ノ戰艦ノ隻數ヲ以テ有事ノ際ニ敵ノ攻撃ニ備ヘントスルハ全然不可能ノコトニ屬ス

更ニ日本ニツキ之ヲ見ルニ米國ノ太平洋根據地カ現狀ニ止マル間ハ米國ノ保留スル戰艦十八隻ヲ以テスルモ日本ニ對シ攻勢作戰ヲ執ルハ容易ノ業ニアラサルヘク左程迄ニ日本カ憂慮危惧スル必要ナカルヘシ

加藤中將

「バルフォア」氏ハ米國計算法ヲ唯一最善ノモノナリト思考セラレ居ルモノナリヤ

「チ」少將

否「バルフォア」氏等ハ多忙ニシテ計算法等ヲ考フル暇モナク又其ノ興味モナシ

ト辯シ去レリ其ノ口吻ニ依レハ海軍委員ト全權トノ間ニ餘リ密接ナル連絡アリトモ見受ケ得サル關係ナルカノ如ク想像セラレタリ次ニ代艦建造問題其他ニ移リ加藤中將ハ代艦建造問題ニ對スル意見如何ト問ヘルニ

「チ」少將

十年間ノ造船休止ハ非常ニ苦痛トスル所ナリ造船技術者ノ養成設備ノ維持ヲ必要トスル關係上之ニ同意シ難シ先ツ各年ニ平均分布シテ造船ヲ繼續スルヲ可トスヘシ小官ノ見ル所ヲ以テスレハ米國原案ハ要スルニ精細ナル攻究ヲ遂ケタルモノニアラサルヘシ

加藤中將

潜水艦ニ關シテハ如何

「チ」少將

英國ハ原案ニ依ル潜水艦ノ制限ヲ尙低下センコトヲ希望ス英ノ主力艦ヲ斯ノ如ク減スルコトハ佛伊ノ潜水艦ニ對シ果斷的ノ削減ヲ前提トセサルヘカラス佛國海軍力ノ制限ヲ如何ニスルヤヲ知ラサルモ主力艦ニ於テ恐ラクハ四隻又ハ五隻トナルヘク其ノ潜水艦モ之ニ伴ヒ制限スルヲ要スヘシ攻撃武器タル主力艦ヲ減スル時ハ防禦武器タル潜水艦ヲモ減セサレハ均衡ヲ失スヘシ

代艦建造及潜水艦制限ノ二件ハ修正ノ希望ヲ以テ研究中ナルモ未タ全權ノ同意ヲ經タルモノニアラス勝敗ハ之ヲ豫知スルヲ得サルモ相當ニ強固ナル主張ヲナスヲ辭セサル考ナリ

加藤中將

問題ニ依リテハ我全權ノ同意アル場合ニ於テ英國側意見ノ或ルモノニ對シ我ハ相當ニ同意スルコトアルヘシ

「チ」少將

英國カ提案シ日本カ賛成スルコトナラハ大ニ便宜ヲ得ヘシ

ト結ヒ最後ニ今日ハ自分ハ比例問題ノ爲ニ來レルニアラスシテ電報中ニアル誤解ヲ辯センカ爲ニセル私用ニ外ナラスト繰返シテ辭シ去レリ

右ノ會談ニ於テ觀察推定セル事項ノ要領ヲ摘記スレハ左ノ如シ

主力艦比例問題

英ハ米ノ原案ニ同意ス從テ我主張ヲ特ニ支援スルカ如キ様子ナシ

代艦建造及潜水艦問題

英ノ相當ニ強固ナル修正意見ヲ有シ早晚之ヲ提案スヘシ

太平洋防備問題

若干論議セララル場合アルヘキヲ豫期スルカ如シ

英米同等ノ比例

英海軍多大ノ讓歩ニシテ心中大ニ不平ナルモ沈黙ヲ守ルモノノ如シ

第二項 日英米海軍専門家ノ會合(日米専門家間ノ質疑應答)

一、第一回會合

日英米海軍専門家
第一回會合

第一項ニ於テ述ヘタル十一月十九日ノ三全權會見ノ際ニ於ケル了解ニ基キ十一月二十一日午後三時三十分國務省ニ於テ「ヒューズ」バルフォア「加藤全權」「クーンツ」大將、加藤中將「チャップイールド」少將、「ブラット」少將及上田大佐會合スノ席上「ヒューズ」氏ハ

此處ニ諸君ノ會合ヲ願ヒシハ三國海軍軍事専門家ノ間ニ非公式ノ交渉ヲナシ相互ノ了解ヲ得ントスルニ外ナラス但シ何等專門委員會ノ權限ニ立入り又ハ佛伊ヲ除外スルト云フ意味ニ非ス唯此會議ノ實際上ノ進行ヲ助ケンカ爲ニシテ何等政策ノ問題ニ觸ルルコトナク單ニ採用セラレタル基礎事實ニツキ研究ヲ進メラレンコトヲ望ム差當リ補助艇其他ノ事項ヲ除キ主力艦ニ關スル問題ノミヲ考量セラレタシ抑モ米國原案ニ於テ現在勢力ノ噸數ヲ勢力比決定ノ基礎トナシ各國ノ國防上主張ヲ考量ノ外ニ置キタル理由ハ現在勢力ヲ以テ勢力比較ノ基準トナスニアラサレハ會議ハ纏ルモノニ

非サルカ故ニ之ヲ以テ海軍競争ヲ中止スル唯一ノ手段ナリト思考シタレハナリ此基礎事實ニ關シ諸君ニ充分ナル了解
アランコトヲ望ム

ト述ヘ「バルフォア」氏ハ「此基準ニ依リ日本ノ現在勢力幾何ナリヤ」米原案ニ依レハ日本ノ比ハ一〇對六ヨリ小ナリト聞
ク「トノ間ニ對シ「ヒューズ」ハ此基準ニ依リ日本ニ比率ヲ割當テタリト云フニアラス其勢力比ハ一〇對五位トナリシモ好
意ヲ以テ一〇對六ニ増加セル次第ナリト述フ

終テ海軍専門委員ノミ會合シ加藤中將ハ左ノ質問書ヲ「クーンツ」大將ニ手交ス

一、現在勢力ノ意義如何

二、米國計算ノ説明ヲ求ム

A 計算表

B 計算セル主力艦ノ艦名及噸數

C 建造中ノ艦ノ工程百分比率

三、米國力計算ニ使用セル各艦ノ排水量ハ何レヨリ取レルモノナルヤ

四、日英米ノ噸數ノ計上基礎ニ相違アルハ考慮ニ入レタルヤ

五、英ノ現在勢力ヨリ割出セル六十萬噸ノ根據如何

六、英米日ノ勢力比ヲ六〇—五〇—三〇萬噸トシ代艦ニ際シ五〇—五〇—三〇トナセル關係如何

以上ノ質問書ニ更ニ日本海軍委員ノ作製ニ係ル日米海軍勢力比表及陸奥現狀説明書ヲ添ヘ交付セリ（註參照）

註（一） 日米海軍委員質疑應答

十一月二十一日加藤海軍中將ヨリ「クーンツ」大將ニ手交セル質問書ニ對シ二十三日米國側ヨリ回答來リタルカ上田海
軍大佐ハ二十六日米國「ブラット」少將ニ面會シテ右米回答ニ對スル第二回ノ質問書ヲ交付シ之ニ對スル米回答ハ二十

日米海軍
専門委員
ニ於ケル
海軍現在
勢力ニ關
スル質疑
應答

八日接到セリ右往復セル質問及回答並ニ日本海軍委員作製日米海軍勢力比表及陸奥現狀説明書ヲ次ニ掲ク

QUESTIONAIRE

Delivered to American Naval experts by Vice-Admiral Kato on November 21, 1921.

1. Explain the meaning of "Existing Strength,"

2. Explain the following points regarding the calculation of strength:

(a) Formula of calculation.

(b) Names and tonnage of capital ships which have been taken into account.

(c) Percentage of completion of each capital ship under construction.

3. Explain the source from which the displacement tonnage of calculated ship has been taken.

4. Has the difference of basis in calculating the tonnage of the navies of Japan, Great Britain and the United States been taken into consideration?

5. Assuming that the tonnage shown in the ships date has been adopted without considering the difference of basis of calculation, the alteration of the agreed ratio will become necessary upon the determination of tonnage base. It is hoped that the above be taken beforehand into consideration.

6. Explain means by which the existing strength of British navy has been calculated at 600,000 tons.

7. Explain the relation between the replacement ratio of "60-50-30" and the existing strength ratio of "60-50-30" respectively of Great Britain, the United States and Japan.

COMPARISON OF NAVAL STRENGTH

Prepared by Japanese Naval experts.

	Great Britain	United States	Japan	Remarks.
Pre-Dreadnaughts Dreadnaughts Super-Dreadnaughts Ships under construction.	41 ships 967,850 tons 106 %	48 913,125 100	29 612,938 67	All capital ships are taken into consideration including Dreadnaughts, scrapped already, and "Fujin," "Sawo," "Iwami," and "Hizen" nearly equal strength to the "Maine" and ships under construction in percentage of completion.
B Dreadnaughts Ships under construction.	41 967,850 135	35 717,385 100	17 440,692 62	As Pre-Dreadnaughts are obsolete, they have not been included.
C Super Dreadnaughts Ships under construction.	28 723,650 132	27 549,735 100	14 380,742 73	From technical point of view naval strength should be compared by taking super dreadnaughts and subsequent ships.
D Pre-Ds Ds Super-Ds	41 967,850 133	33 728,390 100	25 532,816 73	1. In "A," "B," and "C," the ships under construction are included. In determining existing strength, however, generally these ships should not be included. In "D," "E," and "F," therefore, the ships under construction are excluded.
E Ds Super Ds	41 967,850 182	20 532,650 100	13 361,270 68	2. "Mutsu" is included because this ship is already completed.
F Super Ds	28 723,650 198	12 365,000 100	10 301,320 83	
Average of above per centage 147.7				This shows approximately 1/3 (Pre Ds) & 2/3 (Ds) & (Sup-Ds) & 1/2 (ship building)

PRESENT STATUS OF "MUTSU"

1. Launched: May 1920.
2. Official trials completed Oct. 24, 1921.
3. Installation of main and auxiliary batteries and all other armaments completed.
4. Entire complement of the ship aboard on active duty.
5. Actual mileage navigated for purpose of official trials, etc., up to the present 2,500 miles.
6. No further expenditure necessary for account of construction.
7. The reasons for not being as yet assigned as a completed ship in the Japanese Navy are as follows:
 - (a) The appropriation for account maintenance of the MUTSU has been granted as from December 1st, 1921.
 - (b) The educational year of the Japanese Navy commences on the first day of December, and this is fixed as the date of effecting re-organizations of squadrons. The formal assignments of new ships are determined to harmonize with these routines.

COMMITTEE OF NAVAL TECHNICAL ADVISORS

Washington, D. C.

November 23.

To: Naval Technical Adviser, JAPAN

There are forwarded herewith, by messenger and under seal, the following papers for which receipt on the attached card is requested.

ONE COPY "ANSWERS TO QUESTIONS ASKED ON NOV. 21st"

Very respectfully,
(signed) A. L. PRISTOL,

Commander U. S. Navy Secretary

MEMORANDUM

Questions asked by Japanese advisors at informal meeting, November 21, with answers.

I. Question—"Meaning of expression of existing strength?"

Answer—"The naval strengths of the United States, Great Britain and Japan were determined, and the resultant relativities arrived at as follows:

- (a) Naval strength has been measured by the capital ships under construction, and by those dreadnaughts and super-dreadnaughts completed.
- (b) As a preliminary basis for work, a known starting point was determined upon for ships under construction. This starting point was taken to be keels laid down by November 11, 1921. At this point of construction the actual process of putting a ship together to form an integral whole begins. At this point of time the Conference for a Limitation of Armament convened.

(c) Pre-dreadnaughts were excluded.

II. Question—(a) Summary of calculations.

- (b) List of ships used in the calculations and their tonnage.
- (c) Percentage of completion of capital ships now under construction.

Answer—(a) and (b)—(1) On the flat basis of keels laid, with tonnage estimated as completed, and governed by

(a), (b), (c) of 1, above.

UNITED STATES		JAPAN
MASSACHUSETTS	43,200	TOSA 42,250
IOWA	43,200	KAGA 42,250
NORTH CAROLINA	43,200	AKAGI 42,400
MONTANA	43,200	AMAGI 42,400
INDIANA	43,200	MUTSU 35,000
SOUTH DAKOTA	43,200	NAGATO 35,000
WEST VIRGINIA	32,600	HITOGA 32,750
WASHINGTON	32,600	ISE 32,750
KOLORADO	32,600	YAMASHIRO 32,000
LEXINGTON	43,500	FUSO 32,000
CONSTITUTION	43,500	KIRISHIMA 28,450
CONSTELLATION	43,500	HARUNA 28,450
SARATOGA	43,500	HI-YEI 28,450
RANGER	43,500	KONGO 28,450
UNITED STATES	43,500	SETSU 21,400
MARYLAND	32,600	
CALIFORNIA	32,300	

TENNESSEE	32,300		
IDAHO	32,000		
MISSISSIPPI	32,000		
NEW MEXICO	32,000		
ARIZONA	31,400		
PENNSYLVANIA	31,400		
OKLAHOMA	27,500		
NEVADA	27,500		
TEXAS	27,000		
NEW YORK	27,000		
ARKANSAS	26,000		
WYOMING	26,000		
UTAH	21,825		
FLORIDA	21,825		
DELAWARE	20,000		
NORTH DAKOTA	20,000		
Totals	32	1,118,650	15
Ratio	100%		45%
			504,000

(a) and (b)—(2) Although Great Britain has not laid the keels of her four new HOODS, and Japan has not laid

the keels of the TAKAO and the ATAGO, they have spent money on all. In order to be entirely fair, therefore, these ships were included in the lists of their respective nations, with the consequent increase in their relative strengths.

When this was done the tonnage measure of naval strength between the United States and Japan was as follows:

United States		1,118,650
Japan...		588,800
Ratio, United States	100%, Japan	53%.

(c)—As the ratio indicated above might possibly be questioned on the basis that all capital ships laid down were not equally advanced in process of construction, the United States then determined to proceed further and to take as a basis for computing tonnage the percentage of completion of various building programs. After careful investigation, the following percentages for capital ships now under construction were adopted. These include hulls, engines, ordnance and armor:

COLORADO	88%	MASSACHUSETTS	39%
WASHINGTON	88%	DENINGTON	62%
W. VIRGINIA	82%	CONSTELLATION	55%
S. DAKOTA	54%	SARATOGA	56%
INDIANA	48%	RANGER	46%
MONTANA	53%	CONSTITUTION	45%
N. CAROLINA	58%	UNITED STATES	34%
IOWA	51%		

On this basis the tonnage allowance of United States ships building is 346,374 tons.

The United States estimate of construction of new capital ships gave Japan 109,392 tons. (This includes the MUTSU which the United States counted as 98% completed).

The Japanese consider the MUTSU as completed and give the following percentages of completion for the remainder of their capital ships under construction:

KAGA	66%
TOSA	66%
AMAGI	35%
AKAGI	35%

This makes a total of 79,422 tons of ships under construction according to Japanese measurement.

On the basis of 11 (c) and using list 11 (b), on which naval strength is measured, the relativities are as follows:

(1) The American estimate of Japanese strength:

United States		Japan
Ships Building	346,374	109,392
Ships Built	500,650	299,700
Total	847,024	409,092
Ratio	100%	49%

(2) American estimate of American strength and Japanese estimate of Japanese strength:

United States	Japan
---------------	-------

United States		Japan
Ships Building	346,374	83,330
Ships Built	500,650	334,700
Total	847,024	418,030
Ratio	100%	49%

(3) Japanese estimate of American and Japanese strength:

United States		Japan
Ships Building	184,735	83,330
Ships Built	500,650	334,700
Total	685,385	418,030
Ratio	100%	60%

NOTE: In the tables as given under (2) and (3), the MUTSU is included, as of the Japanese tables, as being completed, and the Japanese tonnage of incomplete capital ships as given in their memorandum is raised to conform to the American standards of measurement of tonnage.

In any plan involving a drastic cut in capital tonnage, it is the opinion of the American authors that naval strengths cannot be measured by super-dreadnaughts alone. Strengths should be measured in terms of dreadnaughts and up. A dreadnaught is considered a major ship whose main battery is composed of guns of the same caliber and not less than 12."

III. Questions—What is the course of information regarding the tonnage of capital ships?

Answer—British lists corrected to American standards of measurement.

IV-V. Questions—Were any differences in methods of calculating tonnage of navies of Great Britain, Japan and the United States taken into consideration?

Assuming tonnage shown in ships has been taken and calculated for on different basis, will it not be necessary to get a uniform tonnage to make the calculations?

Answer—The different methods of estimating tonnage values were carefully considered by our Bureau of Construction and Repair. Each ship was carefully gone over and made to reconcile with the American list so that ships of all three navies, United States, Great Britain, Japan, were on the same basis for estimating capital ship tonnage.

VI-VII. Questions—Method by which the existing strength of the British Navy of 600,000 tons plus was arrived at.

If we have given a ratio of 60, 50 and 30 by tonnage in the three navies, why in replacement change it to 50, 50 and 30?

Answer—The war conditions caused Great Britain to suspend her building program. In consequence her ships are relatively older in type than those of the United States and Japan. This fact was considered in allotting her 600,000 tons for the present, but the standard allotted her on replacement was 500,000 tons.

QUESTIONS AND JAPANESE OPINION CONCERNING THE REPLIES

RECEIVED FROM AMERICA.

Delivered to American Naval experts by the Japanese naval experts on November 26, 1921.

1. In the first question Japan requested an explanation of the definition of "the existing naval strength." The American reply does not touch upon the main point of this question, and we wish to request again for full explanation.

Japan is unable to recognize as existing naval strength the uncompleted ships which can in no way be counted as fighting units.

2. In the American interpretation which includes dreadnaughts and super-dreadnaughts in calculating existing strength, and excludes pre-dreadnaughts, there exist the following contradictions:—

(a) In the original proposal of Mr. Hughes of November 12th, pre-dreadnaughts are included as capital ships. In the general principle (D), it is stated that capital ships are used as the measurement of strength for navies. Later on, under the sub-heading, "Capital Ships," the old and new ships to be scrapped are indicated. In paragraph 2 it is stated that the old ships to be scrapped by the United States are 15, and their total tonnage is 227,740 tons. This includes the MAINE and other 12 pre-dreadnaughts, as well as MICHIGAN and SOUTH CAROLINA. There is no question, therefore, that the original proposal of the United States includes these pre-dreadnaughts in calculating existing strength.

3. In determining the strength of ships under construction, the percentages of progress of work differ widely from the monthly reports of construction work issued by the U. S. Navy.

Kindly explain these differences.

(TABLE)

4. Kindly explain in detail the calculation of the relative strengths of the United States and Great Britain.

COMMITTEE OF NAVAL TECHNICAL ADVISORS

Washington, D. C.

28 November 1921.

To: Naval Technical Advisor, JAPAN.

There are forwarded herewith, by messenger and under seal, the following papers for which receipt on the attached card is requested:

Two memoranda. "Replies to Question."

Very respectfully,

(signed) A. L. BRISTOL.

Commander, U. S. Navy, Secretary.

MEMORANDUM

Reply to the questions and the Japanese opinion concerning the replies received from the United States.

1. From the United States point of view, "existing naval strength" is measured by the tonnage of capital ships built and building.

The American advisors cannot admit the argument made by the Japanese advisors, that they do not recognize as naval strength uncompleted ships. If no naval strength existed in these ships, there would be no sacrifice of naval strength by scrapping them. This is manifestly, on the face of it, not so. The United States does sacrifice an enormous naval power by scrapping their fifteen ships which are being built.

2. With reference to Paragraph 2 of the Japanese opinion, it is the conviction of the American advisors that no contradictions exist. In no place in the United States original proposal is it stated that pre-dreadnaughts were used in determining existing naval strengths. The American advisors feel that naval strength should not be

measured by the inclusion of pre-dreadnaught tonnage. However, for the further information of the Japanese advisors, the attached tables are submitted.

3. Regarding Paragraph 3 of the Japanese opinion, the estimates of the American advisors do differ from the reports of construction work issued by the Bureau of Construction and Repair, as these reports include hull construction alone. The estimate submitted by the American advisors in their previous memorandum is the exact estimate of percentages of completion of U. S. ships building, submitted by the three Chiefs of Bureaus, Construction, Steam Engineering and Ordnance. This report was made to the advisors before the Conference met November 12th, 1921.

4. Regarding Paragraph 4 of the Japanese opinion, when the U. S. and Japan were asked to scrap their building program. Great Britain was asked to scrap her program of four Hoods. Also, Great Britain was asked to scrap the following ships, in addition to the pre-dreadnaughts already scrapped:

Orion,	23,550	St. Vincent,	20,000
Thunderer,	23,550	Collingwood,	20,000
Monarch,	23,550	Bellerophon,	19,300
Conqueror,	23,550	Temeraire,	19,300
Princess-Royal	27,300	Superb,	19,300
Lion,	27,300	Australia,	19,400
Agincourt,	28,000	New Zealand,	19,400
Neptune,	20,725	Colossus,	20,825

Hereules,	20,825	Indemitable,	17,750
Inflexible	17,750		

Total. 411,576 tons.

The answer of the preceding memorandum, taken with the answer in this paragraph, is believed to be sufficiently explicit.

MEMORANDUM

I Although pre-dreadnaughts are not considered by the U. S. Naval Advisors in estimating naval strength, the Japanese have submitted a table including the pre-dreadnaughts. This table includes the FUJI, laid down in 1896 and over 20 years of age from date of completion. Also the SHIKISHIMA, completed in 1900 and over 20 years of age.

II On the above basis, the American Naval Advisors deem it fair to add those existing pre-dreadnaughts of the United States over twenty years of age, but still in existence. They are:

Iowa,	11,345 tons
Illinois,	11,550 tons
Kentucky,	11,520 tons
Oregon,	10,280 tons
Ohio,	12,500 tons
Wisconsin,	11,550 tons
Total. (6)	68,745 tons

III On the basis of American estimate of American strength and Japanese estimate of Japanese strength:

	United States	Japan
Ships building,	346,374	83,330
Dreadnaughts built,	500,650	334,700
Pre-dreadnaughts,	296,483	214,496
	1,143,509	632,526

Ratio	100%	55%
-------	------	-----

IV American estimate of American strength and Japanese estimate of Japanese strength, excluding American ships over 20 years of age from American estimate of strength, and including Japanese ships over 20 years of age in Japanese estimate:

Ships building,	346,374	—	83,330
Dreadnaughts built,	500,650	—	334,700
Pre-dreadnaughts,	227,740	—	214,496
	1,074,764	—	632,526
Ratio,	100%		59%

V Using the Japanese formulas, $\frac{1}{3}$ (Pre-dreadnaughts) $\frac{2}{3}$ (Dreadnaughts) (Super-dreadnaughts) $\frac{1}{2}$ (Ships Building), and raising Japan tonnage to American measurement.

UNITED STATES

$\frac{1}{3}$ Pre-dreadnaughts (MICHIGAN and down)...	...	...	...	93,828
$\frac{2}{3}$ Dreadnaughts (WYOMING to NORTH DAKOTA)...	...	...	...	90,435
Super-dreadnaughts (TEXAS to MARYLAND)	...	...	...	365,000
$\frac{1}{2}$ (Ships building) (COLORADO to RANGER)	...	...	...	173,174
Total	...	...	...	727,437
Ratio	...	...	...	100

JAPAN

$\frac{1}{3}$ Pre-dreadnaughts (AKI and SETTSU down)...	...	...	...	71,499
$\frac{2}{3}$ Dreadnaughts (SETTSU)...	...	...	...	14,266
Super-dreadnaughts (including MUTSU completed as per Japanese tables)	...	...	...	313,500
$\frac{1}{2}$ (Ships Building)	...	...	...	41,665
Total	...	...	...	440,730
Ratio	...	...	...	.605

THE DEGREE (%) OF COMPLETION OF THE U. S. CAPITAL SHIPS UNDER CONSTRUCTION

Name of Ship	Date Launched or keel laid	June 1	July 1	Aug. 1	Sept. 1	Oct. 1	Nov. 1.
COLORADO	x 1921-3-22	73.1	75.4	77.1	78.4	80.7	ESTIMATES By U. S. 88.0 By Japan 80.0
WASHINGTON	x 1921-9-1	65.	67.3	68.8	69.3	69.7	88.0
VIRGINIA	x 1921-11-19	2.3	1.7	1.3	2.3	7.3	70.0
S. DAKOTA	1920-5-15	54.1	57.0	59.3	61.0	62.5	82.0
INDIANA	1920-11-1	2.9	2.3	1.7	1.5	19.5	62.0
MONTANA	1920-9-1	30.5	32.2	32.8	34.1	34.6	54.0
N. CAROLINA	1920-1-12	1.7	29.8	1.3	31.2	32.5	38.0
IOWA	1920-5-17	28.	26.1	0	27.3	27.6	48.0
MASSACHUSETTS	1921-4-4	1.8	1.4	0	1.3	15.5	32.0
LEXINGTON	1921-1-3	24.4	26.1	0.7	27.3	25.4	53.0
CONSTELLATION	1920-8-18	32.3	35.8	0.7	36.5	36.6	58.0
SARATOGA	1920-9-25	3.5	0.3	0.4	0.1	21.4	35.0
RANGER	1921-1-23	23.	29.8	28.3	29.0	29.5	51.0
CONSTITUTION	1920-9-25	6.4	8.6	10.4	10.4	10.4	30.6
UNITED STATES	1920-9-25	33.3	8.0	0.7	0.5	20.5	11.0
		18.5	21.1	23.1	24.2	26.5	62.0
		2.4	2.0	1.1	1.3	36.5	24.0
		10.5	11.5	12.5	13.3	14.5	59.0
		1.0	1.0	0.8	1.2	44.5	10.0
		22.4	24.2	25.6	27.4	28.4	56.0
		1.8	1.4	1.8	1.0	27.6	29.0
		1.8	2.0	2.2	2.5	2.7	46.0
		0.2	0.2	0.3	0.2	43.3	3.0
		7.7	9.2	10.4	10.7	11.1	45.0
		1.5	1.2	0.3	0.4	33.9	11.0
		7.7	9.2	10.2	10.4	10.7	30.0
		1.5	1.0	0.2	0.5	19.3	11.0

NOTE: x Shows date launched and others, keel laid.

二、第二回會合

日英米三
國海軍專
門委員會
第二回會
合

日英米三國海軍專門委員會第二回會見ハ十一月三十日午前十時汎米會館ニ於テ行ハレタリ
出席者 米國 「ルーズベルト」海軍次官 「クレーンツ」大將 「ブラット」少將
英國 「チャトフキールド」少將 「ドンビル」大佐 「リットル」大佐
日本 加藤中將 山梨大佐 末次大佐 上田大佐 小松囑託

先ツ「ルーズベルト」議長席ニツキ「本日迄日米兩國間ノ論議ノ結果トシテ兩國意見ノ相違ハ(一)日本委員ハ建造中ノ噸數ヲ現有勢力ニ加フヘカラストノ見解ヲ有スルコト及ヒ(二)加藤中將カ聲明セル國家ノ安全ノ爲メニ一〇對七ヲ必要トストノ二點ニ對シ吾人ハ此ノ何レモ本小委員會ノ決定權限以外ニ屬スト認ムル故全權委員ノ下ニ移牒スルヲ適當トス」ト述ヘ次テ英國「チャトフキールド」少將ニ對シ米國原案ニ對スル意見ノ發表スヘキモノアラハ述ヘラレンコトヲ求ム

「チャトフキールド」少將ハ「英國委員ハ今日迄何等言フ所ナク唯日米兩國間ノ計算ノ基礎ヲ注視シ來リタルモノナルカ今日ト雖何等發表スヘキ意志ヲ有セス只強テ軍事專門家トシテノ意見ヲ述ヘンニ凡ソ軍事專門家ハ孰レモ心中他國ニ比シヨリ大ナル比率ヲ得タシトノ希望アルヘク又歸國後同僚專門家ヲ満足セシムルニ足ルノ材料ヲ有セサルヘカラストノ共通の觀念ヲ有スルモノナリ「ヒューズ」案カ十一月十二日提出セラルル迄ハ吾等ハ何等關知セサリシ所ナルモ只該原案カ吾人ノ意見ト一致シタルカ故ニ之ニ同意セル次第ナリ吾人ハ世界ノ大勢ヨリ考量シテ米國提案ヲ承認セルモノニシテ五、五、三ノ比率ハ正當ニシテ是レニ優レル比率ヲ得ルコト困難ナリト思考ス要スルニ計數上ノ論議ハ永久ニ終結スルコトナカルヘシ吾人ハ世界ノ現狀ニ顧ミテ之ヲ丸吞ミセルニ過キス

英國カ米國ト五、五ヲ又日本ト五、三ヲ承認シタルニ關シテハ英國ハヨリ多キ危險ヲ冒セルヲ信スルモノナリ想フニ海軍勢力ヲ減少スルハ戰爭ノ可能性ヲ減スルヲ意味シ又三國間ノ相互距離關係等ヲ見ルニ之ニ依リ從テ防禦勢力ヲ減少スルモ可ナリトノ結論ニ到達スヘシ若シ又勢力比率ヲ「國家ノ安全」ヨリ論スレハ英國ハヨリ以上ノ勢力ヲ求メタルナルヘシ蓋シ

日米間ノ狀況ハ英國カ世界ノ各地ニ屬領ヲ有スルニ比シ遙カニ有利ノ地位ニアルヲ以テナリ原案ニ依ル比率ヲ承認スルハ各國共ニ危險ヲ伴フモノニシテ英帝國カ既ニ此比率ノ承認ヨリ起ル危險ヲ忍フ以上他國モ同様ノ危險ヲ忍ハルコトヲ望ムハ敢テ差出口ナラサルヘシト述フ

議長ハ更ニ三國間ノ主力艦勢力比ニ付キテハ全權ニ移牒スヘキヲ宣シ加藤中將ハ日本海軍専門委員ノ最後ノ意見トシテ註二、トシテ掲ケタル所ヲ宣明シ尙本問題ヲ全權委員ニ移牒スルニ對シ同意ノ旨ヲ述フ議長ハ三度ヒ本問題ヲ全權委員ニ移牒スヘキ旨ヲ宣シ閉會セントシタルカ加藤中將ハ一ツノ「サゼスジョン」ヲナスヘシトテ左ノ如ク述フ「勢力比率問題ハ全權委員間ノ決定ニ移サルヘキモ尙比率問題ト並行シ本小委員會ニテ協議スヘキ幾多重要問題ノ存スルヲ以テ曩ニ議長ノ述ヘタルカ如ク各國ノ提案ヲ纏メ比率問題ノ解決ヲ待ツコトナク小委員會ヲ召集シ速ニ其ノ審議ヲ續行セラレタシ議長ハ之ニ同意シ「チャトフキールド」ハ日米間ノ問題決定スルニ非ラサレハ會議ヲ續行スルモ無益ナルヘシト言ヘルニ對シ議長ハ本問題ハ極メテ速ニ落着スヘシト答ヘ閉會ス

加藤全權
ノ比率
ニ對シ
訓スル所アリタリ

註(三) 比率問題ニ關シ海軍専門家ニ於テ審議シツツアル際加藤全權ハ十一月二十三日付ヲ以テ我態度ニ付テ左ノ通り請

一 會議ハ連日開會。會議指導ノ方法。急速進行ノ形勢其他周圍ノ空氣ニ徴スルニ成ヘク速ニ之ヲ纏メ或ハ年内ニ終結セント欲スルノ意向カトモ觀測セララル海軍縮少ニ關シテハ米國ノ輿論ハ非常ナル注意ヲ拂ヒツツアル所日本ハ既電ノ通り修正案ヲ出シアルヲ以テ茲ニ種々ナル議論ヲ惹起シツツアル有様ナリ國務長官ニ於テハ成ルヘク速ニ之ヲ決定シ本會議ニ之ヲ報告シ海軍制限ノ商議圓滿ニ進行シツツアルコトヲ一般ニ知悉セシメントノ意強固ナルモノアリト認ム現ニ過日國務長官ノ希望ニ基キ「バルフォア」本官ト三人會見シタル際國務長官ノ話ニヨレハ公式ノ委員會等ニ於テ意見ヲ交換スル場合ハ徒ニ紛糾ヲ來シ終ニ會議ヲ苦境ニ陷ラシムルヤモ計ラレサルヲ以テ三大海軍國ノ我等三人ハ時々非公式且打明ケタル談話ヲ試ミ依テ以テ大體ヲ決定シ續テ佛伊兩國ノ海軍力ニ關スル方針ヲ決定セントスル方此重大問題解決ノ爲メ好都合ナラン

トノ意見ナリシヲ以テ他ノ二人ハ直ニ之ニ賛成シタル次第ニテ海軍制限ハ之ヲ他ノ問題ト切放シ成ルヘク速ニ決定スルノ方針ヲ採リツツアリト思考セララル就テハ今後一々我探ルヘキ態度ニ關シ請訓ノ邊ナキヤモ計リ難キニ付左記第一案ノ貫徹ニ極力努力シ止ムヲ得サレハ情勢ニ應ジ第二案若クハ第三案ニ依リ萬止ムヲ得サル最後ノ場合第四案ヲ承認スル事トシ機宜處置シ得ル様致度大至急電訓ヲ乞フ

一、我提案ヲ固執スル事

二、割合ヲ十對六、五前後トシ陸奥ヲ加フル事

三、割合ヲ十對六トシ陸奥ヲ加フル事

四、米國提案通リトスル事

右ハ交渉ノ結果互讓主義ニヨリ如是場合ヲ生スルヤモ計ラレサルヲ推測シ本官一己ノ意見ヲ列舉シタルモノナリ

我提案ヲ成立セシムルニ最善ノ努力ヲナスヘキハ勿論又假リニ米案ノ根本主義タル現勢力ヲ基礎トスル主義ニ據ルモ我専門家ノ研究ニヨレハ米對日主力艦噸數ノ比米案ヨリ大ナル「バーセントリー」トナルヲ以テ我方ニ於テハ相當論スヘキ理由アルモ同時ニ米國側ニテモ兎角ノ理由ヲ述フヘシト認ムルヲ以テ終ニハ互ニ讓リ合セテ何レカノ點ニ落着スヘキ場合生セストモ計ラレス今回ノ會議ヲ全局ヨリ見ル時ハ前記何レノ點ニ於テ我態度ヲ決スルニセヨ海軍制限問題ヲ以テ米國ト衝突シ之ヲ不成立ニ終ラシムル場合英米ノ意見今日已ニ一致シアル以上全責任ハ我日本ニ於テ之ヲ負ハサルヘカラサルニ至ルハ火ヲ賭ルヨリモ瞭カナリ故ニ大局ヨリ見テ衝突ヲ避クルコト絶對ニ必要ナリト思考セララル

他三全權同意ナリ

又當地ニアル我代議士新聞記者等ニハ我提案ヲ固執スヘシトスルモノト極東問題ニ不利ナル結果ヲ來サンコトヲ恐レ米案ニ直ニ贊スヘシトスルモノト二者アリ御參考迄ニ附記ス

二 右加藤全權ノ請訓ニ對シ十一月二十八日政府ハ左ノ通り同訓シ來レリ

御來示ノ如ク海軍制限問題ニ關シ英米特ニ米國ト衝突ヲ避クルコト必要ナルニ付飽迄和衷の態度ヲ持シ我提案ヲ貫徹スル
様全幅ノ御努力アリタク若シ已ムヲ得サル場合ニ於テモ貴案第二、十對六、五ニシテ之ニ協定スル様努メラレ度ク閣下ノ
御盡力ニ拘ラス尙四圍ノ情勢ト大局ノ利益ノ爲讓歩ノ已ムヲ得サル事態ナリ貴案第三ニ落着カサルヲ得サル場合ニハ太
平洋防備ノ減縮又ハ少クトモ現狀維持ノ了解ヲ確保シ以テ米國艦隊ノ太平洋ニ於ケル集中活動力ヲ減殺シ之ト均勢ヲ保チ
十對六ニ協定シタル意ヲ明ニシ得ル途ヲ十分取り置ク様努メラレタコト第四ハ出來得ル限り避ケラレタシ

註(四) 大正十年十一月三十日英米三國海軍專門委員會會合席上ニ於ケル加藤中將ノ聲明

一、日本全權加藤男爵ハ第一回總會ニ於テ大體ニ於テ米國原案ニ賛成シ海軍兵力ニ大削減ヲ行フノ決心アルコトヲ示スト
同時ニ原案ノ審議ニ當リテハ國家ノ安全ニ重キヲ置カサルヘカラサルコトヲ述ヘ原案ノ噸數「ベース」ニ若干ノ修正ヲ要求
スヘキコトヲ聲明セリ次テ海軍委員ヲシテ第一回分科會ニ於テ國家安全ノ見地ヨリ最小限七割以上ノ比率ヲ必要トスルコ
トヲ言明セシメタリ

此要求ハ「ヒューズ」原案ノ冒頭ニアル各國ノ利益ノ安全ヲ保障スト云ヘル精神ニ照シ至當ノ要求タルヲ信ス

其後日英米三全權ノ會合ニ於テ「ヒューズ」カ五・五・三ノ比カ現有勢力ヲ基礎トセルモノニシテ之ヲ變更スルハ原案ヲ破
壞スルモノナリト主張セルニ對シ加藤全權ハ飽迄國家安全主義ヲ棄テサルモ會議ノ進捗ニ資スル爲ニ三國專門家ヲシテ純專
門の見地ヨリ現有勢力ニ付互ニ研究ヲ交換シ審議ヲ盡サシメンコトヲ提議シ茲ニ本會議ヲ見ルニ至リシ次第ニシテ日本ノ
根本主張タル國家安全ノ見地ヨリスル最小限七割ハ本審議ノ結果ニ依リ左右セラルモノニ非サルコトヲ茲ニ言明ス

二、現有勢力ナル言葉ニ對シテハ各國共通ノ定義ナシ故ニ之ヲ計算セントセハ先以テ此定義ヲ一定セサルヘカラス然ラサ
レハ計算ノ是非ヲ論スルモ無益ナリ之カ爲日本委員ハ屢現有勢力ノ定義ニ關シ米國委員ニ質問セル處米國ノ回答ハ定義其
モノニ非スシテ唯自家ノ計算法ヲ示スニ過キサリシハ吾人ノ遺憾トスル所ナリ

米國委員ノ回答ハ單ニ米國ノ見解ニ從ヘハ現有勢力ハ既成努級艦及建造中ノ主力艦噸數ニ依リ之ヲ計量スト云フニ過キス

之ニ對シ日本委員ノ見解ハ現有勢力トハ現ニ存在セル海軍勢力ニシテ未タ戰闘航海ニ堪ヘス海軍勢力トシテノ何等ノ威力
ヲ發揮スルノ能力ナキ未成艦ハ之ヲ現存勢力トシテ認ムル能ハスト云フニ在リ

米國力建造中ノ艦船ヲ廢棄スルコトニ依リ多大ナル費用ノ犧牲ヲ辭セサルノ至誠ハ大ニ日本ノ諒トスル所ナリ之レ日本カ
亦多大ノ犧牲ヲ拂ヒ其ノ建造中ノ艦船ヲ廢棄スルニ欣然同意セル所以ナリ

然レトモ此犧牲ヲ現有勢力計算ノ考慮ニ入ルル米國委員ノ見解ハ現在勢力ニ對スル日本委員ノ見解ト絕對ニ相容レサルモ
ノナリ

兩國ノ採用セル各項目ニハ若干ノ相違アリト雖最後ノ結果ヲ左右スル最大原因ハ主トシテ此點ニアリ兩國ノ見解ニシテ斯
ル根本的相違アル以上兩國ノ計算ヲシテ一致セシムルハ殆ト不可能ナリ

三、日本委員ノ見解ニ依レハ現有勢力ノ算法ニ三種アリテ左ノ結果ヲ得タリ

	U.S.A.	Japan
	日式分類	米式分類
(1) Pre-Dr., Dr., Sup. Dr.	100%	76%
(2) Dr., Sup. Dr.	100%	70%
(3) Sup. Dr.	100%	86%

(註)「ヒューズ」原案ノ主旨ヲ尊重シ艦齡20以上ノ戰艦ヲ除ケハ(1)ノ方法ニ依ル日本ノ比率69%ハ68%トナル前記(1)ハ
「ヒューズ」原案ヲ正當ニ解釋スレハ現有勢力トシテ前努級艦ヲモ計上スルヲ至當ナリトスル日本委員ノ見解ニ基キ現有
勢力ヲ計算シタルモノナリ(2)ハ米國ノ見解ニ從ヒ前努級艦ヲ除キ現有勢力ヲ計算シタルモノナリ(3)十二吋砲ヲ有スル艦
カ超努級艦ト共ニ第一線ニ立ツノ資格ナキハ海軍專門家ノ一般ニ認ムル所ナルヲ以テ之ヲ除キ超努級艦ノミヲ取リテ現
有勢力ヲ計算シタルモノナリ

以上孰レノ計算ニ從フモ日本ノ現有勢力ハ米國ノ約七割若クハ其レ以上ヲ有ス
日本専門委員ハ海軍専門家トシテ其ノ超勢級艦カ米國ニ對シ百分比八六ヲ有スルノ事實ニ基キ主力艦ノ現有勢力ハ米國ニ
對シ優ニ七割以上ヲ有スルコトヲ確信ス

四、之ヲ要スルニ米國ノ提案ニ依ル五・五・三ノ比ハ米國専門家カ自家ノ見解ニ基キ任意ニ計算シタル數字ニ過キス日本
専門家ノ算法ニ依レハ日本ハ約七割若クハ其レ以上ヲ有ス故ニ米國ノ計算ノ基礎カ眞ニシテ日本計算ノ基礎カ眞ナラサル
コトカ證明セラレサル限リ五・五・三ノ比ヲ現有勢力ノ正確ナル計測トシテ承認スルコト能ハサル所ナリ

前出 加藤中將聲明書英文

November 30, 1921.

1. At the Second Plenary session of the Conference, Baron Kato, as Plenipotentiary Delegate for Japan, expressed his approval of the American proposal in general, and made a declaration of his determination to carry out a drastic reduction in naval armaments. At the same time, he stated that, in making a more detailed study of the proposal, it would be necessary to take into consideration the question of national security and that certain modifications in tonnage basis will be proposed later.

At the first meeting of the sub-committee on Limitation of Armaments, the Chief of the Japanese Naval Experts, acting under instruction of Baron Kato, declared that the ratio of 70 per cent for Japan is deemed absolutely necessary. This demand, we believe, is in accord with the spirit of safeguarding the interests of all concerned, as expounded in the preamble of the original Hughes' proposal.

Subsequently, at a meeting of three delegates representing Japan, United States and Great Britain, Mr. Hughes argued that the ratio of 5.5 and 3 is based upon existing strength and that any modification will mean

destruction of the original proposal. In response Baron Kato stated that it would not be possible for him under any circumstance to set aside the principle of national security. To facilitate progress of the Congress, however, he proposed that the experts of the three nations should be instructed to exchange with each other the results of their investigations concerning existing strength, and to make a most careful study from purely technical viewpoint. It was in this manner that these meetings have been called, and consequently it must be understood that the main contention of Japan for the minimum of 70 per cent, based upon her national security, is not to be affected by any result of these meetings.

2. Concerning the term "existing strength," there is no common definition among the different navies. In order to calculate the existing strength, therefore, it is necessary, first of all, to define the exact meaning of this term; otherwise it would be quite useless to argue concerning correctness of any calculation. For this reason Japan has asked American experts, time and again, for a definition of existing strength, but, to their regret, the American replies failed to define the term and gave simply the method by which their calculations were made. The reply of the American expert was that according to their viewpoint, the existing strength is measured by the tonnage of dreadnaughts, built and building. On the other hand, the Japanese experts hold that by existing strength is meant the naval force now in being and in existence, and that it is impossible to recognize as existing strength the uncompleted ships, which are unfit for navigation and naval battle, and which have no capacity for rendering account as fighting units.

Japan appreciates the sincerity of the United States, manifested by her willingness to sacrifice great expenditures by scrapping her ships under construction. It is for this reason that Japan has joined most heartily to make

the great sacrifice of scrapping her own ships under construction. But the opinion of the American experts, that these sacrifices should be taken into consideration in calculating the existing strength, is opposite to the opinion held by the Japanese experts. It is true that there are some differences also, in minor elements, but the chief factor effecting the final result lies on this point. So long as such wide differences exist in their fundamental viewpoint, it would be most difficult to arrive at an agreement in their calculations.

3. According to the opinion of Japanese experts, there are three methods of calculating existing strength, and the following are the results:

(For details, see the separate table.)

	U. S. A.	JAPAN	
		JAPANESE Classification	AMERICAN Classification
(1) Pre-Dr. Dr. Sup-Dr.	100%	76%	69%
(2) Dr Sup-Dr.	100%	70%	67%
(3) Sup-Dr.	100%	86%	86%

NOTE: If battleships of over 20 years are eliminated in accordance with Hughes' original proposal the Japanese percentage in (1) will be 68 per cent.

In (1), existing strength is calculated upon the basis of Japanese understanding of the original Hughes' proposal, i. e., correct interpretation of Hughes' proposal should include Pre-Dreadnaughts in existing strength.

In (2), existing strength has been calculated by eliminating Pre-Dreadnaughts in accordance with American experts' opinion;

In (3), existing strength has been calculated on the basis of tonnage of Super-Dreadnaughts. The ships with 12 guns have been eliminated because it is generally recognized by naval experts that these ships are not qualified

to be placed in the first line with Super-Dreadnaughts.

In any one of the above calculations, the existing strength for Japan is either about or over 70 per cent as compared with existing strength for United States.

Japanese naval experts are convinced that the existing strength for Japan is easily over 70 per cent in view of the fact that their super-dreadnaughts possess strength of 86% as compared with those of United States.

4. In summing up: The ratio of 5, 5, and 3, as proposed by United States represents simply the figures calculated by American experts according to their own view-point. According to the calculations of Japanese experts, Japan has the strength of about or over 70 per cent. In view of the above, unless it is proved that American basis of calculation is correct and Japanese basis of calculation is incorrect, it would be impossible for the Japanese experts to approve the ratio of 5, 5, and 3, as the correct estimation of existing strength.

COMPARISON OF NAVAL STRENGTH

	UNITED STATES		JAPAN	
	Japanese Classification	American Classification	Japanese Classification	American Classification
1 Pre-Dreadnaughts Dreadnaughts Super-Dreadnaughts	33 ships 728,390 t. 100%	39 ships 797,135 tons 100%	25 ships 550,250 t. 76%	25 ships 549,196 t. 69%
2 Dreadnaughts Super-Dreadnaughts	20 ships 532,650 t. 100%	18 ships 500,650 tons 100%	13 ships 375,020 t. 70%	11 ships 334,700 t. 67%
3 Super Dreadnaughts	12 ships 360,000 tons 100	10 ships 313,300 tons 86		

Remarks: If battleships of over 20 years are eliminated in accordance with Hughes' original proposal, the Japanese percentage in will be 68%.

第三項 「バルフォア」加藤全權來訪

「バルフォア」加藤全權

第二項ニ於テ述ヘタル如ク日英米三國海軍専門家ノ會合結局失敗ニ終リタル結果十二月一日英國全權「バルフォア」ハ加藤全權ニ會見ヲ求メ來リ同日正午加藤ヲ其ノ旅館ニ訪問セリ「バ」氏ハ非常ニ憂慮ニ堪エサルカ如キ様子ニテ「海軍専門家ノ意見遂ニ一致ヲ得ル能ハサリシ趣ナル處モシ此問題ニ關シ協定ヲ得サル時ハ海軍制限ハ全部破壞ト覺悟スルヲ要シ其結果ハ四國協商、極東太平洋問題ニモ影響スヘク何トカ之ニ對シ考慮ヲ加ヘサルヤ」ト述ヘ加藤全權ハ之ニ答ヘテ「余ハ昨日海軍専門委員ヨリ不一致ニ了レル旨ノ報告ニ接シ苦心シツツアル處ナリ専門の見地ヨリノ議論ハ姑ク措キ他ノ方面ヨリ本件ニ對スル所見ヲ述ヘント前置シ、本來七割ハ我海軍ノミノ案ニ非ス議會ニ於テモ之ヲ聲明シ國民亦之ヲ支持シツツアル政治的意味ヲ有スル數字ナリ故ニ政府ニ於テ此數字ニ變更ヲ加ヘント欲セハ何トカ之ニ相當ナル理由ナカルヘカラス然ルニ一方「ヒューズ」氏カ會議劈頭提案セシ處ヲ聞キシ時ハ其ノ大英斷ニ驚クト共ニ大體其ノ主張ニ賛成セサル可カラストノ決心ヲ起セリ於茲直ニ同僚及専門家ニモ此意見ヲ述ヘ本國政府ニモ自己ノ意見ヲ具申シテ本案ノ成功ニ勉メツツアリ從來日本ノ官民間殊ニ議會ニ於テ海軍計畫ニ對シテモ一モ反對意見ヲ聞カサリシモ大戰ノ結果歐米各國ノ狀態ニ變化ヲ來タシ各國民何レモ重キ負擔ニ苦シミ軍備縮少ノ聲盛ナルニ及ンテ右ハ日本ニモ影響シ昨年來軍備縮少論ヲ聞クニ至レリ今春米國聯合通信員ヨリ二三ノ質問ニ接シタル際余ハ海軍制限ハ贊成ナリ列國協定ノ下ニ於テナラハ八八艦隊亦削減シテ可ナリト聲明シ今回モ此精神ヲ以テ會議ニ臨メリ斯ノ如ク米國提案ニ對シテハ出來得ル限り是等成立ニ努力スル考ヲ以テ今日迄進ミ來リシモノニシテ米國提案ノ主眼タル建造中ノ新艦並舊艦ノ廢棄ニハ已ニ賛成シ比例問題ハ第二段ノ比較的小問題タルニモ拘ラス専門家間ノ意見ニ一致ヲ見サリシハ遺憾ニ堪ヘス

假リニ余カ米國案ニ賛成シタリトシテ其結果ヲ考フルニ日本國民ハ日本ノ讓歩ハ米國ノ壓迫ニヨルモノト觀シ余ニ對シ攻撃的態度ヲ執ルト共ニ米國ニ對シテ反感ヲ懷クニ到ルヘシ蓋シ日米兩國民間ノ感情ハ多少疎隔シタル形跡アリタルモ今春來融和ノ徵候アリ之余ノ最喜フ所ニシテ今回ノ會議ニ來ルニ付テモ會議以外日米兩國國民ノ感情ヲ良好ナラシムルコトヲ以

テ一ノ任務ト心得タリ諸種ノ問題ヲ論議スルニ當リ此念虛片時モ余ノ念頭ヲ去ルコトナシ然ルニ海軍制限ニ關シ兩國新聞紙等ニ於テ相互論難スルモノ出テ延テ兩國國民ノ感情ヲ疎隔セシムルカ如キ事態ハ余ノ最モ憂慮シ之カ防止ニ苦心スル所ナリ余ニ對スル國民ノ攻撃ハ余ニ於テ全責任ヲ負ヒ辭職スレハ解決スヘキモ兩國民間ノ感情ノ疎通ニハ何ノ資スル所ナシ、而モ此海軍制限ハ是非成立セシメサル可カラス

以上種々ニ考慮ヲ巡ラシ如何ニ此問題ヲ解決スヘキヤニ付日夜苦心セリ此點ニ關シ高致ヲ得ハ幸ナリト述フ

「バ」氏ハ曰ク「自分ハ政治家トシテ長キ經驗ヲ有シ國民ノ感情ニ對シテハ考慮セサル可カラサルコトハ能ク之ヲ了知セリ御苦心ニ對シテハ同情シ又貴意ノ存スル所充分ニ了解シタリ然レトモ米國提案ニ對シ細目ニ渡リテハ論議餘地幾多存スルモ要スルニ大局ヨリ見テ事ヲ決セサル可カラス、本件解決ノ爲メ御意見アラハ及ハス乍ラ盡力致サン」

加藤全權ハ「バ」氏ノ申出ニ對シ直接返答スルコトヲ避ケ此海軍制限トハ別問題ナルモ茲ニ政府及國民ノ希望スルコトアリトテ太平洋島嶼防備ニ話頭ヲ進メ之ヲ説明シ其現狀維持ノ必要ヲ説キ(第五章、太平洋島嶼防備問題ノ項參照)之ヲ聽タル上若シ本件カ何等カノ形ニ於テ協定ヲ得ハ海軍制限ニ關シ國民ニ對スル説明ノ一端トナルヤト問ヘルヲ以テ加藤全權ハ「然リ」ト答ヘタリ

「バ」氏ハ「委細了解シタリ、此ノ話ハ「ヒューズ」ニ傳ヘテ宜シキヤ」ト問ヘルヲ以テ加藤全權ハ差支ナキ旨ヲ答フルト共ニ陸奥問題ヲ忘レサル様念ヲ推シタルニ「バ」氏ハ之ヲ忘レサルモ極テ困難ナルヘシト答ヘ辭去セリ

防備問題ニ關シテハ「バ」氏ハ非常ナル注意ヲ以テ更ニ陸奥ニ關シ「同艦ハ事實上竣工シ余ノ出發前已ニ工費ハ悉皆仕拂艦長以下乗員全部充員シ航海ヲモ行ヒ今日ヲ以テ艦隊ニ編入サレタリ之ヲ破壊スルハ余トシテ我國民ニ對シ爲シ得サル所ナリト語レリ」

加藤全權
ノ意見
中見具

註、(一)加藤全權ハ以上會議ノ要領ヲ報告スルト共ニ次ノ如キ意見ヲ政府ニ具申セリ

今回ノ米國案ヲ研究スルニ其基礎トスル所ノ現在勢力ノ解釋ニ於テモ吾専門委員ノ述フルカ如キ不合理ト認ムル點アレ

トモ新聞ノ論調ニヨリ考フルニ米國側トシテハ未成艦十五隻ニ對シ已ニ數億ノ資金ヲ投シタルヲ以テ國民ニ對シ此點ヲモ考慮ニ加ヘ現在勢力ニ加算シタリト認メラル又英國ニ對シテハ彼ヲシテ反對セシメサランカ爲メ種々苦心セル形跡モアリ如斯シテ米國案ハ完全ナル案トハ認メ難シト雖モ「バ」氏カ自分ハ専門家ノ意見ヲ聞カス世界ノ平和、戰爭ノ豫防、製鐵競争防止、國民負擔輕減等ノ見地ヨリ米國案ニ對シ種々意見アルニモ拘ラス之ヲ云ハス大局ヨリ見テ大目的ヲ達スルカ爲メ之ニ賛成スル外ナシト意見ナルニ見ルモ形勢ノ一班ヲ窺フニ足ルヘク又英國ハ自國國防上ノ見地ヨリ日本勢力ノ増大ヲ好マサルヤニモ察セラルル嫌アリ從テ六割ヨリ増加スルヲ好マス又新艦陸奥ノ復活ヲモ好マサルモノト察スル理由アリ故ニナシ得ル限り大局論ヲ以テ吾ニ臨ミ米案ニ賛成セス七割論主張ハ案全部ノ破壞ヲ來スモノナリト云フ如キ極端論ヲ以テ吾ヲ壓迫シ米案ニ賛成セシメントスルモノト信セラル依テ我提案ノ固執ハ非常ニ困難ニシテ本問題ノミニ止マラス他ノ問題ニモ惡影響ヲ及ボサルヤヲ虞ルル次第ナリ但シ先方ハ陸奥ヲ復活セシメ攝津ヲ削除スルノ案ヲ提出シ來ルヤモ知レス又南洋諸島防備制限ニ關シテハ別電ヲ以テ愚見具申ス(第五章 太平洋島嶼防備問題ノ項參照)

本報告起草後佐分利參事官ヨリ聞クニ「ハンケー」氏ハ同官ニ對シ今日「バ」氏ハ「ヒューズ」氏ニ右會見談ヲ極メテ詳細ニ縷陳シタル所南洋防備問題ニ付テハ「ヒューズ」氏ハ感興ヲ惹キシモノノ如ク之ヲ同僚全權ト相談スヘシト云ヒシモ陸奥ニ關シテハ承諾困難ナル模様アリシトイフ念ノ爲附記ス

全權ノ意
見具中

註、(一)右ノ具申ニ相前後シテ帝國全權ハ左ノ意見ヲ政府ニ具申セリ

過般來ノ各種報告ニ依リ米國官民ノ對日感情ハ御知悉ノコトト存スルモ之ヲ綜合シテ觀察スルニ今回ノ會議ニ對シテハ米國當局ハ帝國ノ立場ニ對シ出來得ル限り同情的態度ヲ採リ居ルモノノ如ク例ヘハ會議開催後從來輿論ノ傾向ニ反シ極東問題ヲ第二位ニ置キ直ニ軍備制限ノ問題ノ審議ニ着手シタル如キ日英米ノ海軍勢力比ヲ定ムルニ當リ何等日英同盟ニ基ク連合勢力ニ論及セザリシ如キ、將又極東問題ニ對スル「ルート」其他米委員ノ態度ノ如キ總テ我方ノ感情體面ヲ傷ケサラムコトニ苦心シ居ル如ク觀察セラル又當地方新聞紙ノ論調ヲ見ルニ「ハースト」系ノモノヲ除キ今日迄ハ概シテ帝國

ニ對シ友好的態度ヲ採リ居ルコト近年見サル所ナリ之ニ反シ支那ニ對シテハ米國當局ハ勿論新聞紙ニ於テモ豫想外ニ冷淡ナル態度ヲ採リ最近支那側カ頻リニ宣傳ヲ開始シタルモ反響甚タ渺キ様認メラル

前記ノ如ク米國官民ノ對日感情融和ハ喜フヘキ現象ナルモ右ハ主トシテ今回ノ會議ヲ成功セシムトスル意ニ基クモノト思ハル隨テ米國人ノ性僻ニ顧ミ會議進行上何等不快ノ出來事生スルニ於テハ右態度ハ俄然トシテ急變スルコトナキヲ保セス目下當國官民トモ最モ注意ヲ集中シ居ルハ海軍勢力比ニ對スル日本側ノ態度ニシテ専門委員會ノ經過ヲ注視シ居ル處十對七說ヲ我方ニ於テ主張セルコト發表セラレシ以來當然輿論ハ一時動搖セムトセシモ米國側ノ決心堅キト英國政府カ米國案ニ賛成セシトニ依リ結局日本側ニ於テ讓歩スルコトト確信シ居リ比較的冷靜ニ其ノ結果ヲ待チ居ル様子ナリ而シテ米國及英國當局ノ本件ニ對スル態度ニ關シテハ既報ノ如ク「ヒューズ」、「バルフォア」加藤三全權會見ノ際ニ於ケル「ヒューズ」、「バルフォア」ノ態度ヨリ察スルモ本件ニ關シテ英國側ハ米國ト全然意ヲ同シウシテ日本側ニ當ルノ決心ヲ有スルモノノ如ク殊ニ十一月三十日海軍專門委員會ニ於テ英國委員「チャトフィールド」少將カ爲シタル陳述ノ如キ英國側ニ於テハ益々露骨ニ米國ヲ支持シテ日本案ニ反對ノ態度ヲ表ハシ來リタリ此上日本側ニ於テ尙七割ヲ固執シ殊ニ我新聞言論界ニ於テ之カ爲メ各種ノ宣傳盛ニ行ハルルニ至ラハ米國官民ハ失望ノ結果必ス前記ノ友好的態度ヲ變シテ我ニ不利ナル形勢ヲ惹起スヘキノミナラス是迄會議ノ内外ニ於テ友好的態度ヲ採リ來リタル英國側モ亦其態度ヲ變シテ米ト共ニ我ヲ壓迫スルノ方針ニ出ツル虞レアリ形勢一度此ノ如クナラムカ今回ノ會議ヲ失敗ニ歸セシムルノミナラス將來海軍競争ヲ惹起シテ我ハ結局六割以下ノ率ニ下ルヘキハ勿論帝國ハ將來國際上全ク孤立ノ地位ニ陥リ或ハ我ニ對抗シテ英米支佛間ニ堅キ提携ヲ生スルコトナキヲ保セス實ニ現下ノ狀態ハ帝國ノ將來ニ取リ禍福ノ決スル分岐點トモ見ラルヘク誠ニ憂慮ニ堪ヘス又昨今七割論者ハ我新聞言論界等ノ指導ニ着手セル形跡アルモ前述ノ如キ狀態ニ在ルニ拘ハラス此際國論ヲ大勢ニ逆行シテ沸騰セシムルニ於テハ早晚帝國政府ハ内外極メテ困難ナル立場ニ陥ルヘク懸念ニ堪ヘサルヲ以テ輿論ノ指導上特ニ此點御留意ヲ仰キタシ

第四項 第二回三全權ノ會見

第二回三全權會見

第三項ニ述ヘタル「バルフォア」トノ會見ノ翌日十二月二日「ヒューズ」ヨリ加藤全權ニ會見ヲ求メ來リ同全權ハ國務省ニ於テ「ヒューズ」「バルフォア」兩氏ト會見討論ニ時間餘ニ渡リタルカ其要旨左ノ如シ

國務長官ハ「バルフォア」加藤會見談ヲ直接加藤全權ヨリ聞キタシト云ヒ出テ加藤全權ハ前日「バルフォア」ニ述ヘタルト大體同様ノ事ヲ陳述シ之ニ加フルニ現在勢力ノ解釋ニ關シ我専門委員ノ意見適當ナル所以ヲ敷衍陳述シ又陸奥ノ既ニ竣工セル事情ヲ述ヘ之ヲ復活スルノ必要ナル理由ヲ説明シ其結果生スル七割ノ比率ハ不當ニアラサルヘキ理由ヲ陳陳セリ是ニ於テ「ヒューズ」ハ加藤全權ノ意見ハ能ク了解セリ各方面ノ間ニ處スル御苦心ニ對シテハ同情ヲ表ス殊ニ日本國民ニ對スル御苦心ニ對シテハ特ニ同情ヲ表ス此場合自己ノ立場ヲモ説明シタキヲ以テ聞カレタシト前置シ左ノ通り述ヘタリ

「貴下カ國民ニ對シ多數建造中ノ新艦及舊艦ヲ廢棄シ之カ爲メ國民ヲシテ不快ノ感ヲ抱カシムルニ付テハ自分モ同様ノ立場ニ在リ十五隻ノ建造中ナル主力艦、既ニ之カ爲メ三億弗以上ヲ投シタル之等新艦ヲ廢棄スルハ自分ノ國民ニ對シ最も苦痛トスル所ナリ此困難ナル事情ヲ日本國民ニ御話下サルナラハ日本國民ハ恐ラク我國民ニ對シ惡感ヲ抱クコトナカルヘシト信ス議論ノ爲ニ云フニアラサルモ現在勢力ノ意義ニ付テ申サハ日本ハ未成艦ヲ除外スル理由トシテ直ニ戰艦航海ニ堪ユルモノニアラサレハ之ヲ現在勢力ト認メ難シト主張セラルルモ自分ノ考ニテハ未成艦ト雖ハ〇又ハ九〇「パーセント」ノ工程ヲ了リタルカ如キモノハ二三週若クハ二三ヶ月中ニ戰艦ニ參加シ得ル勢力タルハ當然ノ事ナリ又竣工セル軍艦中ニモ或ハ數週間或ハ數ヶ月間修理ヲナササレハ戰艦航海ニ堪ヘサル老船等ノアルコトハ事實トシテ各國同様ナリト信ス故ニ三億弗以上ヲ費シタル十五隻ノ未成戰艦ヲ廢棄セントスル際之ヲ現在勢力ヨリ除外スルハ到底自分ノ國民ニ説明シ得サル所ナリト云ヒテ屢々十五隻ヲ繰リ返ヘシタリ又陸奥ハ工程九十八「パーセント」トナシ之ヲ未成艦ニ算入シタリ

又國家安全論ヨリ見ルニ米國ハ東西南太平洋ニ面シ理論的ニ申サハ其ノ艦隊ハ兩分スルモノナル點ヲ考フレハ日本ハ有利

ノ地位ニ在リト云フヘク又人口富力其他種々ノ點モ考慮ニ加フルノ要アルヘシ例ヘハ英國ハ歐洲ノ列強ノ中ニ伍シ且ツ全世界ニ殖民地ヲ有スルヲ以テ日米兩國ヨリモ遙ニ有力ナル勢力ヲ必要トストノ議論ヲ生シ得ヘシ右ノ次第ナルヲ以テ國家安全論ヲ基礎トシテ今回ノ目的ニ對スル案ヲ立テントスレハ復雜ナル議論ヲ生シ纏マリ得ヘキ見込ナシ依テ現在勢力ヲ基礎トシテ立案セル次第ナリ」茲ニ於テ加藤全權ハ次ノ通り答ヘタリ

御話ノ點ハ了解セリ國民ノ感情ニ對スル御説得尤モナルモ現ニ米國ノ新聞論調ヨリ見レハ或一部ノ新聞ヲ除ク外「ヒューズ」案ニ賛成ナルカ故ニ此點御心配ナキヤニ思ハル又「ヒューズ」氏ノ立場ノ困難ナル事情ヲ我國民ニ了解セシメントスルモ我國情ノ異ナル爲メ之ヲ了解セシムル事頗ル困難ナリ現在勢力論ニ至テハ専門的ニ論スレハ多クノ意見ヲ有ス然シ今御述ヘニナリシ建造中ノ新艦ヲ現在勢力ニ加フル理由ニ至テハ了解スル能ハス我専門委員ノ意見ヲ適當ト認ム舊艦中數週間又ハ數ヶ月間修理ヲ加ヘサレハ戰艦航海ニ堪ヘサルモノアルヘシトノ實際論ニ至テハ斯カル艦ナシト斷言シ得サルモ事實上老艦ハ今回多數廢艦トナルニ付御話ノ如キ場合ハ甚タ稀ナリト考フ兎ニ角竣工シアルモノノミ勢力ニ加算スルハ何レノ國モ斯クナシツアル所ナリ故ニ此論ハ大ナル理由トナラスト考フ國家安全論ニ至テハ主義トシテ此意見ヲ放棄スル能ハス唯此場合此問題ニ對シ論議スルヲ避ケントス又陸奥ハ既成艦ナリ

ト述ヘタル所其際「ヒューズ」ハ日本ノ立場ヲ了解セリ自分ノ意見ハ御了解下サレシト思フ、就テハ英國ノ意見ヲ聞キタシト述フ

是ニ於テ「バルフォア」ハ「ヒューズ」氏ノ論調ヲ加藤中將ニ對シ述ヘタルト大體同様ノ意見ヲ述ヘタルカ特ニ此際英國側ヨリ初メテ聞キタル意見トシテ「バルフォア」ハ五、五、三ヲ以テ適當ト信スル旨述ヘ此比ヨリスル三國ノ關係ヲ考フルニ一番危險ヲ感スルモノハ英國ニシテ一番安全ナルハ日本ナリト信ス殊ニ若シ四國協商ニテモ成立セハ日本ハ益々安全ノ地位ニ在ルヘシ英國ハ歐洲列強ノ間ニ介在シ全世界ニ互リ殖民地ヲ有スル關係アリ最も危險ヲ感スル次第ナリトノ意味ヲ述フ

「バルフォア」ノ陳述了ルヤ「ヒューズ」ハ「バルフォア」ノ意見ニハ極メテ同感ナリト云ヒ更ニ言葉ヲ轉シ加藤全權カ「ヒューズ」ノ意見ニ對シ述ヘタル意見ニ對シ同氏ハ前言ヲ繰返ヘシ殊ニ建造中ノ十五隻ヲ廢棄スル件ハ數回繰返ヘシタリ之ニ對シ加藤全權モ前言ヲ繰返ヘシ數回應酬シタルモ押問答果テシナシ依テ加藤全權ハ要スルニ意見ノ不一致ニ期ス押問答ヲ繰返ヘシテモ效果ナシト述ヘタル所「バルフォア」ハ憂慮ニ堪ヘサル態度ヲ以テ口ヲ開キ目下新聞紙ニハ種々ナル憶測多シ此問題ヲ解決セサレハ他ノ何物ニモ進ムヲ得ストノ意見ヲ述ヘ「ヒューズ」ハ自分モ新聞ノ論調ニ付テハ注意ヲナシ其國民ニ對スル影響ニ付テ心配シツツアリ加藤男ノ意見ノ様ニテハ此問題不成立ニ終ルヤヲ恐ル然ルトキハ四國協商モ其他ノ問題モ如何ナル結果ヲ來スヘキヤ憂慮ニ堪ヘス故ニ加藤男ハ何トカ返答セラレタシト述ヘタリ

加藤全權ハ之ニ對シ「此問題ニ付テハ其根本主義タル建造中ノ軍艦及舊艦ヲ破壞スルコトニハ已ニ同意シアリ故ニ米國案ノ骨子ニ異存ナシ唯比例其他ニ付テ多少ノ修正ヲ希望スルニ過キス此修正意見ハ日本ニ取り重大問題ナリ故ニ獨斷的ニ何等ノ返答ヲナス能ハス」ト答ヘタリ

「ヒューズ」ハ容ヲ正シシレテハ困ル故何トカ途ヲ取ラレタシト申出ツ依テ加藤全權ハ更ニ意見ヲ具シ請訓セント云ヒシニ其時彼ノ態度ハ多少變化スルニ至レリ

本會議中「ヒューズ」ノ語ル間ニ「バルフォア」ハ時々首肯贊意ヲ表シ「バルフォア」ノ語ル間ニ「ヒューズ」亦同様ノ態度ヲ示シタリ更ニ「ヒューズ」ハ南洋防備問題ニ言及シ加藤全權ニ向ヒ貴見ハ「バルフォア」氏ヨリ承知セリ此問題ハ日米兩國限リノ問題ニアラス英佛其他東洋ニ關係アル凡テノ國ト共ニ協議スヘキ問題ナリ但シ其内ニハ日本本土ヲモ含ムト笑ヒ故ニ此問題ニ付テ協議セントスル時ハ自分ハ之ニ應スル準備アリト述ヘタルニ對シ加藤全權ハ大體論ニ付テハ論シ得ルモ未タ詳細論ニ入ル準備ナシト答ヘ態々深入スルヲ避ケタリ是ニ於テ「バルフォア」ハ防備ノ件ハ四國協商ニ關聯シ研究シテ然ルヘシト述フ之ニ對シテハ「ヒューズ」答ヘス本問題ハ是ニテ打切リトナレリ

註、(一)右會見ノ模様ヲ報告スルト共ニ加藤全權ハ次ノ如キ意見ヲ政府ヘ電報セリ

加藤全權
ノ請訓

今日ノ會見ノ結果ヨリ考フルニ英米ハ極力同一歩調ヲ採リ殊ニ「バルフォア」カ未タ一回モ公言セサリシ十對六ヲ至當ナリトスル態度ニ出テタルハ注意スヘキ點ト認ム我現在勢力ノ主張ニ對スル「ヒューズ」ノ意見ハ同意シ難シト雖モ最早此以上論議スルモ畢竟同一ノ事ヲ繰返ヘスニ過キサルヘシ依テ此場合何トカ返答セサルヘカラサルノ窮地ニ陷レリ付テハ左記ニ關シ至急何分ノ御訓令ヲ乞フ

一、我主張ヲ飽ク迄固執スヘキカ

二、全然米案ニ同意スヘキカ

今日トナリテハ最早折衷案ヲ提出シ若クハ論議スルハ策ノ得タルモノニアラスト信ス故ニ右何レカニ決スルノ外ナシ假リニ一ノ如ク決スルトセハ其及ホス影響トシテ英米兩國ノ當事者ヲシテ非常ニ失望セシムルハ勿論兩國國民ハ我態度ニ對シ攻撃ノ矢ヲ放チ日米兩國間ノ感情ハ終ニ惡化スルニ至ルヘキヲ恐ル

又現ニ論議中ノ諸問題ニ付テ考フルニ英佛ハ勿論米國モ比較的好意ヲ以テ我ニ對シツツアルノ感アルモ是レニモ大變調ヲ來スヘシト思ハル故ニ國防上ノ見地ヨリ假ニ我目的ヲ達シ得タリトスルモ全局ヨリ見テ果シテ我國家ニ對シ利益ナリヤ否ヤハ大ニ攻究ヲ要スルモノアリ二ノ通り決シタリトセハ英米ノ我ニ對スル感情ハ良好トナラサル迄モ惡化スル事ナカルヘシ唯我國民ノ輿論ハ我提案ニ對シ強硬ナル態度ヲ採リツツアリト察セラルルヲ以テ非常ナル落膽ト激昂ヲ來ス虞ナキヤ其結果日米兩國間ノ反感ヲ生スルノ虞ナキヤ

右ノ次第ナルヲ以テ曩ニ請訓ノ上御指令アリシモ如何ニモ事重大ニシテ内外四圍ノ狀況ニ鑑ミ當方限リニテ決定スルノ不穩當ナルヲ認ムルヲ以テ更ニ請訓スル次第ナリ今日迄ノ處余ノ微力ナル我目的ヲ達成シ得サリシハ慚愧ニ堪ヘサルモ大勢如何トモ致難シ先方ニ返事ノ必要アリ且當國新聞ハ種々ナル揣摩憶測ヲナシ此上ノ遷延ハ有害無益ト認ムルヲ以テ大至急電訓ヲ乞フ但シ二ノ通りニ決定セラルルニシテモ陸奥ノ工程九十八「バーセント」ナリト云フニ對シテハ我主張ヲ繰返ヘシ例ヘハ攝津ヲ犠牲トシ陸奥ヲ復活スル件ハ尙論議スル心算ニシテ其必要ヲ認ム防備問題ハ別電ニ依ル全權一同同意

二、然ルニ一ノ稟申竝ニ防備問題ニ關スル加藤全權ノ意見ニ對シ政府ハ左ノ通訓令セリ

海軍比率問題ハ太平洋防備問題及四國協商問題ト最モ密接ナル關係ヲ有シ二者共ニ頗ル重大ナル問題ナルニ鑑ミ帝國政府ハ貴國御來示ニ基キ慎重審議ヲ盡シタル處十對七ノ勢力比ハ帝國々防安全ヲ確保スルニ絶對必要ナリトシテ我方ヨリ主張セラレタル次第ナルモ米國ニ於テ飽ク迄「ヒューズ」案ノ比率ヲ固執シ英國又之ヲ支持スル以上ハ我ニ於テ右主張ヲ貫徹スルコト殆ント望ナシト考ヘラルルヲ以テ此際大局ノ利害並ニ協調ノ精神ヨリシテ米國提案ノ比率ニ同意スルノ外ナシ然ルト雖モ之カ爲我國防上生スヘキ不安ニ對シテハ別ニ適當ナル方策ヲ立テ且國民ニ安心ヲ與フルノ途ヲ講セサルヘカラス此見地ヨリシテ比率問題ニ關シ我承諾ヲ與フルニ先チ別ニ申進スヘキ趣旨ニ依リ太平洋諸島防備ノ現狀維持ヲ提議シ我目的ヲ達成シ得ル様極力御盡力アリタシ元來太平洋防備問題ハ米國ヨリ會議ノ提唱アリタル當初ヨリ帝國政府ニ於テ特ニ重キヲ措キ我國論ニ於テモ本問題ノ成行ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ル次第ハ閣下御承知ノ通ニシテ今回會議ノ主要目的タル軍備競争ヲ防止セントスル精神ヨリ云フモ將又太平洋ニ於テ恒久平和維持ノ目的ヲ以テ今ヤ四國協商ヲ締結セントスル狀勢ニ鑑ミルモ本問題ノ提唱ハ事體當然ノコトニ屬ス殊ニ海軍兵力ノ制限ヲ實行セントスル以上ハ其ノ運用ニ密接ノ關係アル諸島ノ防備ニ對シテモ現狀ニ止ムルノ約定ヲ爲スコト至當ト云フヘク太平洋諸島ニ關シ平和維持ノ目的ヲ以テ四國協商ヲ設ケ若クハ兵力ノ制限ヲ約スルモ若シ各國競ヒテ此等諸島ノ防備ニ腐心スルカ如キ狀勢ヲ招クノ虞アル以上ハ我國國民ニ於テモ容易ニ承服シ難カルヘキハ勿論華府會議本來ノ使命ニ副フ所以ノ途ニ非サルヘシ從テ此點ヨリ云フモ我ヨリ防備ノ現狀維持ヲ主張スヘキ十分ノ論證アリト思考ス尙攝津ヲ犧牲トシ陸奥ヲ復活スルノ件ニ付テハ全力ヲ盡サレンコトヲ希望ス

（第五章太平洋防備問題第一節第二項參照）

本邦輿論ノ操縱

註（一）此間軍備制限問題ニ關スル本邦輿論ノ操縱ニ付テ次ノ如ク外務大臣ヨリ來示アリタリ

當方輿論ノ趨勢及ヒ其指導ニ關シ考フル處ニ付キ左ニ其大要ヲ申進ム

海軍制限ニ關スル帝國ノ輿論カ他ノ對外問題ニ對スルト同シク硬軟兩派ニ分レタルハ勢ノ自然ニシテ當方ニ於テハ全權ノ

折衝ヲ後援スルノ趣旨ニ依リ兩派ヲ適宜ニ指導シ來リタルカ而カモ國民ノ多數ハ軍備制限協定ノ成立ヲ熱望シ居ルコトハ爭フ可カラサル事實ニシテ出來得ヘクンハ有利ナル比率ノ協定成立センコトヲ希望スルハ勿論ナルモ英國既ニ米國ノ原案ヲ支持シ我國ノ七割主張著ルシク不利ニ陥レリト傳ヘラルルヤ何等カノ妥協ニ依テ速ニ協定ヲ了センコトヲ希望シ居ルモノノ如シ然レトモ事々ニ對外硬ヲ主張スルハ七博士一派ノ國策研究會及ヒ曩ニ特別情報ヲ以テ屢々報シ居タル國民聯合會ノ如キ動モスレハ極端論ニ走ラントスル傾向アルヲ以テ之レヲ放任シ置クノ不得策ナルヲ思ヒ直接間接是等團體ト接觸ヲ保チ適宜指導ヲ與ヘ居ル次第ナリ一般ノ新聞ノ論調及ヒ記事ハ萬朝、國民、大和等二三ノ例外ヲ除キ寧ロ極端ナル軟論ニ陥ラントスル傾向ヲ示シ居リ又在貴地特派員ハ頻々トシテ日本ハ結局讓歩スヘシト云フカ如キ通信ヲ送り來リ居ルヲ以テ電報ノ材料ヲ是等諸新聞ニ求ムル外國通信員ハ當方ノ形勢ヲ其儘貴地ニ傳フルニ於テハ帝國全權ハ國內ノ輿論ヲ無視シ國民ノ希望ニ反シテ七割說ヲ固持スルモノナリトノ印象ヲ與ヘ全權ノ立場ヲ著ルシク不利ニ陥ラシムル虞アリト思考シタルニ依リ少クトモ帝國ノ代表者カ七割ノ比率ヲ要求シ居ル間ハ國民ヲシテ之レヲ後援セシメ或ハ少クトモ後援アルカ如ク裝フコト必要ナリトノ見地ヨリ海軍省ト協力シ適宜本邦新聞並外國通信員ヲ指導シ來リタルモ大勢ハ永ク人工のニ左右スルニ由ナク速ニ電報檢閱ノ手ヲ緩ムルノ止ム無キニ至リタル次第ト爲レリ然レ共最近ニ到リ愈々日本ノ讓歩ヲ見ントスルノ情報貴地特電トシテ傳ヘラルルヤ強硬派ハ相當ノ氣勢ヲ揭ケントスル情勢ニシテ浪人派在郷軍人團員等ノ運動モ亦將來ハ輕視ス可キニ非サルモノノ如シ

序ナカラ貴地特派員ハ各種ノ問題ニ關シ餘リニ立チ入りタル電報ヲ送り來ル爲メ本邦新聞ノ操縱上大ニ困難ヲ感シ居レリ特ニ時事新報ニ於テ其弊害甚タシ

第二款 第三回乃至第七回三全權會見

日英米ノ三首席全權カ二回ノ會合ノ結果我主張ノ點ニ付合意ヲ得ル能ハス暫ク我政府ノ訓令ヲ待ツコトナリタル次第ハ

第二款ニ於テ之ヲ述ヘタルカ政府ノ訓令漸ク到達セルヲ以テ十二月十二日加藤全權ハ之ヲ携ヘテ「ヒューズ」「バルフォア」兩氏ト會見シ爾後連日此三人ノ會合ヲ續ケテ十二月十五日ニ到リ漸ク三國間假協定ノ成立ヲ見タリ此間ノ討議ハ祕密、非公式ニ行ハレ何等公然ノ議事録ノ徵スヘキモノナキモ英國全權祕書官「ハンケイ」氏ノ手記セル記錄アリ左ニ之ヨリ翻譯シテ協議ノ經過ヲ誌サントス

第一項 第三回會見

○華盛頓國務省「ヒューズ」氏室ニ於テ

千九百二十一年十二月十二日(月曜)午後四時

○出席者

亞米利加合衆國 「ヒューズ」氏

英 帝 國 「バルフォア」氏 隨員「サー、モリス、ハンケー」

(Sir Maurice Hankey)

日 本 國 加藤男 市橋氏 通譯

日本ノ比率承認

○加藤男——唯今東京ヨリノ訓令ニ接シタルヲ以テ(前款第四項註二)日本比率ニ關スル會談ヲ繼續スヘシトテ日本語ヲ以テ覺書ヲ朗讀セルカ其ノ要點次ノ如シ

審査ニ附スヘキ問題ハ次ノ三點ニアリ曰ク、比率要塞及海軍根據地ニ關スル現狀維持並ニ陸奥コレナリ

日本政府ハ十對七ノ比率ヲ以テ日本海軍ノ安全ニ對シ必要ナリト認ムルモノニシテ余自身モ亦右ノ日本専門家ノ計算ヲ完全ニ合理的ナルモノト思料スルカ故ニ右ノ點ニ付米英同僚諸君ノ贊同ヲ得ル能ハサルハ甚タ遺憾ニ堪エス然リト雖日本政府ハ米國政府ノ高貴ナル目的並ニ軍備制限及平和維持ニ對スル同國ノ希求ニ贊同スルト共ニ日本國民カ本案ノ實現ヲ熱心ニ希望スル所ナルニ從ヒ茲ニ本問題ニ對シ最モ寛容ナル見地ヲ探リ遂ニ太平洋ニ於ケル要塞及海軍根據

防備問題

地ノ現狀維持ニ關スル確定的了解ノ成立ヲ條件トシテ十、六ノ比率ニ同意ヲ與フルコトナレリ
若シ夫レ「フィリッピン」群島及「グアム」島ニ於ケル海軍根據地カ擴張セラレ以テ一艦隊ヲ維持供給スルニ足ルニ至ル如キハ日本ノ甚タ不滿トスル所ニシテ目下幸ニ良好ニ向ヒツアル日米兩國ノ關係ヲ敵對關係ニ變スル恐レナキヲ保セス之ニ反シ若シ要塞及海軍根據地ノ現狀維持ニ關スル協力カ日米英佛ノ四強國間ニ成立スルヲ得ハ世界平和ニ對シ貢獻スルトコロ甚タ大ナルヘシ、事態如斯ナルヲ以テ要塞及海軍根據地ノ問題ハ十、十、六ノ比率ト無關係ニ非ラサルコトヲ明確ニシ右ニ付好意アル審議ヲ希望スルモノナリ

陸奥

次ハ陸奥問題ナリ右ハ米國案ニ於テハ九割八分ヲ完成セルモノトナスニ拘ハラス事實ハ十月末ニ於テ己ニ其ノ全部ヲ完成セルモノナリ同艦ハ既ニ全部ノ支拂及全部ノ艦裝ヲ了シ既ニ二千八百哩ヲ航走セルモノナリ米國案ニ於テハ舊艦及建造中ノ軍艦ノ廢棄ヲ規定スルトコロアリト雖新艦ヲ廢棄スルノ例他ニ一モアルナシ子及子ノ同僚ハ日本全權トシテ斯ノ如キ新艦ヲ廢棄セサルヘカラサルノ理ヲ日本國ニ對シ説明スルノ道無シ若シ之ニ同意ヲ與フルカ如キ事アラハソノ日本國民ニ與フル反響蓋シ甚大ナルヘシ海軍ノ見地ヨリシテ予ハ陸奥ノ既ニ艦隊ニ編入セラレタルコトヲ力説セムト欲ス同艦ハ艦長以下士官水兵ニ至ル迄全部任命セラレタルヲ以テ若シ之カ乘組員ノ眼前ニ於テ破壊セラルルヲ見ハ其ノ乘組員ニ對スル反響ヤ甚タ悲シムヘキモノアラム但シ米國政府ノ現提案ハ米國十八隻英國二十二隻、日本十隻ノ主力艦ヲ主張スルモノナルヲ以テ若シ陸奥ニシテ留保シ得ルナラハ日本ハ攝津ヲ廢棄スヘキ旨提議スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——一般的答辯ヲ與フルニ先チ陸奥ノ留保ニ基ク噸數比率ノ如何ニ變スルヤヲ聞カムト欲ス

○加藤男——原案ニ依レハ比率ハ英國ノ六、米國ノ五ニ對シ日本ハ三ナル處若シ陸奥カ留保セラルルトキハ日本ニ對スル噸數ハ三、一トナルヘシ

○「ヒューズ」氏——右ハ二萬一千噸對三萬五千噸ナル單ナル噸數ノ差異以上ニ遙ニ重要ナルヘキ武裝ノ増加ヲ考慮セサルモノナリ(ト述ヘ之ニ對スル加藤男ノ陳述ハ充分ニ了解サレサリシヲ以テ氏ハ之ニ次テ述ヘテ曰ク)加藤男ノ提議ニ對

シテハ正確ニ之ヲ了解シタル上ニ於テ其所謂ヲ開陳セムト欲ス予ノ了解スル所ニ依レハ加藤案ハ男ノ提出セラレタル條件ニ服スル限リ十、十、六ノ比率ヲ承認セムトスルモノト解スルカ右ハ正シキヤ否ヤ

○加藤男——十、十、六ノ比率ハ之ヲ受諾スルモ右ハ要塞及海軍根據地ニ關スル現狀維持ニ嚴ニ聯關スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——右ノ協定成立スルトキハ十、十、六ノ比率ヲ受諾セラルルモノト解ス

○加藤男——前言ヲ繰リ返ス

「ヒューズ」氏防備

○「ヒューズ」氏——要塞ノ件ニ關シテハ唯前同ノ會談ニ於テ述ヘタル所ヲ確認スルニ止マル即チ海岸防備ニ付テハ防禦的ナルモノト否ラサルモノトノ間ニ差異ヲ認メサルヘカラス「ハワイ」島ノ防備及海軍根據地ニ對スル制限ノ如キハ米國政府ノ斷シテ承諾シ能ハサル所ナルト共ニ上院ノ批准モ決シテ得ル能ハサル所ナルヘシト思フ何トナレハ同島ハ日本ニ對スル脅威ト看做スヘク餘リニ遠隔ノ地ニ在ルヲ以テ同島ハ純粹ノ防禦的根據地ト看做スヘク米國ニ於テハ其以外ノ見地ヲ探ルコト能ハス「フィリッピン」群島及「グアム」島ニ付テハ事情之ト異リ大多數ノ人民ハ合衆國ニ於ケル多數ノ有力ナル人士ト共ニ「フィリッピン」及「グアム」ニ於ケル海軍根據地ヲ以テ合衆國防禦ノ合理の一部トナシ從ツテ何等攻撃的機能ヲ認メスト雖モ他ニ尙ホ米國人民ノ根本的ノ平和的態度ヲ了解セサルモノアルトキハ承認セサルヲ得ス之ヲ以テ予ハ加藤男ノ見解ヲ了解スルヲ得ルモノニシテ從テ「ハワイ」ニ關スル留保ノ下ニ予ハ其見解ヲ改メ「フィリッピン」及「グアム」ノ現狀維持ニ付テハ全然之ニ同意ヲ與ヘムト欲ス即チ何等ノ要塞ヲ撤回セス唯之ヲ現狀維持ニ保留セムト欲ス

右ニ付四國協約ニ於ケル四國間ニ於テハ同一條件ヲ受諾スヘキ一般的協定ヲ爲スヲ正當トスルモノニシテ現狀維持ハ米國及日本ニ關シテノミ限定サルヘキモノニアラス日本モ亦附屬島嶼 (Outlying Islands) ニ付テハ同様ナルヘキモノト信ス若シ日本カ附屬島嶼ニ於テ海軍根據地ヲ増築建設スルカ如キ事アラハ米國ハ現狀維持ニ同意スル能ハス事實上ニ於テ各國ハ同一ノ基礎ニ立タサルヘカラス

○加藤男——日本ハ素ヨリ「ハワイ」島ノ編入ヲ希望スルモノナリト雖モ「ヒューズ」氏ノ與ヘタル説明ニ依リ右ヲ讓歩スヘシ若シ米國カ現狀ヲ維持セムトスルナラハ日本モ亦然ルヘシ

「バルフォア」氏

○「バルフォア」氏——英國ニ關シテ問題トナルハ香港ニ過キス濠洲或ハ新西蘭ノ諸港ハ何國ニ對シテモ脅威トナルコトナキヲ以テ本協定ハ之等ニ適用セラレサルモノト解ス香港ハ日本ニ採リ何等脅威ヲ以テ目セラレタル事ナシト信スルモ恐ラク日本ハ之ヲ近接地ト思惟スルモノナルヘシ

○加藤男——同島ハ英國領ナリト了解ス

○「バルフォア」氏——香港ニ於ケル要塞及海軍根據地ノ現狀維持ニ付テハ之ニ同意セムト欲スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——太平洋ニ於ケル其他ノ諸島ニ付テモ之ヲ適用スヘキヤ

○「バルフォア」氏——然リ

○加藤男——現狀維持ニ適用スヘキ原則ニ關シ一小提案ヲ用意セリ其ノ要旨ハ太平洋ノ屬領島嶼 (Out insular possessions) ニ付キ四國協約ニ於ケル四國ハ現狀ヲ維持シ要塞及海軍根據地ニ關スル保障ヲ與フヘク日本本土及英國屬領ハ之ヲ除外スルモノトス

○「ヒューズ」氏——右ノ條件ノ下ニ加藤男ハ海軍比率ヲ受諾スルモノト解スルカ如何

○加藤男——右ノ條件ノ下ニ予ハ喜ンテ十、十、六ノ海軍比率ヲ受諾スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——然ラハ次ニ右ノ比率適用ニ關スル特定問題ヲ審議セサルヲ得ス米國ノ提議ハ竣工艦ト建造中ノ軍艦トヲ區別スルモノニアラスシテ米國ハ現ニ八割八分ヲ完成セル軍艦二隻及八割一分ヲ完成セシ軍艦一隻ヲ有シ前二者ハ既ニ九割以上ヲ完成セルモ本本案ノ適用ヲ審議スルニ付テ重要ナル原則ハ比率的犧牲ノ原則ナルヲ以テ陸奥ノ特別ノ場合ニ付テモ之ヲ適用セサルヘカラス右ハ攝津ニ代フルニ陸奥ヲ以テスルト云フ單ナル問題ニアラスシテ全海軍問題ヲ包含スルモノナリ米國全權ニ於テハ其樹立セル規則ハ公正ナル規則ト信スルモノニシテ予自身トシテハ陸奥ノ件ニ關シ如何

英國ト陸

ニ措置スヘキヤニ付テハ之ヲ専門家ニ計ラサルヘカラサルモ先ツ「バルフォア」氏ノ言ハムトスル所ヲ聴取スヘシ

○「バルフォア」氏——予ト雖モ勿論最終ノ決定ヲ與フル前ニハ先ツ海軍専門家ト打合せサルヘカラスト雖豫備の意見ヲ述フレハ日本ノ「ジュトランド」後型ノ主力艦一隻ヲ追加スルコトハ特ニ英國ニ影響スル事明カナリ英國ハ「ジュトランド」前型ノ主力艦ニ富ムト雖モ右ハ四年間ニ渉ル戰時勤務ノ爲メ破損スル處多ク然モ「ジュトランド」後型ノ主力艦ニ比シ弱ナルモノナレハナリ之ヲ以テ英國ニ於テハ出來得ル限り五對三ノ比率ニ近キ様ニ「ジュトランド」後型ノ勢力ヲ追加スルコト必要ナルヘシ

○「ヒューズ」氏——英國ハ建造セサルヘカラストノ意ナリヤ

○「バルフォア」氏——陸奥カ保留セラルルナラハ英國ノ建造セサルヘカラサルハ勿論ナリ

○加藤男——主力艦ニ關スル英國ノ事情ハ予ノ了知スル所ナリ若シ英米全權ニシテ異議ナクハ陸奥問題ヲ暫ク延期シテ本會合ニ於テハ目下討議中ノ問題ニ之ヲ局限セムコトヲ提議セムト欲ス

○「ヒューズ」氏——陸奥ノ保留ノ英國海軍ニ及ホス影響ニ付テハ全然同感ナリ其ノ一部カ「ジュトランド」後型ニ過キサ「フッド」ヲ除キテハ英國ハ「ジュトランド」後型ノ主力艦一隻モ有セサルニ反シ他方ニ於テ日本ハ長門ヲ有スル上ニ戰艦巡艦數隻ヲ有ス之ニ陸奥ヲ追加スルモノトセハ右ハ英國ニ對シ建造ヲ強要スルモノト云フヘシ予ハ長論議ヲ欲スルモノニアラスト雖若シ陸奥カ保留セラルル上ハ英國ハ建造セサルヘカラサルコトナリ之ノ事實ニ基キ企業全體ハ遂ニ崩解スルニ至ルモノニシテ此影響ニ付キ加藤男ニ對シ篤ト考慮ヲ求ムルモノナリ

米國ト陸

米國政府ニ關シテハ若シ陸奥カ保留セラルルナラハ其ノ既ニ殆ト完成ノ域ニ達セル軍艦二隻ヲ廢棄スルコトヲ好マサルモノト思惟ス何トナレハ企業全體ハ比率の犠牲ノ上ニ立ツモノト解シ何國モ建造上ノ勢力ヲ免レ然カモ同一比率ノ勢力ヲ保有シ得ヘキ一致點ニ到達シ得タリシモノナレハナリ

○加藤男——予モ亦特ニ英國ノ困難トスル所並ニ世界ノ一般の了解ニ關スル點ハ了解ス然レトモ日本ノ見地ヨリスレハ本

問題ハ要スルニ右ハ建造中ノ軍艦ノ廢棄ニアラストノ點ニ歸着ス相對的勢力問題ハ別問題ニシテ右ニ付テハ一個ノ了解ニ達スルコト必スシモ困難ニアラサルヘキモ建造中ノ軍艦ノ廢棄ト看做スカ如キハ予ノ難點トスル所ナリ

○「ヒューズ」氏——攝津ハ己ニ完成セル軍艦ナルニ拘ラス之ヲ廢棄スルヲ意トセサルニアラスヤ

○加藤男——攝津ハ現代の軍艦ニアラス

○「ヒューズ」氏——右ハ「ジュトランド」前型ノ努級艦ナリト思惟ス

○加藤男——陸奥ノ保留ハ必スシモ日本ノ相對的海軍力ノ増加ヲ意味スルモノニアラス三海軍國ノ比率ニ付キ顯著ナル變更ヲ加フルコト無クシテ一ノ調和的歸結ニ達スル事可能ナルヘシ

○「ヒューズ」氏——予モ亦之ニ同意スヘキ地位ニ在リト雖日本ノ執レル態度ハ惹イテ英國ニ對シ建造中止ノ代リニ建造ヲ成サシムルモノトスレハ之ニ贊同スヘキ所以ヲ知ラス加藤男ニシテ右ノ困難ヲ脱却スルノ案アルナラハ之ヲ聽キタシ

○加藤男——予ハ米國原案ニ於テ陸奥カ建造中ノ軍艦ニ列セラレ居ル事ヲ甚タ遺憾トスルモノナリ
蓋シ夫ハ事實ニアラサレハナリ陸奥ヲ救フ事ハ必要ナルニ依リ米英二國ニ對シ各一隻ノ軍艦ノ建造ヲ許スハ必要ナルヘシト思惟セシナリ

○「バルフォア」氏——新艦建造ハ十、六ノ比率ヲ保タサルヘカラスト

○加藤男——右ノ比率ハ十年後ニ付テ適用スヘキモノト解ス

○「ヒューズ」氏——右ハ各國ノ犧牲程度ヲ確實ニスル爲ニ現下ニ於テ適用セラレサルヘカラサルモノト解ス

○加藤男——目下ノ比率ハ英國六米國五ニ對シ日本三ナリ

○「ヒューズ」氏——右ハ米國案ニ於ケルカ如ク軍艦ノ武裝ヲ考慮ニ入ルル事ナク單ニ噸數ニ付テ適用セラルルモノナリ噸數比率ハ六、五、三ナリト雖モ其ノ能率ハ十、十、六ニ當ル

○加藤男——陸奥ヲ保留シテ攝津ヲ廢棄スルハ事實上ノ比率ニ顯著ナル差異ヲ生スルモノニアラスト信ス事實上其差異ハ

甚々微細ナリト雖モ陸奥ヲ建造中ノ軍艦ノ列ニ入ルル事ハ日本ノ甚々受諾シ難キ所ナリ比率ハ自ラ別問題ナリ

○「ヒューズ」氏——十二月十二日ノ總會議ニ於ケル氏ノ演說中ヨリ次ノ一句ヲ摘出朗讀ス
「此等軍艦ノ噸數ハ次ノ如シ」

合衆國	五十萬六千五百噸
英帝國	六十萬四千四百四十噸
日本國	二十九萬九千七百噸

此ノ歸結ニ達スルニ付テハ各國海軍ノ艦齡ノ因素ハ適當ナル考慮ヲ加ヘラレタルモノナリ

難點ハ陸奥ノ廢棄ハ舊艦ノ保留ニ依リテ償ハレストノ點ニアルカ如シ蓋シ右ニ付加藤男ハ世界ニ於ケル偉大ナル海軍專門家ノ一人ナルヲ以テ素ヨリ陸奥カ最新型ノ軍艦ナル事ハ熟知セラルルトコバナルヘシ之ヲ償フニハ英國ニ於テハ建造シ米國ニ若干軍艦ヲ完成セサルヘカラサル所斯如ハ誠ニ悲シムヘキコトニ屬ス蓋シ陸奥ヲ除外スレハ本案ハ完全ニ公正ナル立場ニアルヘケレハナリ

○加藤男——同一事ヲ繰込スハ甚々憾遺トスル所ナルモ陸奥ヲ建造中ノ軍艦トシテ其ノ列ニ入ルルコトハ予ノ根本的ニ難シトスル所ナリ新艦ノ建造ハ本案ノ精神ニ反スルモノナルコトハ之ヲ了認スルモ日本全權ニトリテハ陸奥ノ廢棄ニ對シ満足ナル説明ヲ與フルハ困難ナリ若シ陸奥ヲ保留スルニ付キ他ノ方法ナシトスレハ英米兩國ニ對シ建造ヲ許スヨリ他ニ策ナカルヘシ之カ唯一ノ策タルハ予ノ甚々遺憾トスル所ナリ

○「ヒューズ」氏——日本カ陸奥ヲ保有スルカ爲ニ建造ヲ必要トスルハ予モ亦甚々遺憾トスル所ナリ

○加藤男——日本ハ其海軍力ニ何等ノ増加ヲ欲セサルハ明白ナリト思惟ス

○「バルファア」氏——加藤男爵ハ要塞及海軍根據地ノ現狀維持ノ了解ノ下ニ十、十、六ノ比率ニ對シ忠實ナラムトスルモ亞米利加原案ニ規定セラルル絕對的數字ニ固執セムトハセラレサルモノノ如シ予ハ何等日本ヲ非難セムトスルモノニア

ラスト雖日本カ感情ノ満足ヲ得ルカ爲ニ惹イテハ英國ハ建造シ米國ハ軍艦ヲ完成セサルヘカラサルノ結果ヲ來ス事ハ注意ヲ要ス陸奥ノ廢棄ニ付テ感情上ノ異議ノ力アルコトハ予モ亦之ヲ認ムルモノニシテ乘組員ハ艦上ニ在リテ協働シツツアルモノナレハ彼等カ其軍艦カ廢棄沈没セラルルヲ見レハ日本海軍及日本人民ノ兩者ニ對シテ痛ムヘキ感情ヲ齎ラスヘキハ疑ヲ容レスト雖加藤男ニ於テモ本問題ノ他ノ一面ヲ了解セラレム事ヲ望ム主力艦ノ建造ヲ終止スルコトハ米國及英國ノ人民ノ希望スル所ニシテ主力艦建造ヲ欲セス從ツテ斯如ハ全世界カ大ナル希望ト満足ヲ以テ期待セル本協定ニ對シ不幸ナル終末ヲ與フルモノト觀スルニ至ルヘキモノナリ

○加藤男——事實完成セル軍艦ヲ建造中ノ軍艦ノ列ニ入ルルハ不可能ナリト同一問題ニ歸着セサルヲ得ス如ク軍艦ヲ廢棄セサルヘカラサルノ満足ナル理由ヲ發見スル能ハス

○「ヒューズ」氏——陸奥カ全部ニハ非ラサレトモ殆ト完成ニ近キ事ハ米國政府ノ素ヨリ了解スル所ニシテ其感情ハ充分同情スルモ殆ト完成セラレタル軍艦ノ場合ニ就テハ實際上理性ニモ同一ノ勢力ヲ認メサルヘカラス金錢上ノ投資ヨリ見レハ殆ト完成ニ近キ「コロラド」及「ワシントン」ノ場合ハ完成セラレタル軍艦ノ場合ト大差ヲ見ス其差異ハ十割對零ノ差異ニアラスシテ約一割ノ差異ニ過キス若シ一艦ヲ完成スルニ就テ四千萬弗ヲ費シ他ノ一艦ヲ大部分完成スルニ就テモ四千萬弗ヲ費シタリトスレハ結果ニ於テハ事實上同一ナリ米國ハ目下建造中ノ軍艦十五隻ヲ有スルカ本案カ公表サレタル際其中ノ若干ハ既ニ八割八分ヲ完成セルモノナリ米國カ十五隻ノ軍艦ノ建造ヲ中止スルニ付テハ多大ノ犧牲アリタルコトニ付テハ加藤男ノ考慮ヲ求メサルヲ得ス問題ハ特定ノ軍艦一隻ノ保留問題ニアラスシテ犧牲ノ全部ニ互ルナリ實際的ノ見地ニ於テ之ヲ見ルニ陸奥ヲ以テ攝津ニ代フルトキハ主力艦ニ關シ同一狀態ニ留ルコト斷シテ有リ得ス米國ニ於テハ右ヲ以テ全比率ヲ變更スルモノト看做スヘク英國ニ於テモ亦同様ナラムト思フ茲ニ於テ陸奥ヲ保留スルストスレハ之ニ對スル加藤男案ハ如何ニ國ノ政府ニ對シ建造ヲ繼續セシムルカ如キ案ヲ受諾セサルヘカラサルハ甚々迷惑ナリ

○加藤男——予ハ予ノ立場ヲ明瞭ニナシ得サリシヤヲ惧ルルモノナリ「ヒューズ」氏ハ九割完成セル軍艦ト全部完成セル

軍艦トノ差異ハ實際の見地ヨリスレハ單ニ一割ニ過キスト述ヘラレタルモ右ハ日本國カ本問題ニ對スル考トハ異ルモノナリ英米兩國ノ建造ノ必要ニ付テハ予ノ了解スル所ニシテ予ハ之ヲ甚タ遺憾トスト雖其カ唯一ノ方法タル以上英米兩國ニ於テ各一艦ヲ建造スルヲ認メサルヲ得ス

○「ヒューズ」氏——本問題ヲ要スルニ加藤男ハ要塞及海軍根據地ノ現狀維持ヲ條件トシテ十、十、六ノ比率ヲ受諾セラレタリ然レトモ陸奥ニ關シ比率ヲ適用スルニ關シテハ遺憾ナカラ英米兩國ニ對シ建造ヲ認ムルノ歸結ニ達セラレタルモノノ如シ右ニ付如何ニ措置スヘキヤニ關シテハ暫ク會議ヲ中止シ各專門家ニ計ルヲ最善ノ策ト思惟ス予ハ甚タ之ヲ遺憾トスト雖之ヲ免ルルノ策ナシ若シ陸奥カ保留セラルコトナラハ米英兩國ニ於テモ亦建造セサル限リ海軍專門家ニ満足ヲ與ヘサルコトハ確實ナリ

○加藤男——諾、然リト雖比率及要塞ニ關シ確定的結論ニ達シ得サル時ハ如何

○「ヒューズ」氏——原則適用ニ關スル本問題ハ比率及要塞ニ關スル問題ト互ニ關聯ス、陸奥カ日本ノ軍艦表ニ挿入セラレタル以上海軍ノ均衡ヲ十、十、六ノ比率ニ於テ保ツ爲ニハ米國案ニ修正ヲ加フルノ必要アリ此仕事ヲ開始スルハ必要ナリ今後數年間ニ於テ十、十、六ニ達スルノ觀念ヲ以テ新ラシキ基礎ノ上ニ本問題ヲ築キ上ケムトスルカ如キハ見込ナキコトナリ

○加藤男——米英兩國ニ新艦一隻ヲ認ムヘシト云ヒタルハ十、十、六ノ比率ヲ基礎トシテノ上ノ話ナルコトハ明確ニセラレムコトヲ望ム

○「ヒューズ」氏——日本カ陸奥ヲ保留スルトスレハ軍艦表ヲ審查シ其中何ヲ追加シ何ヲ廢棄スヘキヤヲ審查スルコト必要ナリ常ニ艦齡ノ因素ヲ眼中ニ置キタル上ニ於テ十、十、六ノ基準ニ基キ軍艦表ヲ訂正セムト欲ス

○「バルフォア」氏——諾、主力艦ノ比率ニ關スルモノ並要塞及海軍根據地ノ現狀ニ關スルモノノ二原則ハ既ニ決定セラレタリ今以テ未決定ナルハ陸奥保留ノ事實ニ基ク軍艦表ニ關スルモノニ止マル之ヲ以テ陸奥ヲ保留ストノ了解ノ下ニ於テ其

ノ比率ヲ維持スル様ニ軍艦表ノ修正方ヲ審查スルコト必要ナリ

陸奥保留
ト英米軍
艦表ノ變

○「ヒューズ」氏——右ニ付テハ專門家ニ計ルノ必要アルヘシ尙公開問題ニ關シ寧ろ事實全體ハ之ヲ同時ニ公表スル事望マシト思ハルルヲ以テ此際今迄協定ヲ得タル事實ノ公表ヲ差控ヘ特定軍艦ニ關スル具體案ニ達スルヲ待タムト欲ス

○「バルフォア」氏——佛伊ノ比率ハ影響ヲ及スコト無キヤ

○「ヒューズ」氏——之レ難點トスル所ナリ十、十、六ノ比率ヲ保ツヤウ軍艦ヲ按配スルニ付テハ佛伊兩國ヲ眼中ニ置キテ噸數ノ増加ノ影響ヲ注意スル事必要ナリ

○「バルフォア」氏——若シ然ラスンハ全世界ノ海軍ノ均衡ヲ失スヘキヲ注意ス

○「ヒューズ」氏——目下ノ實際問題ハ今迄ノ事件ヲ極秘ニ附シ何等公表セサルコトトシ明日ニ至ラハ問題片附クヘシ明日午後四時ノ會合ヲ提議ス

○加藤男——決定ニ達スルハ甚タ容易ナリト思フ翌日午後四時半會合ニ決ス

四國協約
ト和蘭

○「バルフォア」氏——予ハ「ヨンケイ、ヴン、カルネベック」ヲ引見セムト欲ス氏ハ和蘭諸島ニ關シ自國民ニ満足ヲ與フル様何等カノ議定ヲ携ヘテ和蘭ニ歸國セムト欲スルモノナリ「ヨンケイ、ヴン、カルネベック」ハ和蘭カ太平洋ニ於テ大ナル島嶼領地ヲ有スルニ係ラス太平洋條約ヨリ除外セラルルヨリハ寧ろ例外ニ在ルコトヲ望ムモノナリ和蘭諸島ニ影響アル問題ノ起リタルトキハ何等カノ特別機關ヲ以テ和蘭ヲ特ニ協定ニ加入セシムヘキ方法ヲ案出スルコト可能ナルヘシ

○加藤男——予モ亦異議ナシ但シ四國條約ニ影響ヲ及ササルモノトス右ニ付テハ本國政府ニ諮詢スルノ必要アリ

○「ヒューズ」氏——予モ亦何等異議ナシ四國條約ヲ四國限リニ限定セシニ付テハ英國及日本ノ特別事情ヲ考慮セシモノナリ「バルフォア」氏ハ何人ニモ漏ラササル様特ニ注意シテ右等ノ事實ヲ「ヨンケイ、ヴン、カルネベック」ニ告グル事

トス

加藤全權
ノ意見

註 右會見ノ結果加藤全權ハ陸奥問題ニ關シ左ノ感想ヲ政府ニ打電セリ防備問題ニ就テハ第五章參照

「陸奥ハ既成艦ナリトノ主張ハ了解シタルカ如ク「ヒューズ」ハ終始此ノ論點ヲ避ケ唯日英米三國ノ殘存艦ノ勢力ニ懸隔ヲ來シ又殘存艦ノ總噸數ニ差異ヲ生スルカ故ニ日本ノミ最新艦ヲ増加スルノ說ニ同意スル能ハサル旨ヲ繰返ヘシタリ種々論議ノ結果何等カノ方法ヲ講シ英米兩國ノ殘存艦ト不權衡ヲ來スコトナク又噸數ヲ増サス以テ五、五、三ノ比ヲ保チ得ル解決法ナキヤト提議シ來ルカ如キ一概ニ我提案ヲ拒否スルモノトモ思ハレス

英米兩國ノ專門家ハ海軍休暇中ノ製艦ヲ考慮シ新聞ニモ之ヲ論シタルヲ以テ或ハアリ得ヘキ事ト思ハレシカ此問題ハ專門家ノ希望ニ止マリ「ヒューズ」「バルフォア」ハ根本ノ主義ニ反スルヲ以テ之ニ同意セサルヤモ計ラレス此觀察誤ラストセハ陸奥復活ノ爲ニハ三國ノ勢力比並總噸數ヲ増加セサル爲ニ我殘存勢力中ヨリ相當恩切ツタル犠牲ヲ拂フ必要アリトモ思ハル即チ攝津ヲ以テ同意ヲ得ル見込ナシ餘ハ後刻會見ニ讓ル」

第二項 第四回會見

○一九二一年十二月十三日午後四時 場所出席者前回ニ同シ

○「ヒューズ」氏——本日ノ討議問題タル日本ノ海軍表ニ陸奥ヲ追加スルニ付其結果トシテ米國案ニ加フヘキ主力艦ノ修正ニ關シテ「バルフォア」氏ト協議スル餘暇アラサリシ處右ノ問題ハ種々ノ配列結合法可能ナルニ加ヘ英、米二方面ヨリ其問題ヲ論セサルヘカラサルヲ以テ先ツ米國側ヨリ考フルニ軍艦ノ艦齡及武裝ニ關スル合理的ナル均衡ヲ顧慮シテ十、十、六ノ噸數比率ヨリ出發セサルヘカラス

陸奥保留
ニ對スル
米國案

日本ハ右ノ基礎ニ基キ陸奥ヲ保留シテ攝津ヲ廢棄セントスルモノナルヲ以テ米國ニ於テハ右ニ付如何ニシテ之カ代償ヲ米國軍艦ニ得セシムヘキヤニ付キ考慮シタルモノニシテ米國全權ハ茲ニ「ノースダゴタ」及「デラウイヤ」ヲ廢棄シ「コロラド」及「ワシントン」ヲ留保セント欲スルモノナリ

右ノ變化ノ結果米國ノ合計噸數ハ五十二萬五千八百五十噸日本ノ合計噸數ハ三十一萬三千三百噸トナル、當初亞米利加合衆國ハ五十二萬五千噸日本ハ三十一萬五千噸ノ限度ニ歸着セシメント欲シタルモノニシテ之レ比率ノ正確ヲ保チ且各三萬五千噸ノ噸數制限内ニ於テ米國ハ主力艦十五隻日本ハ九隻ヲ有シ得ル事トナルモノナリ而シテ予ノ提議セル修正ノ結果實現セル數字ト其ノ目標トセル右ノ基礎トノ間ノ正確ナル差異トハ單ニ數百噸ノ上ニ上ラス即チ米國主力艦ハ規準ヨリ八百五十噸ヲ増加シ日本軍艦ハ一千七百噸ヲ減スルニ過キス米國海軍專門家ノ言ニ依レハ右ハ満足ナル海軍ヲ許スルモノナリト云フ米國海軍ハ原案ニ比スレハ二萬四千三百五十噸日本海軍ハ一萬三千六百噸ヲ増加スト雖モ比率ハ相對的甚タ正確ニ近シ日本カ戰關巡洋艦數隻ヲ有スヘキ事ハ了知スト雖モ右ニ付何等異議ヲ稱ヘントスルモノニアラス之ヲ以テ日本カ陸奥ヲ保留シ攝津ヲ廢棄セント欲スルナラハ之ニ對スル米國案ハ上述ノ如シ

○「バルフォア」氏——「ヒューズ」氏ハ余ノ云ハントスル所ヲ聽カント欲スルモノナルヤ（ト尋ネ「ヒューズ」氏然リト答ヘタルニ依リ次ノ如ク述フ）

英國ノ立
場

英國ノ難點トスル所ハ英國カ既ニ五年間ニ渉ル主力艦建造ニ關スル休日ヲ實行シ戰爭ノ終末以來何等主力艦ノ計畫ヲナス事無カリシコトヨリ起ルモノニシテ其結果英國ハ「ジュトランド」後型ノ主力艦一隻ヲモ有セサルニ至レリ予カ海軍大臣タリシ當時計畫セル「フード」（余ハ「ジュトランド」海戰後間モナク海軍大臣ヲ辭セリ）ノミカ「ジュトランド」後型ノ主力艦ニ接近セルモノナリト雖モ事實ニ於テ「フード」ハ「ジュトランド」海戰以前ニ計劃セルモノナレハ其後ニ至リ計劃ニ變更ヲ加ヘ該艦ニ對シ能フ限り右ノ海戰ノ教訓ヲ具現セシメントシテ苦心セルモ「ジュトランド」以後ノ計劃ニ依リ建造セラルヘキ軍艦トハ到底稱スルヲ得ストノ由ナリ米國全權ハ右ノ事實ヲ了知セラレタルモノノ如ク米國案ニ依レハ右ノ理由ニ依リ英國ニ對シテハ主力艦ノ艦數及噸數ニ於テ利益ヲ與ヘラレタリ「ヒューズ」氏ハ勿論艦隊對艦隊ノ關係ニ於テ我艦隊カ如何ナル艦隊ニモ對抗シ得ル地位ニアラサル事ノ英人氣質特ニ其海軍專門家ノ意見ニ反對ナルコトハ承知セラルル所ナラン右ノ事情ハ當初ヨリ難點トナリタリシモノナル處事情ハ陸奥ノ編入ニ依リ益々惡化

セリ右編入ノ結果米國海軍ハ「ジュトランド」後型主力艦三隻日本ハ「ジュトランド」後型主力艦二隻ヲ有スル事トナル
茲ニ於テ英國ハ十、十、六ノ比率即チ米國海軍トノ權衡ヲ保ツ爲ニ何等カノ處置ヲ採ラサルヘカラサル所不幸ニシテ
「フリード」ハ完成艦ナルニモ拘ラス「ジュトランド」後型ノ規準ニ上ラス多額ノ費用ヲ掛ケテ實驗セル結果「ジュトラン
ド」ノ經驗一切ヲ具現セル新艦二隻ヲ計畫シ既ニ多量ノ材料ヲ蒐集シ之カ請負ヲモ了シ尙請負者ハ軍艦建造ノ爲メ其ノ
造船所ニ必要ナル變更ヲ加ヘタリ故ニ米國及日本ノ海軍ノ提案ト權衡ヲ得ル正當ナル方法ハ英國ニ對シ右ノ二艦即チ事
實上ノ建造ハ開始スル迄ノ運ヒニ至ラスト雖モ其計畫ハ已ニ完成セル所ノ物ヲ完成スルノ他ナシ

但右ノ軍艦ハ噸數上「メリーランド」及陸奥ノ噸數ヲ甚タ超過スルモノナリト雖モ、日海軍ニ對シテハ「ヒューズ」氏ノ
舉ケタル如キ「ジュトランド」後型ノ軍艦ノ編入ヲ許シ又之ニ基キ英國ニ對シテ上述ノ二艦ノ建造ヲ許サルナラハ英
國ハ原案ニ規定セラレタル以上ノ軍艦ヲ廢棄スル事ニ躊躇セサルモノナリ米國政府ハ「メリーランド」型二隻ヲ完成シ
「ノースダコタ」及「デラウイヤ」ヲ廢棄スヘシト案ヲ提出サレタルカ若シ英國カ上記二隻ノ完成ヲ許サルモノナラ
ハ是カ代償トシテ舊艦二隻以上ノ廢棄ヲ惜シマサルモノナリ

予ハ如何ナル程度迄噸數標準或ハ隻數原則ヲ守ルカ正當ナルヤヲ正確ニ知ルコトナキヲ以テ予ハ唯計畫中ノ新艦二隻ヲ
建造シ二隻以上ノ英國舊艦ヲ廢棄スルノ案ヲ提出ス

加藤全權
ノ英米案
ニ對スル
應諾

○加藤男——噸數基礎ニ基ク「ヒューズ」氏ノ提案ハ公正ナルモノト認ムルモノニシテ英國ニ關シテモ其地位ニ付テハ十
分同情スルモノナリ英國ハ舊艦ノミヲ當テカワレタリ故ニ若シ兩案カ受諾セララル事トナラハ政府ヨリハ何等ノ權限ヲ
與ヘラレ居ラスト雖モ個人トシテ敢テ之ニ同意ヲ表セント欲スルモノナリ日本ニ於テハ問題ハ已ニ政治化シ輿論ハ劇烈
ニ動キツツアリ予ノ之レヲ聽ケルハ昨夜以來ノ事ニシテ右ノ趣政府ヨリ電報ニ接セル次第ナリ從テ陸奥ヲ放棄スル事ハ
余ノ甚タ困難トスル所ナルヲ以テ寧ロ「ヒューズ」氏及「バルフォア」氏ノ提案ニ同意シ兩者共之レヲ受諾セント欲スル
モノナリ

○「ヒューズ」氏——問題ヲ具體的ニ總括スレハ米國政府ノ提議セル原案ハ次ノ如シ

主力艦		噸數	
米國	一八	五〇〇、六五〇	
英國	二二	六〇四、四五〇	
日本	一〇	二九七、七〇〇	
主力艦		噸數	
米國	一八	五二五、八五〇	
日本	一〇	三二三、三〇〇	

米國ニ對シ五十萬噸日本ニ對シ三十萬噸ナル當初ノ規準ニ比スレハ右ノ數字ハ米國ニ對シテハ五十二萬五千八百五十噸
日本ニ對シテハ三十一萬三千三百噸ナルヲ以テ米國ニ於テハ目標トスル五十二萬五千噸ノ規準ヲ超過スル事八百五十噸
ニシテ日本ニ於テハ目的ノ三十一萬五千噸ノ規準ニ及ハサル事一千三百七十噸ナリ

英國ハ「ジュトランド」後型ノ新艦二隻ヲ加ヘ之レカ代償トシテ舊艦數隻ヲ廢棄スヘキ旨提議セラレタルカ右ハ「バル
フォア」氏ニ於テハ三萬五千噸ノ噸數ヲ超過スル軍艦二隻ヲ完成セント提議セラルルモノナルヤ

○「バルフォア」氏——予ノ提案ハ其通りナリ然リト雖モ此場合新艦ノ完成スル迄舊艦ヲ保有セント欲スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——陸奥ハ已ニ完成シ米國軍艦ハ其完成迄數ヶ月ヲ要セス英國ノ場合ニ於テハ之レト異リ殆ト最初ヨリ建
造セサルヘカラス米國及日本ノ有スヘキ最大ノ軍艦ハ三萬五千噸以下ニシテ右ハ米國案ノ提議セル限度ナル處軍艦表ノ
最初ニ掲ケラルヘキ新艦ノ噸數カ大ナレハ大ナル程最後ニ於テ廢棄セラルヘキ噸數モ亦大ナラサルヲ得ス

○「バルフォア」氏——之等新艦ハ全然新型ノモノナルヲ以テ其計畫ニ付テハ多大ノ努力ヲ要シタル處若シ右ノ計畫カ犧牲ニ供セラルル事トナラハ從來ノ努力ハ全部水泡ニ歸スヘシ右ノ計畫ニ付テハ多クノ經驗ヲ利用シ其大部分ハ右ノ大艦計畫ニ適用サレタルモノナレハ小艦ノ場合ニ於テハ價值ナキモノナリ加フルニ大艦ノ場合ニ關スル請負契約ハ小艦ノ場合ニ於ケル請負契約ニ流用スル能ハス如斯ハ甚タ重大ナルコトニ屬ス其上新ラタニ計畫ヲ建テ更ニ之ヲ實行スル爲メ豫備工事トシテハ一ケ年ヲ要スヘキヲ以テ其間多大ノ時日ヲ經過スヘク其時日内ニ於テ日本ハ「ジュトランド」後型ニ隻米國ハ「ジュトランド」後型三隻ヲ有スルニ至ルヘキモノナリ結局如何ナル協定ニ達スルニセヨ右ハ實質及勢力ノ問題ナリ「ヒューズ」氏ノ反對論モ亦有力ナルモノニシテ若シ英國ハ大艦ヲ建造スルニ至ラハ之レト同數以上ノ犧牲ヲ要スルモノナリト云ハレタルカ右ハ充分ヲ知ス

米國ノ英
案ニ對ス
ル要求

○「ヒューズ」氏——目標トスル新タナル基礎ハ米國及英國ニ對シテハ五十二萬五千噸日本ニ對シテハ三十一萬五千噸ナリ原案ヲ作成スルニ付キ英國ニ對スル數字ヲ六十萬噸トセルハ英國軍艦ノ艦齡ニ鑑ミ十萬噸ノ増加ヲ許與セルモノナリ余ハ英國ノ地位ノ困難ナル事竝ニ「バルフォア」氏ノ提議ノ公正ナル事ヲ充分認ムト雖モ若シ英國ニシテ四萬三千噸（「バルフォア」氏ハ四萬三千噸ヲ超過スヘシト插言ス）以上ノ軍艦二隻ヲ有スルコトナラハ代艦ノ時期ニ至ツテ困難ハ益々増大スヘシ目下三萬五千噸ノ軍艦ヲ以テ満足シ噸數制限ニ關シテハ何等面倒ナル事態ヲ生セサリシナレハナリ

尤モ英國ハ四萬三千噸ノ「フーード」一隻ヲ有スト雖モ右ハ完全ナル「ジュトランド」後型ノ軍艦ニアラスシテ四萬三千噸ノ全能率ヨリハ幾分力減算セサルヘカヲサルノ事實ニ鑑ミ之レヲ許與セルモノナリ然ルニ若シ英國ニシテ四萬三千噸ノ「ジュトランド」後型ノ軍艦二隻ヲ完成スル事トナラハ事態ハ全ク變化スルニ至ル之ヲ以テ「バルフォア」氏力噸數ヲ制限シ之ニ依ツテ一隻ノ廢棄ヲ救フノ方法ヲ見出スヲ得ラルルナラハ甚タ結構ナリ

○「バルフォア」氏次ノ四ケ年間に於ケル英國ノ地位ハ如何ナルヘキヤ「ヒューズ」氏ノ考慮ヲ求ム、其間英國ハ完全ナル「ジュトランド」後型ノ主力艦一隻ヲモ有セサルニ反シ目下審議中ノ他ノ海軍ハ三隻又ハ二隻ノ「ジュトランド」後型ノ

軍艦ヲ有シ得ヘケレハナリ

○「ヒューズ」氏——三年乃至四年ノ建造期間中ハ舊艦ニ依リ平衡ヲ保ツヘシ四年間ノ後ニ至ラハ英國ハ米國及日本ト同一ノ地位ニ上ルヲ得ヘシ

○「バルフォア」氏——「ヒューズ」氏ノ論點ハ承知スルモ不幸ニシテ新型ノ軍艦ノ計畫ニ付テハ建造期ニ尙一ケ年ヲ追加セサルヲ得ス

○「ヒューズ」氏——何等論難ヲ望ムモノニアラスト雖モ英國ハ三萬五千噸ノ最大限度内ニ止ルヲ得ハ甚タ結構ト存セシ次第ナリ

○「バルフォア」氏——建造期間中ニ於テハ英國カ舊艦數隻ヲ保留スル事ニ依リ平衡ヲ保チ得ヘキ事ハ承知セリ右ノ期間後ニ於テ英國ハ米國及日本ノ有スル何物ヨリモ有力ナル軍艦二隻ヲ有スヘシト雖モ米國ハ「ジュトランド」後型ノ軍艦三隻ヲ有スヘキヲ以テ平均スレハ英國ノ三隻ニ勝ルヘシ

○「ヒューズ」氏——英國軍艦カ四萬三千噸以上ナルノ事實ニ鑑ミ右ニ付テハ疑ナキヲ得ス

○「バルフォア」氏——「フーード」ハ四萬三千噸ナリト雖モ其計畫甚タ宜シカラス「ジュトランド」海戰ノ敎訓全部ヲ具現セサルモノナリ當初ノ場合ニ於テ右ノ事情ヲ斟酌シタル以上目下ノ場合英國ニ對シ之ヲ斟酌セサルノ理アリヤ

○「ヒューズ」氏——米國ノ提案ニ於テハ三萬五千噸以上ノ軍艦一隻ヲ有セシムル事ナク尙十年後ニ至ル迄其期間中單ニ計畫スル以外ニハ何等建造ヲ許ササルモノナリサレハ英國ニ於テ差等ヲ平均スル爲ニ必要ナル軍艦ノ隻數ヲ保留シ三萬五千噸型即チ米日最大軍艦ト同等ナル新艦二隻ヲ建造スルノ案ハ甚タ簡明ナル提議ト思惟セシ次第ナリ右ニ依レハ英國ハ新艦カ過大ナル噸數ヲ有スル爲廢棄ヲ必要トセシ數隻ヨリモ廢棄隻數ヲ減シ從テ隻數ノ多數ニヨリ有勢ヲ贏チ得ヘシト考ヘタルモノナリ予及加藤男ハ既ニ新事狀ニ基キ英國ニ對シ主力艦二隻ノ建造ノ權利ヲ受諾セシヲ以テ殘ル問題ハ適當ナル用語ナキニ苦シムモ新艦ノ威力（*gibbe*）ト稱シ得ヘキモノニ關スル問題ト平衡ヲ得ル爲ニ廢棄スヘキ噸數ノ

合計ナリ

○「バルフォア」氏——英國カ四隻ヲ廢棄スル時即チ合計隻數ニ於テ二隻ヲ減少スル時ハ噸數ハ如何ナルヘキヤ

○「ヒューズ」氏——(軍艦表ヲ繰シテ曰ク)若シ英國カ例ヘハ「アヂヤクス」「センチュリオン」「キング、ジョージ」及「エリン」ヲ廢棄スルトスレハ右ノ四隻ニ於テ合計噸數九萬六千噸トナルヘク若シ新艦各約四萬五千噸トスレハ二隻ノ合計ハ九萬噸ニ上ルヘシ然ルニ米國全權ノ提案セル英國ノ割當數字ハ素ト六十萬四千噸ナリシヲ以テ之ヨリ廢棄軍艦九萬六千噸ヲ減シ新艦九萬噸ヲ加フレハ其結果英國ハ五十九萬八千噸ヲ有スルモノトナル右ハ新主力艦二隻及「フード」ヲ含ムモノニシテ此五十九萬八千噸ノ數字ヲ米國ノ場合ニ於ケル五十二萬五千噸ト比較スレハ英國ノ新艦ハ價值大ナルカ故ニ英國ニ對シ噸數上顯著ナル超過ヲ與フルモノナリ

○「バルフォア」氏——原案ニ於テ許與サレタル噸數上ノ超過ハ若干英國軍艦ノ老齡ニ基クモノナリト「ヒューズ」氏ノ御議論ナリシト承知ス

○「ヒューズ」氏——然リ、右ノ超過ヲ米國ノ標準ニ迄引下ル爲ニハ英國ニ於テ尙三隻ヲ減セサルヘカラス但シ若シ英國カ其新艦ヲ各々三萬五千噸ニ制限セラルナラハ廢棄スヘキ軍艦ノ追加ハ之ヨリ少數ニテ足ルヘシ

○「バルフォア」氏——本噸數問題ニ關シテ米國式ノ測定法ト英國式ノ夫レト相異スル所アル事實ニ依リ幾分ノ混亂ヲ來タセルモノノ如シ予ハ曰下何レニヨリ討議中ナルヤヲ知ラス

○「ヒューズ」氏——予モ亦之ヲ知ラスト雖モ予ノ舉ケタル數字ハ全部同一基準ニ引直シタルモノナリ

○「バルフォア」氏——討議ヲ長引カスハ甚タ好マサル所ナルモ目下數點ニ關シ專門家ニ之ヲ附セサル可ラサルモノアルヲ感ス其事狀次ノ如シ

英國海軍專門家ハ新計畫ヲ犧牲トスル事ヲ非常ニ好マサルモノノ如ク其之ヲ好マサルハ一ハ彼等ノ新計畫ヲ實現セント欲スルノ事實ニ基クモノナルカ一ハ三萬五千噸ノ最大限度ヲ受諾スルトキハ噸數上ノ損失ヲ償フニ有勢ナル能率ヲ以

テセサル可ラサルニ基クモノナリ英國ハ英國軍艦ノ質ニ於ケル缺點ヲ償フニ隻數ヲ以テセサル可ラサル事ハ米國及日本ノ常ニ之ヲ認メタル所ナルカ右ハ英國海軍專門家ノ好マサルトコロニシテ之カ原則ノ適用サルヘキ期間ノ短少ヲ望ムモノナリ然ルニ右ノ期間ハ短少セラルル事ナク反テ新ナル計畫、新ナル實驗及新ナル請負契約ノ爲延長セラレントス之ヲ以テ英國專門家ハ新主力艦ノ計畫ヲ保持セン事ヲ熱望スルモノナリ

○「ヒューズ」氏——出來得ルナラハ最大限度ヲ三萬五千噸ニ限ラム事ヲ熱望ス然ラスンハ各國ハ其軍艦ノ規模ニ於テ互ニ建造競争ヲナスノ努力ヲ生スヘケレハナリ
決定スヘキ問題ハ次ノ二點ニアリ

第一ハ英國ニ於テ右ノ提案ヲ受諾スヘキヤ右ハ代艦期ニ影響スルモノナリ

第二ハ英國ノ保有スヘキ隻數ナリ予ノ提案ニ依レハ若シ一方陸奥ヲ保留シ攝津ヲ廢棄シ他方米國海軍ニ對シテ之ニ對應スヘキ變化ヲ認ムルトキハ制限噸數ノ變化ニ止マリ比率ハ同一ヲ保ツテ原案ニ於ケル米國海軍ニ對スル五十萬噸ノ數字ハ五十二萬五千噸トナリ日本ニ對スル三十萬噸ノ數字ハ三十一萬三千噸トナルヘシ然ルニ英國ニ對シテハ原案ノ基礎ニ依レハ六十萬四千噸即チ米國海軍ニ對スル新ナル限度ヲ超過スル事七萬九千噸ナルトコロ右ノ計算ハ英國軍艦ノ艦齡ニ基クモノナレハ右ハ新艦カ建造サル迄ノ期間ニ於テ有數ナルモノニシテ其以後ハ然ルヲ得ス若シ英國ニシテ各四萬五千噸ノ軍艦二隻即チ合計九萬噸ヲ建造スルトスレハ右ハ當初ノ超過七萬五千噸(六十萬噸對五十二萬五千噸ノ差)ニ加ヘテ十六萬五千噸ノ合計超過トナルヘシ斯ノ如キ超過ハ新艦ヲ有スル時期ニ於テハ何等理由ナキモノトナル之ヲ以テ若シ之ヲ償フ爲メニ二萬三千噸乃至二萬四千噸ノ舊艦ヲ廢棄セントスルナラハ英國ノ規模ヲ米國ノ五十二萬五千噸ノ基礎ニ迄引下ス爲メニハ隻數六乃至七ヲ要スヘシ但建造期ニ於テハ英國ハ平衡ヲ得ル爲ニ右ノ超過噸數ヲ保留スルヲ許ササルヘシ

○「バルフォア」氏——右ノ事態ハ充分了解セラレシヲ以テ英國專門家ト相談スヘシ

○「ヒューズ」氏——英國カ具體案ヲ作成スルヲ待ツヘシ

次ノ會合ノ時日ニ關シ小時討論アリタルカ「バルフォア」氏ハ若シ出來得ヘクンハ今夕討議ヲ繼續スル様努力スヘシトテ其節ハ「ヒューズ」氏及加藤男ニ電話シ「ヒューズ」氏私宅ニ於テ會合スルコトニ決ス尙新聞ニ對シテハ右ノ會合ニ付キ何等通知ヲ與ヘサル事ニ決ス

註 加藤全權ハ右會合ノ模様ヲ報告スルト共ニ左ノ意見ヲ附言セリ

諸テ陸奥ハ既成艦ナルヲ以テ建造中ノ軍艦ニ入ル限リニアラス然カモ英米ニ新艦ノ完成又ハ起工ヲ許スハ理論上不都合ナリト雖モ一方勢力ノ實際ニ想到シツツ比率ヲ考フルトキ更ニ又如何ニシテモ陸奥ヲ加フルノ絶對必要ヲ考フルトキハ之レ又止ムヲ得サル次第ナリト認メ終ニ同意ヲ表セリ御諒知ヲ乞フ

第三項 第五回會見

○一千九百二十一年十二月十四日（水曜日）午後四時華府「ヒューズ」氏私邸ニ於テ

○出席者

亞米利加合衆國

「ヒューズ」氏

「ジェー、アール、クラーク」氏帶同

英 帝 國

「バルフォア」氏

「サー、モリス、ハンキイ」氏帶同

日 本 國

加藤男爵

市橋氏（通譯）

○「ヒューズ」氏——ハ現下ノ形勢ニ付左ノ如ク概論スル所アリタリ予ハ米國ノ爲ニ日本カ陸奥ヲ留保シ攝津ヲ廢棄スルコトニ應スル爲「コロラド」及「ワシントン」ヲ完成シ「ノースダゴタ」及「デラウエア」ヲ廢棄スルノ提議ヲ爲セリ加藤男ハ之ニ同意ヲ表セリ

「バルフォア」氏ハ追加艦二隻ヲ建造シ之ト同數ノ軍艦ヲ廢棄スルコトヲ提議セリ茲ニ於テカ二個ノ問題ヲ生セリ其ノ一ハ新艦ノ噸數ヲ如何ニスヘキヤト云フコトニシテ其ノ二ハ之カ代價トシテ何隻ノ軍艦ヲ廢棄スヘキヤト云フコトニアリ

加藤男及予ハ英國カ新艦二隻ヲ建造スルコトニ對シ何等ノ反對ヲ有セス只建造スヘキ軍艦ハ米國提案ニ依リテ許容セラレタル所ノ最大限度ニシテ且偶々陸奥ノ噸數ニ當ル所ノ三萬五千噸ヨリ之ヲ大ナラシムルカ否ニ付問題ヲ生ス而シテ之ハ代艦ノ問題ニ影響スル所アルナリ何トナレハ若シ英國ニシテ四萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ建造ストセハ（「バルフォア」氏ハ更ニ夫レ以上ナルヘシト挿言ス）代艦時期開始ニ當リ英國ニ如何ナル影響アルヤノ問題惹起スレハナリ米國原案ニ於テハ亞米利加ノ五十萬噸ニ對シ英國ニ六十萬四千噸ヲ許容セルカ此ノ十萬四千噸ノ超過ハ英國軍艦ノ艦齡老イタルノ事實ニ鑑ミ許與セルモノナリ然ルニ若シ英國ニシテ新艦二隻ヲ所有スヘシトセハ之ニ何等カノ變更ヲ加ヘサルヘカラス此ノ如クシテ代價ノ程度ヲ如何ニスヘキヤノ問題生ス

○「バルフォア」氏——英國カ新三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ設計スルヨリハ寧ロ超「フード」艦二隻ヲ得ムコトヲ希望スルノ理由ハ後者ハ其ノ設計、契約締結、材料蒐集並契約者ノ設備及機械ニ關スル準備既ニ整ヘルヲ以テ英國ハ之ニ依ツテ少クトモ一年早ク「ジュトランド」後型艦ヲ有スルニ到ルヲ得ルニ在リ氏ハ更ニ「フード」ハ僅ニ其ノ一部カ「ジュトランド」後型艦タルニ過ス英國ハ其ノ他ニ「ジュトランド」後型艦ヲ有セサルニ米國ハ三隻日本ハ二隻ヲ有スルノ故ヲ以テ英國海軍ハ「ジュトランド」後型艦ヲ有センコトニ焦慮スル旨ヲ指摘セリ米國政府ハ其ノ提案ニ於テ英國ノ要求ニ屬スル爲其ノ最善ヲ盡シ舊式艦數隻ヲ留保ヲ之ニ許容シタルモ海軍側ハ他國ノ海軍ト同數ノ「ジュトランド」後型艦ヲ有セサルコトヲ甚タ遺憾トセルハ自然ナリ

「ヒューズ」氏ノ正シク云ハレタル如ク此等ノ軍艦ニシテ建造セラレタル場合其ノ大サノ埋合セハ果タシテ之ヲ如何ニスヘキヤ予ハ之ニ對シ何等ノ計畫ヲモ述フル所ナカリシカ超「フード」型艦二隻ノ噸數ニ略々概當スル所ノ「キング、ジョージ」五世型艦四隻ヲ犠牲ニセムトノ決意ヲ有ス此ノ如クニシテ噸數ノ問題ハ略々從前通りナルヘシ之ニ對シ「ヒューズ」氏ハ英國ハ最早此ノ如キ大ナル超過噸數ヲ有スルノ權利ナキ旨ノ尤モナル反對ヲ爲サレタリ蓋シ英國カ超「フード」型艦二隻ヲ有スルコトニ依リ其ノ軍艦ノ素質ヲ優秀ナラシムルコトヲ得ヘケレハナリ之ハ尤モ至極ノ義ニシテ斯ク云ハ

ルルトキハ予ハ之ニ答フル所ヲ知ラス而シテ予ハ之ニ付専門家ニ問ヒタル所彼等ハ指摘シテ曰ク「ノース、ダコタ」及「デラウェア」ニ對シテ「キング、ジョージ」五世型艦四隻ヲ放棄スルコトニ依リ英國ハ軍艦表中ノ軍艦ヲ處分スルコトナリ此部分ニ於テハ軍艦ノ比較的價值英國ニ利益トナルヘキモ軍艦表ノ上部ニ眼ヲ轉シテ留保セラルヘキ主力艦ヲ見ルトキハ利スルモノハ全ク米國ナリト予ハ加藤男カ軍艦表上米國軍艦ニ對應スル所ノ軍艦ニ注意ヲ向ケラレムコトヲ望ム即チ之ニ依リ男カ英國軍艦ハ噸數及艦齡ニ於テ劣勢ナルヲ見ラルヘシ然ノミナラス英國軍艦ハ五年間ノ戰爭ニ從事セルノ事實ニ依リ其ノ艦齡以上ニ毀損セラレタルコトヲ留意セサルヘカラス之ハ予カ前夜「ヒューズ」氏ヲ訪問シタル際ニ説明シタル如ク諸氏ノ考慮ヲ求メサルヘカラサルナリ予ハ更ニ今朝専門家ト會見シ更ニヨク現下ノ狀態ヲ處理スルノ道ヲ知ルニ至レリ之ニ依リテ予ハ現今以上ノ如キ意見ヲ諸氏ニ述フルトコロアリシナリ

○「ヒューズ」氏——「バルフォア」氏ノ擧ケラレタル論點ハ極メテ明白ナリ米國全權カ其ノ原案ヲ提出シタル際ニ米國ノ五十萬噸ニ對シ英國ニ六十萬四千噸ヲ與ヘタルハ米國ノ目的トセル標準ハ五十萬噸ナリシモ艦齡ノ老イタルト戰爭ニ於テ毀損セラレタルコトヲ充分計算ニ入レタルハナリ只今考慮セサルヘカラサルノ點ハ日本及米國海軍カ有スル所ノ何物ニモ優リテ遙カニ強力ナル所ノ約四萬八千噸ノ大艦二隻ノ生スル爲ニ其ノ影響ノ如何ナルヤニ在リ之カ爲噸數上九萬六千噸ノ變化起ルヤ明白ナリトス（「バルフォア」氏ハ更ニ其レ以上ナルヘシト言ヲ挿メリ）若シ夫レ以上ナラハ議論ハ愈々面倒ト爲ルヘシ若シ九萬六千噸カ主力艦ニ關シ英國噸數ニ加ヘラレ「キング、ジョージ」五世型軍艦四隻（此等軍艦ハ軍艦表上最後ノ部分ニ在ルモノニシテ各約二萬四千百噸即チ合計九萬六千百噸トス）カ廢棄サルルトセハ噸數ハ正ニ從前ノ通りト爲ルヘシ

之ハ即チ舊式艦四隻ニ代フルニ英國ハ世界ニ於ケル何物ニモ優ル或ハ米國又ハ日本ノ有スル何物ニモ優ル所ノ最新式艦二隻ヲ有スルニ至ルヘシ噸數ニ於テハ新艦ハ舊艦ト平衡ヲ保ツヘキモ新艦二隻ノ實力ハ遙カニ舊艦ノ夫レニ優ルナリ實際噸數ノミニ付キ論スルハ新艦二隻ノ加ヘラレタル所ノ艦隊ノ優勢及能率増進ヲ計算ニ加ヘサルモノナリ故ニ問題ハ

英國ノ新
「フット」
ニ對スル
米對案

如何ニセハ能率ニ於テ大ナル増進アリアルニ對シ公平ナル代償ヲ爲スヤニ在リ若シ新艦二隻ノ隻數ト廢棄セラルヘキ舊艦四隻ノ噸數カ等シト謂ハハ新艦二隻ノ優勢ハ議論ノ外ニ置カレ英國ハ尙舊標準五十萬噸ニ比較シ十萬四千噸ノ優勢ヲ有スルナルヘシ此ノ標準數ハ今ヤ五十二萬五千噸ニ増加セラレタルヲ以テ殘ル七萬五千噸ニ何トカ片ヲ付ケサルヘカサルコトニ爲リ居ルナリ故ニ問題ハ此不平均カ餘リニ大ナルヤ否ト謂フコトニ在リ米國専門家ノ意見ニ依レハ「ローヤル、サヴァレン」及「クキン、エリザベス」級ノ軍艦ト之ニ對應スル米國軍艦トノ間ノ不平均ハ著大ナルモノナリトスルモ尙七萬五千噸ノ優勢ヲ價フニハ充分ナラサルナリ茲ニ於テカ我海軍専門家ハ大艦更ニ一隻ヲ英國海軍表中ヨリ除去スヘシトノ考ヲ有セリ若シ之ニシテ實行セラレムカ我海軍専門家ハ英國軍艦噸數ノ超過ニ對シ反對スルコトナカルヘシ假令ハ二萬九千三百四十五噸ノ「タイガー」ヲ除去スト假定セムカ英國ハ尙六千噸ノ優勢ヲ有スヘシ予ハ我専門家カ之ニ反對スヘシトハ思惟セス予ハ此ノ方法ノ單ニ日本ノミナラス佛國及伊國ニ及ス效果ヲモ考慮セリ予ハ未タ佛國全權ニ對シ本件ニ付キ話ル所ナキモ若シ英國軍艦ノ噸數ニシテ増大セラレムカ佛國全權カ之ヲ過大ナル要求ノ根據ト爲スヘキハ疑ヲ容レス若シ英國ニシテ追加セラルヘキ代艦一隻ヲ除去スルコトニ同意セハ予ハ英國軍艦ノ超過ニ付得セシムルコトヲ得ヘシ

○「バルフォア」氏——余ハ今ヤ「ヒューズ」氏カ留意セサルヘカラサルニ留意セルヤ否ヤ疑ハシキ點ヲ擧ケムトス「ヒューズ」氏ハ若シ英國ニシテ軍艦五隻ヲ犧牲ニセハ其ノ大ナル超「フッド」型軍艦二隻ノ建造ヲ續行スルコトヲ英國ニ許容スヘシト提議セリ予ハ其ノ一隻ヲ「タイガー」ニスヘキヤ又ハ其ノ他ノ軍艦ニスヘキヤニ付海軍専門家ニ協議スヘキモ余ノ考フル所ニ依レハ最終ノ結果ハ之ニ依リ大ナル影響ヲ受クルコトナカルヘシ

茲ニ新論ヲ説明スルニ當リ余ハ先ツ「ヒューズ」氏カ通常ノ建造及代換ヲ開始シ一方軍艦ヲ廢棄スルト共ニ他方之カ代艦ヲ建造シ以テ計畫通りノ結果ヲ得ントスル時期ヲ想像セラレムコトヲ望ム其時英國ハ尙米國又ハ日本ノ如何ナル軍艦ヨリモ著シク大ナル所ノ軍艦二隻ヲ所有スヘシカクテ恐ラク米國ハ「貴君ハ貴君ノ希望ニ依ツテ大艦二隻ヲ完成シタリ

然ルニ今ヤ我等ハ通常ノ代換状態ニ達シタルヲ以テ貴君ハ吾人ニ比シ二萬五千噸乃至三萬噸ノ優勢ヲ持スルモノナリ」ト云ハムトスヘシ「ヒューズ」氏ハ更ニ夫レ以上ナルヘシト遮ル之レ吾人ノ堪フヘカラサル地位ナリ

○「ヒューズ」氏——素ト英國噸數ハ六十萬四千噸ナル旨ヲ指摘シテ曰ク若シ該噸數ヨリ二萬九千噸ノ軍艦ヲ除去セハ米國ノ五十二萬五千噸ニ對シ英國ハ五十七萬五千噸ヲ有シ其ノ差ハ即チ五萬噸ト爲ルナリ

○「バルフォア」氏——予ハ全ク通常ノ状態ニ達シタル場合ヲ論シタルナリ其ノ時米國及英國ハ三萬五千噸ノ軍艦十五隻日本ハ九隻ヲ有スルニ至ルヘク唯英國軍艦ノ中其ノ二隻ハ四萬九千噸程度ノモノナルヘシ米國ハ其ノ時身ヲ轉シテ本計畫ハモトモト二者カ噸數ニ付テ同等ナルヘシト云フニ在リタリ然ルニ英國ハ今ヤ三萬噸ノ優勢ヲ獲得シタルヲ以テ何等カ之ヲ公平ナラシムルノ處置ヲ講セサルヘカラストイフヘシ「ヒューズ」氏ハ此ノ點ニ付キ考慮セラレタルヤ否ヤ

○「ヒューズ」氏——然リサレド予ノ考ハ「バルフォア」氏カ其ノ専門家ト共ニ本件ヲ考慮スルニ至ラハ該時期ニ到達シタルトキハ此等大艦カ一ノ厄介物タルコトヲ知ルニ至ラムト謂フニ在リ

英國ハ此等ノ大艦ヲ二十年間モ所有スヘク其ノ爲之カ代艦セラルル迄ニハ長時間ヲ經過スヘシ同時ニ此等大艦ハ英國噸數ノ大部分ヲ占ムルヲ以テ此三萬千噸ノ軍艦ヲ以テ代換スルコトヲ遲延セシムヘシ予ハ英國全權カ此容易ナラサル困難ニ打勝ツ爲如何ニ提議セラルルヤ怪ミツツアリタリ其ノ理由ハ今日超過噸數ヲ他ノ軍艦ヲ廢棄スルコトニ依リテ解決スルコトハ簡單ナルモ通常状態ノ時期ニ到達スルトキハ此等軍艦ノ超過噸數ハ厄介物タルニ到ルヘシ

○「バルフォア」氏——予ハ「ヒューズ」氏ノ意見ニ必スシモ同意セサルモノニ非ス然リト雖モ米國専門家カ超「フールド」型軍艦ノ攻撃的能力ヲ誇張スルノ傾向アルコトヲ指摘セムト欲ス

予ノ理解スル所ニ依レハ此等大艦ハ極メテ大ナリ蓋シ潜水艇及航空機ニ對スル強力ナル防備設備アリテ之カ爲噸數ニ於テ極メテ大ナル増加ヲ齎ラセハナリ攻撃上ニモ強力ナリト雖米國専門家ノ思量スルカ如クハ強力ニ非ルナリ

○「ヒューズ」氏——夫ハ一應尤モナルモ此等大艦ノ爲大ナル軒輊ヲ生スヘシ

○「バルフォア」氏——今ヤ英帝國全權ハ「キング、ジョージ」型軍艦二隻ノ犧牲ヲ以テ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ採ルカ或ハ

「キング、ジョージ」型軍艦四隻及「タイガー」ヲ犧牲ニシテ超「フールド」型軍艦二隻ヲ採ルカノ場合ニ立至レリ

サレト三萬五千噸ノ點ニ關シテハ予ハ此ノ限度ヲ保持スヘキヤ否ヤハ之一ノ未決問題トセムト欲ス余ハ此點ニ關スル何等ノ先入主ナシニ此問題ヲ論セサルヘカラスト蓋シ余ハ此制限ノ數字ヲ増加スルニ對シ根據ヲ有スト信スレハナリ

○「ヒューズ」氏

三萬五千噸軍艦二隻ニ付キ述ヘンニ之カ合計ハ七萬噸ト爲ル然ルニ「キング、ジョージ」型軍艦二隻ハ四萬八千噸ニ過キス從ツテ若シ僅カ二隻ヲ廢棄ストセムカ英國ハ新式艦ノ利ヲ得ルノミナラス單ニ四萬八千噸ヲ廢棄スルトセハ更ニ三萬二千噸ノ利ヲ得ルニ至ラム、日本カ陸奥ヲ加フルニ因リ其ノ噸數ハ増シテ三十一萬一千噸ト爲ルハ眞實ナルモ英國ニ對シ其ノ軍艦噸數ニ鑑ミテ許與セラレタル所ノ差異ハ今ヤ三萬五千噸ノ軍艦カ加ヘラルル結果消滅スヘシ三萬五千噸ノ軍艦二隻ハ合計七萬噸ト爲ルヲ以テ若シ之カ十萬四千噸ノ原噸數ニ添加サレムカ其ノ結果英國噸數ノ超過ハ十七萬四千噸ト爲ルヘシ之ヲ五十二萬五千噸ノ新米國標準ニ比較セムカ英國ハ十四萬九千噸ノ利ヲ得ヘシ若シ此ノ噸數ヲ一噸ニ對シ一噸ヲ差引クトセハ合計十四萬九千噸ニ至ル迄舊式艦ヲ廢棄スルノ必要アルヘシ尤モ「ローヤル、サヴァレン」及「クエ、エリザベス」級軍艦ノ劣質ノ爲多少ノ代償ヲ英國カ受クルハ適當ナリトス茲ニ於テカ三萬五千噸ノ軍艦二隻ニ關シ考慮ヲ加ヘサルヘカラル重大問題生ス該問題ハ如何ニシテ新式艦ノ増大セラレタル能率ニ對シ代償ヲナスヤニ在リ問題ヲ具體化シテ英國カ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ建造スト想像セムニ其ノ合計ハ七萬噸ト爲ルヘシ

而シテ若シ「キング、ジョージ」五世級軍艦四隻ヲ廢棄スルトセムカ之カ合計ハ九萬六千噸ト爲ルヘシ之ヲ六十七萬四千噸ヨリ差引カハ英國ハ五十七萬八千噸ヲ有スヘシ即チ米國標準ヲ超ユルコト約五萬噸ノ超過ト爲ルナリ而シテ之ハ予ノ見ル所ヲ以テスレハ「ローヤル、サヴァレン」及「クエ、エリザベス」級軍艦ノ爲ニ爲ス極メテ寛大ナル處置ナリ換言スレハ其ノ結果タルヤ超「フールド」型軍艦二隻ニ對スル計算ノ場合ニ生スル所ト同様ナルヘシ即チ此ノ場合ニハ二

萬六千噸ノ「タイガー」モ亦超「フード」型軍艦ノ大ナル能率ノ爲代償トシテ廢棄セラルヘキモノトス若シ僅ニ「キング・ジョージ」五世型軍艦二隻ヲ三萬五千噸ノ軍艦二隻ニ對スル代償トシテ廢棄スヘシトセハ英國ハ新式艦ノ超過率ニ加フルニ四萬八千噸ノ超過能率ヲ有スルニ至ルヘシ

○「バルフォア」氏——然ラハ「ヒューズ」氏ノ意見ハ如何

○「ヒューズ」氏——予ハ未タ本件ニ付専門家ト最終的ニ論スル所ナカリシモ予ノ考フル所ニ依レハ若シ英國カ超「フード」型軍艦二隻ヲ建造シ「キング・ジョージ」型軍艦四隻及「タイガー」ヲ廢棄トシテモ尙五萬噸ノ超過噸數ヲ有スヘシ然レトモ之ハ米國カ「ローヤル・サヴァレン」及「クキン、ユリサベス」級軍艦ニ對シテ有スル所ノ優勢ニ依リテ償ハルヘシ然ルニ若シ英國カ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ以テ満足セムトスレバ「キング・ジョージ」型軍艦四隻ヲ犠牲ニセサルヘカサルモ「タイガー」ヲ殘スコトヲ得ヘシ

英國噸數ノ超過ハ此ノ場合ニ於テモ尙佛國ニ對シテ之ヲ説明セサルヘカサルカ予ノ考フル所ニ依レハ陸奥カ進水セラレシ事實及英國軍艦ノ艦齡ニ顧ミ之ヲ爲シ得ヘシ

○「バルフォア」氏——御説尤モナリサレト予ハ今一度専門家ト相談セサルヘカラス予ハ左ノ提案二個ノ中孰レカヲ選擇スルノ條件ノ下ニ協定ニ到達シタリト云ハムト欲ス

第一提案、英國ハ超「フード」型軍艦二隻ヲ建造シ舊式軍艦五隻ヲ廢棄スヘシ

第二提案、英國ハ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ建造シ軍艦四隻ヲ廢棄ス尤モ予ハ専門家カ此ノ四隻ヲ以テ適度ナルモノナリト同意スルヤ否ヤハ知ラス

○「ヒューズ」氏——加藤男カ賛成セハ之ヲ提案トスルニ異議ナシ

○加藤男——前記ノ提案ニ何等ノ反對ナシ

○「バルフォア」氏——事情右ノ如クナルヲ以テ予ハ専門家ト相談セサルヘカサルヲ以テ多少取引のナル本問題ヲ離レ三

軍艦標準
噸數問題

萬五千噸ノ基礎ニ關係アル所ノ海軍勢力ノ問題ヲ論スルコトヲ提議ス英國専門家ハ三萬五千噸ヲ米國噸ノ四萬噸又ハ「レジェンド」噸ノ三萬千噸ニ引上ケンコトヲ欲セリ之ハ一ノ重大ナル論點ナリ日英米三國ノ海軍ハ主力艦ノ艦形又ハ數ヲ制限シツツアルモ會議ハ空軍力ノ發達ニ何等ノ制限ヲ置カムトセス又潛航艇ヲ制限スルコト或ハ不可能ナルヘク水雷ノ發達ヲ制限スルコトハ明ニ不能ナリ斯クシテ會議ハ主力艦ノ力ヲ制限シ空中及海底ノ攻撃ノ發達ニ何等觸ル所ナクシハ國ノ大小ヲ問ハス世界一切ノ國ハ此等ノ武力ヲ與フ限リ發達セシムルコトヲ得ム

予ハ日英米三國カ此ノ點ニ關シヨク了解セリヤ否ヲ疑フ予ノ顧問等ハ防禦力増加ヲ必要ナリト考ヘタリ然レトモ之ト同時ニ砲力ヲ維持スルコトハ不可能ナリ予ハ一方英國海軍専門家ト他方米國専門家及日本専門家トノ間ニ専門的意見ノ相違アルコトヲ知レリ日米ハ其ノ軍艦ニ巨砲ヲ選ヒ英國ハ其ノ他ノ方面ニ力ヲ盡セリ然リト雖モ皆海軍國トシテ防禦方法ヲ發達セシムルコトノ重要ナルコトニ關シテハ即其ノ利害ヲ一ニス予ハ我同僚諸氏カ以上ノ理由ニ依リテ主力艦ノ艦型ヲ増大スルノ必要アリヤ否ヤニ關シ各々其ノ専門家ト相談セムコトヲ望ム又若シ空中及海底攻撃力發達ストセハ狀態再考ノ爲再ヒ會合スルコトノ可能性ニ留意スヘキヤ否ヤニ關シ問題ヲ生ス

○「ヒューズ」氏——今回ノ會議ノ一切ノ計算ハ米國噸數ノ増加ニ對スル「バルフォア」氏ノ提案ヲ考慮スルヲ以テ可ナリト思惟ス予ハ此ノ問題ニ關シテハ何人ヨリモ智識乏シ予自身ハ標準ノ何タルカヨリモ一定ノ標準ヲ得ルコトヲ重大視スルモノナリ予ノ目的ハ艦型ニ關スル競争ヲ避ケムコトヲ以テ第一トス主トシテ此考ヘニ基キ米國政府ハ三萬五千噸ヲ以テ限度ト爲セリ蓋シ之ハ水上ニ浮ヘル最大軍艦ノ艦型ナレハナリ予ハ海軍ニ關スル書物ヲ餘リ讀ミ居ラスト雖造船藝術ニ關シ將來ヲ豫見スルコトノ極メテ困難ナルニ驚ク、之カ發達ノ進路ニ關シ何等カ計算ノ基礎ヲ發見スルコトハ不可能ナリ或發明起リテ主力艦ヲ全ク無用ニナラシムルコトアルヘク或ハ反對ニ或反對發見アリテ之ヲシテ從來ヨリモ更ニ價値アルモノト爲スコトアルヘシ故ニ若シ吾人ノ相互利益ニシテ脅威セララルコトアラムカ噸數ヲ増加スルノ取極ヲ爲スニ何等ノ困難ナカルヘシ然リト雖モ今直ニ増加ニムトノ提議ニ關シテハ若シ四萬噸ニシテ之カ基礎トシテ採用セラレムカ

後ニ至リテ或ハ四萬五千噸或ハ五萬噸ヲ採用スヘカリシコトヲ發見スルヤモ知レス斯クシテ或ハ今日五萬噸ト爲スヘシトイフニ到ルヤモ知ルヘカラス

然リト雖モ現在ニ於テハ將來ニ關シ一切ハ全ク暗黒中ニ在ル故予自身トシテハ艦型ヲ増大スルカ如キコトハ好マサルモ軍艦表ニ一ノ變更ヲ加フルコトニ付テハ何等特殊ノ困難ヲ置ク者ニハ非ス英國力超「フッド」型軍艦二隻ヲ建造スト想像セムニ予自身ハ之ニ満足ヲ感スルモノナリ蓋シ予ハ偉大ナル親愛スル國力充分ニ武装セルヲ見テ喜ヘハナリ然リト雖モ英國カ世界ノ何國ヨリモ大ナル軍艦ヲ有スヘシトノ提案ヲ揭ケテ會議ニ望ムコトハ餘リ好マサル所ナリ之ハ世界中ヨリ惡ク執ラルヘク又予モ必要ノ故ヲ以テ之ニ賛成セリト云フハ欲セス然ノミナラス若シ全世界ニシテ英國ノ例ニ倣ヒ大艦ヲ建造セハ益々世論ノ囂々タルヲ見ム

○「バルフォア」氏——英國ハ米國ヨリモ空中及海底ノ危險ヲ多ク感ス蓋シ其ノ軍艦ハ數多ノ國カ脅威スルコトヲ得ヘキ狹隘ナル海峽ニ於テ行動セサルヘカラサレハナリ

○「ヒューズ」氏——此等ノ軍艦ヲ建造スルニハ巨額ノ費用ヲ要スヘキ旨ヲ指摘ス

○「バルフォア」氏——至極御尤ニシテ大藏大臣カ甚タ困惑スヘキヲ予ハ恐ル

○加藤男——一専門家トシテノ見地ヨリ予ハ「バルフォア」氏ノ提起シタル提議ニ對シ一言アラムトス余ハ艦型ヲ制限スヘシトノ提議ハ甚タ賢明ナリト考フサレト大砲ノ大キサモ亦制限セラルヘキモノナリ然ラズムハ大砲ノ競争ヲ見ルニ到ラシ而シテ又此ノ點ニ關シ若シ十六吋ヲ以テ砲型ノ最大限度ト定メンカ大砲ノ性質ニ付テ競争ヲ生スヘシ即チ大砲ノ専門的性質ニ關シテ競争起ルヘク各國民ハ勉メテ此口徑ヲ以テシテ今日知ラレタルヨリ以上ニ強力ナル大砲ヲ造ルニ努力スヘシ船艦ニ關シテハ予ハ一専門家トシテノ見地ヨリ三萬五千噸ヲ以テ理想的ニ中庸ヲ得タルモノト考フ

○「バルフォア」氏——兎ニ角實際上予ハ次ノ如ク要約セラルル所ノ二個ノ提案ニ關シ専門家ト協定セサルヘカラス

提案第一、英國ハ超「フッド」型軍艦二隻ヲ建造シ「キング、ジョージ」五世型軍艦四隻及「タイガー」ヲ廢棄スヘシ

提案第二、英國ハ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ建造シ「キング、ジョージ」型軍艦四隻ヲ廢棄スヘシ

予ハ本件ニ付専門家ト討議スルニ當リ「ヒューズ」氏ノ議論ヲ誤リナク傳ヘタシ「サー、モリス、ハンケイ」ハ「ヒューズ」氏議論ヲ正確ニ書取ルコト困難ナリシヲ以テ今一應之ヲ反覆セラレ度シ

○「ヒューズ」氏——原案ハ噸數ニ關スル限り英米二國ニ對シ左ノ如ク提議セリ

米國 五十萬噸

英國 六十萬四千噸

差額 十萬四千噸

英國ハ今ヤ總計七萬噸ト爲ルヘキ三萬五千噸ノ軍艦二隻ヲ建造スルノ提議ヲ爲セリ十萬四千噸ノ超過ニ七萬噸ヲ加ヘナハ超過合計ハ十七萬四千噸ト爲ルナリ此ノ理由ヨリシテ「キング、ジョージ」五世型軍艦即チ九萬六千噸ヲ差引クノ必要アルヘシ此ノ結果トシテ五十萬噸ノ原案國計畫ニ超過スルコト七萬八千噸即チ五十萬噸ニ比シ五十七萬八千噸ト爲ルヘシ然レトモ米國標準ハ今ヤ五十二萬五千噸ニ増加セラレタルヲ以テ結局五萬三千噸ノ超過ト爲ルヘシ之ハ英國ノ「ロイヤル、サヴァレン」及「クキン、エリサベス」級軍艦ト之ニ對應スル米國軍艦トノ間ニ前者ノ老齡ニ基キ能率ニ差異アルカ爲ニ採用セラルヘキナリ予ハ新英國軍艦二隻カ「メリーランド」型軍艦ニ對シテ有スル超過噸數ヲ考慮セハ極メテ寛大ナルモノト考フ問題ハ只此ノ寛容カ充分ナリヤ又ハ不充分ナルヤニ在リ

若シ僅ニ「キング、ジョージ」型軍艦三隻ヲ廢棄ストセハ差異ハ七萬七千噸ト爲ルヘシ之ハ餘リニ寛大ナルニ過ク加藤男ハ曰ク該提議ハ予ニ採リテ甚タ満足ナルモノナリト又「ヒューズ」氏ハ曰ク米國専門家モ満足シ得ヘキモノト考フ

會議ハ午後六時三十分「ヒューズ」氏宅ニ於テ再會スルコトトシテ午後五時二十分閉會セラレタリ

○千九百二十一年十二月十四日午後六時半

「ヒューズ」氏私邸ニ於テ

○出席者

米、「ヒューズ」氏

「ジエー、アール、クラーク」氏及「ルーズベルト」海軍次官

英、「バルフォア」氏

「サー、モリス、ハンケー」氏

日、加藤 男爵

市橋 氏

英國新
「フリード」
二隻建造
五隻廢棄
ナ承諾

○「バルフォア」氏——専門家ト本問題ヲ討議スルタメ最近ノ數時間ヲ費シタル所彼等ハ英國ハ超「フリード」型二隻ヲ許サ
レ「キング、ジョージ」型四隻及戰闘巡洋艦一隻ヲ廢棄スヘシトノ案ニ付満足ノ意ヲ表セリ

英國三萬
五千噸二
隻建造案
ニハ「レ
ゼント」
噸ヲ用ユ
ルコトヲ
條件トシ
テ同意

但シ英國専門家ハ「タイガー」ヲ廢棄スヘキカ「レバルス」ヲ廢棄スヘキヤニ付自ラ決定シ得ンコトヲ求メタルカ廢棄
軍艦選擇ニ付テハ若干ノ技術的考慮アリテ右ニ付テハ尙研究ヲ要スヘキモ予ニ於テハ「タイガー」ハ「レバルス」ニ對
シ二千噸丈ケ大ナルニ過キサレハ何レニスルモ多大ノ差異ナシト考フルニ傾ケリ右ニヨリ専門家ハ提案第一ヲ英國海軍
當局ニ提出スヘキ案ノ一トシテ之ヲ受スルニ決セリ

噸ノ計算
問題

提案ニ關シテハ彼等ノ難點トスル所ハ該案ニ於ケル三萬五千噸ノ制限ハ米國法ニ據リテ計算セラレタルモノニシテ
「レゼント」噸ニアラサル點ナリ若シ三萬五千噸ナル數字カ日本、佛國其他ノ國ノ造船業者カ使用スルカ如キ「レゼン
ト」噸ニ於テ表ハサレタルモノトスレハ之ヲ受諾スルニ躊躇スルモノニアラスモトヨリ彼等ハ英國計算法ヲ以テ米國式
ニ優ルモノトハ主張セス予自身トシテモ英國法ハ非實質的ナレトモ他ノモノヨリ寧ロ技巧的ナリト考フルニ傾ケリ非實
質的ニ非ルモノハ軍艦ノ積量ナルカ右ハ英國計算法ニ依ル方ヨリ大ナリ米國案ニ依ル噸法ヲ採ル代リニ「レゼント」噸
ヲ採ル時ハ英國海軍當局ノ要求ニ應スルト共ニ「ヒューズ」氏提案ノ數字ト同一ノ噸數ヲ保ツ事ヲ得ヘク加之其差異ハ
建造サルヘキ新艦カ積量ニ於テ約四「バーセント」ヲ増加スルニ過キス然ラハ何故英國海軍専門家ハ噸法トシテ「レゼ

ント」噸ヲ採ルモノナリヤ其理由ハ三大海軍全部ニ關スルモノニシテ同時ニ英國ニ對シ尤モ關係深キモノナリ右ノ理由
ハ海軍ノ比較及軍艦對軍艦ノ價值ノ比較ニ何等關スルモノニアラスト雖英國ニ對シ軍艦ノ積量ヲ米國案ノ提議ニ於ケル
三萬五千噸ヲ之ト同一ナル「レゼント」噸即チ三萬八千噸ニ増加スルヲ許サルルニアラサレハ英國軍艦ハ敷設水雷潛
水艦及航空機ノ攻撃ニ對シ適當ナル防護ヲ施ス事不可能ナレハナリ何國ノ海軍モ之等ノ危險ニ暴露セラレサルモノナシ
ト雖就中英國艦隊ハ主トシテ狹隘ナル海上ニ於テ動作シ從テ敷設水雷潛水艦及航空機ノ害ヲ受シル事多キヲ以テ最モ其
危險ヲ感知ス之ヲ以テ日本及米國モ之ニ多大ノ關係ヲ有スヘシト雖米國海軍ハ本問題ニ對シテハ米國及日本以上ニ利害
關係深キモノナリ英國海軍専門家ハ此噸數ノ増加ヲ得ルニアラサレハ前述ノ襲撃方法ニ對シ適當ナル防護ヲ有スル軍艦
ヲ計畫スルコト能ハストノ明白ナル意見ヲ懷クモノニシテ彼等ハ本會議ニ於テ敷設水雷、航空機及潛水艦ノ發展ヲ停止
スル爲メニ何事モ爲サレサルヲ以テ其進歩ハ自由ニ任セラレ從テ主力艦ノ積量ヲ増加スル外之ト戰フノ道ナキニヨリ増
加サレタル積量ハ防護法ヲ進歩セシムルニ必要ナリト信スルモノナリ右ノ理由ニ依リ英國専門家ハ若シ第二案ヲ採用サ
ル時ハ右ハ「レゼント」噸ノ基礎ニヨリ解釋サルヘキ旨熱心ニ主張セリ

○「ヒューズ」氏——「レゼント」噸ニ依ル増加ハ如何

○「バルフォア」氏——約四「バーセント」ナリ

○「ヒューズ」氏——其差甚タ小ナルヲ以テ恐ラク調停ニ達シ得ヘシ米、日兩國共「バルフォア」氏ノ擧ケラレタル如キ危

險ヲ感スル軍艦ヲ建造シツツアリタレハナリ

○「バルフォア」氏——右ハ現存英國軍艦ノ總テニ就テモ同様ナリ

○「ヒューズ」氏——三萬八千噸迄ノ軍艦ヲ建造スヘシトノ英國提案ニ付「ルーズベルト」中佐ノ意見ヲ問フ

○「ルーズベルト」氏——右ニ付テハ英國及米國海軍専門家ニ意見ノ相違アリ

○「バルフォア」氏——右ノ點ニ付テハ一致アルモノト信ス

○「ルーズヴェルト」氏——事實ハ然ラサルモノノ如シ少クトモ多大ノ意見ノ相違アル事可能ナリ米國海軍専門家ハ軍艦カ大ナレハ大ナル程防備モ完全ナルヘキハ承認スト雖彼等ハ十六吋砲及「バルフォア」氏ノ擧ケラレタル攻撃方法ニ對シ適當ナル防護ヲ施セル軍艦ハ三萬二千噸ニテ建造シ得ヘシト稱ス「バルフォア」氏ノ擧ケラレタル三萬八千噸ノ數字ハ三萬二千六百噸乃至四萬二千三百噸ノ間ニ於テ動キツアル米國専門家ニ同意ヲ與ヘシムルヲ得ス彼等ノ意見ハ三萬八千噸ハ丁度其中點ナリト稱スルニアルヘシ

○「バルフォア」氏——専門家ノ意見ノ相違ハ甚タ驚クニ堪エタルカ英國顧問ハ三萬三千噸ノ軍艦ニ於テスラモ十六吋砲ヲ裝置シ得ヘキヤ否疑アリ英國海軍専門家ハ今日現存セル武器ニ對シテサヘモ充分ナル防護ヲ與ヘサルカ如クニ軍艦ノ大サヲ制限シテ如何ニ之ヲ説明スヘキヤヲ疑ヘリ、況ヤ英國軍艦ハ北海、海峽「ビスケー」灣ヨリ地中海ヲ通スル小海ニ於テ動作セサルヘカラサル事ヲ考慮ニ容ルルニ於テ如何ニシテ之ヲ説明スルヲ得ムヤ

○「ヒューズ」氏——然ラハ英國海軍専門家ノ意見ハ三萬五千噸ノ制限ヲ容ルルヲ得ストナスモノナリヤ

○「バルフォア」氏——若シ「レゼンド」噸ヲ用フルナラハ本案ハ受諾シ得ヘシ

○「ヒューズ」氏——右ノ點ハ第一提案ニ關スルモノト承知ス右ハ三萬八千噸ニ當ルモノナリ然ラハ三萬五千噸級ニ隻建造ノ第二案ハ撤回セルモノナリヤ

○「バルフォア」氏——若シ三萬五千噸カ「レゼンド」噸ニシテ即チ米國計算法ニ於ケル三萬八千噸ニ當ルモノトスレハ之亦一案ナリト思フ

○「ヒューズ」氏——右ハ將來軍艦ニ對スル最大限度ナルヘシトノ考案ナリヤ

○「バルフォア」氏——之ヲ肯定ス

○「ヒューズ」氏——三萬八千噸ノ最大限度ハ米國海軍ニトリ便利ナルモノニアラス

○「ルーズヴェルト」氏——本問題ハ慎重ニ取扱ハルル必要アリ右ノ案ハ米國専門家ヲ新タナル研究ニ導クモノナリ

○「ヒューズ」氏——「バルフォア」氏ハ軍艦積量ノ最大限度カ四萬三千二百噸ニ上ル時モ之ヲ容レラルルヤ

○「バルフォア」氏——英國専門家ハ之ニ反對セサルヘシ予自身ニ於テハ「ヒューズ」氏カ前回ニ述ヘラレタルカ如ク軍艦ノ積量増加ニ反對スル一般の理由以外ニハ之ヲ非難スヘキ理由ヲ有セス

○「ヒューズ」氏米國側ノ考ハ若シ三萬五千噸ノ制限カ容レラレサル時ハ限度ヲ四萬三千噸ニ上クル事必要ナリトナスニアリ

○「ルーズヴェルト」氏——四萬三千二百噸ナルヘシ

○加藤男——右ハ艦船積量ノ最大限度決定ニ關スル問題ナル所各國ハ各自ノ噸數計算法ヲ有スルヲ以テ若シ各國ニ各自ノ方法ヲ採ル事ヲ許ス時ハ非常ノ混雜ヲ來タスヘク從テ最初ヨリ何等カ計算方法ヲ決定スルノ必要アリ噸數ノ最大限度ヲ三萬八千噸ニ上スヘシト「バルフォア」氏ノ提案ニ付テハ其論點ヲ了解スルヲ得ス軍艦ノ威力及性質ハ造船業者次第ニシテ防護設備ハ積量ニモ依ルト雖其搭載スル武器モ亦然リ軍艦ハ防護可能ナル様ニ如何様ニモ計畫シ得ルモノニシテ之レ事實ニ於テ噸數ニ依ルモノニアラス噸數ニシテ一度決定セラレタル上ハ造船業者ハ一定ノ噸數範圍内ニ於テ防護設備ヲ施ス様適當ナル指令ヲ與ヘラルル事ヲ得ルモノニシテ例ヘハ三萬五千噸ヲ限度トスレハソノ内ニテ軍艦ノ攻撃的能率ヲ増ス代リニ其防禦的能率ヲ増ス事モ可能ナリ若シ總テノ國カ望ム所ノ原則ヲ採用スル時ハ總テノ國ニトリ同様ナルヘシ此點ニ於テ艦船積量ノ限度ヲ三萬八千噸トスルモ或ハ三萬五千噸トスルモ差異アルヲ見ス右ハ誠ニ積量ニ無關係ノモノナレハナリサレハ採用セラルヘキ最良ノ案ハ先ツ噸數決定法ヲ決定シ然ル後防護方法ヲ決定スルニアリ

○「バルフォア」氏——英國全權ノ希望スル所ハ積量ノ最大限度ハ如何様ニモアレ各國軍艦ハ其戰鬪能力ニ於テ同等ナルヘキ事ナリ之レ三大海軍國カ相互ニ課セントスル限度ノ意味ニシテ各國ハ空中及水中ヨリスル軍艦ノ破壊ヲ許サル事ニ付テハ共通ノ利害關係ヲ有ス若シ限度ヲ三萬五千噸トスレハ英國専門家ニ於テハ英國軍艦ハ航空機及潛水艦ノ攻撃ニ對シテ適當ナル設備ヲ怠ルニアラスハ米國及日本ノ軍艦ト同等ナル戰鬪能力ヲ有スル軍艦ヲ建造スルコト能ハスト唱フル

モノナリ或ハ米國及日本ハ斯ノ如キ有力ナル大砲ヲ載セ而モ潛水艦及航空機ノ攻撃ニ對スル防護ヲ等閑ニ附スルノ誤ヲ冒セルモノナリト云ハンモ彼等カ正シキヤ或ハ彼等カ過レルヤハ彼等ノ意見ニ依ルモノニシテ少クモ英國海軍ハ北海及地中海ノ如キ小海ニ於テ其軍艦ヲ就役セシムルノ事實ニヨリ事情之ト異ナル所アルヲ以テ專門家ニ於テハ最大限度ヲ三萬八千噸ニ上ケ防禦及攻撃能力ノ分配ハ海軍專門家ノ意見ニ任スル事ニ依リテ公平ニ達シ得ルモノナリトノ見解ヲ有ス

○「ヒューズ」氏——「バルファア」氏ノ意見ハ一定ノ戰闘能力アル戰艦ニ隻ヲ茲ニ與ヘラレタリトセンニ英國軍艦カ小海ニ於テ動作セサルヘカラサル事實ニヨリ英國ハ追加的防護ヲ要求スルモノニシテ若シ三萬五千噸ノ限度内ニ於テ必要ナル防護ヲ施サントスレハ米國及日本ヨリモ劣勢ナル武裝ニ服ササルヲ得ストノ意味ト承知ス

○加藤男——右ノ問題ハ已ニ專門家ノ討議範圍内ニ屬シ右ニ關シ予ノ意見ヲ提出スルコトハ困難ヲ益々大ニスル所以ナルヲ以テ之レ以上ノ議論ニ入ルヲ避ケムト欲ス

○「ヒューズ」氏——幸ニ加藤男ノ意見ヲ聽取スレハ我等ハ啓發サル所アルヘシ

○加藤男——相對的噸數及地理的事情ノ惹キ起ス問題ハ單ナル軍艦積量云々以上ニ錯雜セル性質ヲ有スルモノナリ專門家ノ意見トシテハ「バルファア」氏ノ所言ハ尤モナカラ關係各國ハ他ノ海軍國ノ爲シツツアル所ニ特別ノ利害ヲ感知スルモノナル事實ニ注意スルトキハ各國ハ他國カ例外的ノ性質ヲ有スルコトヲ爲シツツアル事ヲ發見セハ亦其例ニ倣ハサルヘシ主力艦防護ニ關シテハ英國ハ他國ニ比シ最上ノ經驗ヲ有セルモノニシテ米國及日本モ多少ノ經驗ヲ有ス若シ英國カ其地理的事情ニ鑑ミ軍艦ニ特別ノ防護ヲ施ス事必要ナリトセラルルナラハ他ノ海軍關係國モ亦其例ニ倣フヘシ斯シテ實行上ニ於テハ其地理的事情ハ結局軍艦ノ積量ト無關係ニ立ツニ至ルヘク他國モ直ニ英國ノ例ニ從フヘキニヨリ二者ノ間ニ特別ノ關係アリトイフヲ得ス予ノ此意見ヲ提出セルハ「バルファア」氏ノ積量三萬八千噸增加案ニ對シ之ニ賛成又ハ反對セムトスル所以ニアラスシテ予ノ達セル結論ハ計算ノ基礎トシテ噸數ノ最大限度ヲ採用スル事カ重要ナル事ニシテ

一度艦船ノ積量ヲ決定セハ他事ハ海軍技術官ニ任スヘキモノナリトイフニアリ

○「ヒューズ」氏——兎ニ角計算法ニ關シテハ現在迄ニナサレタル如ク一切ヲ一定ノ基礎ニ引直スヘキモノニシテ從來數字ハ米國法ニヨリテ計算セラレタルモノナレハ之ヲ急ニ他ノ基礎ニ變更スル時ハ多大ノ不便ヲ來ス然ルニ總テ協定ヲ得タル事項ハ之ヲ米國計算法ニ引直スコトハ困難ニアラス「バルファア」氏ハ米國法ニヨリ軍艦積量ノ最大限度ニ付三千噸ノ増加ヲ要求セラレタルモノナリ

從テ問題ハ右ノ三萬八千噸案ヲ採用スヘキカ「ルーズヴェルト」中佐ノ提案セル四萬三千二百噸ニ上スヘキヤト云フニアリ「バルファア」氏ノ第一ノ提案ニ依レハ「バルファア」氏ハ「タイガー」ト「リパルス」トノ何レヲ採ルカハ英國海軍當局ニ任スヘシトスル外原案ニ服スルモノト承知ス米國海軍當局ノ關スル限り予ハ之ニ異議ナシ

○如藤男——亦之ニ同意

○「ヒューズ」氏——モシ三萬八千噸ノ限度ヲ讓歩セル上ハ英國ニ於テハ右ノ建造ヲ許サレタル二隻ヲ償フ爲ニ四隻ヲ廢棄セムトスルモノナリヤ

○「バルファア」氏——予ハ之ヲ受諾スルノ決心ナリ

○「ヒューズ」氏——若シ「ルーズヴェルト」中佐提案ノ如ク三萬八千噸ヲ四萬三千二百噸ニ上ス時ハ英國ハ四萬三千二百噸ノ軍艦ノ建造ヲ許サルハ素ヨリナルカ右ハ合計噸數ノ數字及其代價噸數ニ影響ヲ及ホスモノナリ

○「ルーズヴェルト」中佐——右ノ三萬八千噸限度案ニ關シテハ米國海軍造船長官ニ謀ラント欲ス二三時間ノ中ニ回答ヲ與ヘ得ル者ハ彼ヲ措イテ他ニナシ

○加藤男——問題カ三萬五千噸限度ヲ上サント云フニアルナラハ予モ亦海軍顧問ニ謀ラサルヲ得ス

○「ヒューズ」氏——各國トモ第一案ニ同意ヲ得タル所若シ英國ニシテ四萬九千噸ノ軍艦二隻ヲ建造セラルルナラハ右ハ將來ノ最大限度問題ヲ空望タラシムルヘシ若シ期クノ如クスレハ將來ノ軍艦ノ最大限度ハ五萬噸ニ上ケサルヘカラサレハ

ナリ

○加藤男―同意ス但シ英國ノ爲セル犠牲ニ鑑ミ四萬八千噸ノ軍艦二隻ノ建造ヲ許シ將來ニ對シテハ限度ヲ三萬八千噸ニナスヘキモノト思フ

○「バルフォア」氏―上ノ討議中予ハ本問題ニ付思ヒテ廻シタル所専門家ノ議論ハ充分之ヲ説明セルモ熟慮ノ結果彼等ノ正當ナル事ヲ全然信用スルヲ得サルニ至レリ予ハ専門家ニアラスト雖普通ノ人トシテ事實ヲ觀察スルニ水中ノ攻撃ニ對スル防護ヲ重シスヘキカ或ハ其ノ噸數ヲ大砲ニ用フルカハ各國ノ自由トセサルヘカラサル如シ目下ノ所三萬八千噸ノ軍艦ト三萬五千噸トノ軍艦ノ間ニ問題カ別ルル理由ヲ見ルヲ得ス

○「ヒューズ」氏―右ノ御議論ハ予ノ心ニ訴フル所アリテ討議ノ現狀ヲ摘要シテ曰ク第一案ハ廢棄ニ付「リバルス」ヲ選フカ「タイガー」ヲ選フカハ英國當局ノ自由ニ任スコト尙將來ノ最大限度ヲ五萬噸トスヘジトノ點ヲ除ク外ハ一個ノ提案トシテ「バルフォア」氏ノ受諾ヲ得タルモノナリ

○「ルーズヴェルト」氏―噸數ハ先ツ三萬五千噸ニ止ムヘク若シ後ニ至リ豫見スル事難キ事情發生シテ三萬五千噸ヲ不適當時スルニ至ラハ關係國ハ問題ヲ討議シ後ニ至リ案之ヲ訂正スルコトヲ得ヘシ

○「ヒューズ」氏―我専門家側ヨリ若シ三萬五千噸以上ナルヘシトスレハ直チニ四萬五千噸タラサルヘカラストノ如キ意見ヲ聽クカ如キ地位ニアルハ予ノ好マサルトコロナリ

○「バルフォア」氏―予カ決議ヲ妨クル理由トナリタル事ハ甚タ予ノ苦シム所ニシテ予ハ「ヒューズ」氏カ明日佛國及伊太利側ト會見スルヲ得ヘキコトヲ望ミ居タルナリ

○「ヒューズ」氏―予ハ翌日海軍軍備制限ニ關スル新分科委員會ヲ招集スヘク考ヘ居タルカ只今ノ狀勢ニ於テモ明日佛國側ト會見スルコト可能ナルモ之ト同時ニ伊國側トモ會見スルコト同國ニ於テ二國ノ利害關係ハ同一ナリト考ヘ居ル關係上必要ナリト思ハル予ノ望ム所ハ今日何等カノ協定點ニ達シ以テ伊國ニ接スルヲ得ル事ナリ尙其際予ハ協定ノ宣言ヲナ

サムト欲シタルモ不可能ナル事ハ何人ニトリテモ不可能ナリ予ノ避ケント欲スルハ只之レ以上ノ紛議ヲ來スカ如キ陳述ヲ許スコトニアリ

○「バルフォア」氏―「ヒューズ」氏ノ意圖ハ佛伊側ニ對シ具體案ヲ提出セムトスルニアリヤ

○「ヒューズ」氏―「バルフォア」氏ノ意見ニ贊シ得ルコトハ予ノ幸トスルコロナルモ予ノ欲スルハ佛國側ニ於テ後ニ到リ讓歩スル事不可能ナルカ如キ陳述ヲナサシムコトヲ避クルニアリ伊國ハ海軍ノ増加ヨリモ寧ろ縮少ヲ欲スルモノナルモ若シ佛國カ一定ノ噸數ヲ要求スル時ハ伊國モ其例ニ慣ハサルヲ得サルハ疑ナシ予自身ニ於テハ歐洲ノ事態ニ鑑ミ對獨並佛國ノ經濟的及財政的困難ハ佛國ニ對シ新タナル主力艦ノ建造ヲ不可能ナラシムル旨佛國ニ告ケムト欲ス佛國カ大ナル軍備ヲ維持スルコトハ佛國ニトリテ不利益ナリ若シ明日會議ヲ開ク事不可能ナラハ佛國代表者ニ對シ私的ノ會談ヲナシ或協定ニ達スヘキ提案ヲ出サムト欲ス佛國代表者ヨリ絶對的ノ要求ヲ封シ總テノ國ニ對シ妥當ナル協定ニ達スルニ努ムヘシ

佛國ハ約二十二萬噸ヲ有シ其中老齡ナリト雖第一級ノ範圍ニ入ルヘキ軍艦ハ十六萬噸乃至十七萬噸ニ過キス佛國ノ事情ノ他國ト異ナル點ハ其海軍ノ悲慘ナル事情ニ鑑ミ之ニ對シテハ軍艦ノ廢棄ヲ迫ルコト難キニアリ之ヲ以テ之ヲ異ナル基礎ノ上ニ置キ佛國ニ對シテハ十五萬噸ヲ與ヘ尙代艦トシテ十七萬噸ヲ維持スルコトヲ許スナラハ右ハ公正ナル計算ナルカ如シ

○「バルフォア」氏―「ヒューズ」氏カ單獨ニ佛伊側ト會見スルニ付テハ全然贊成ナルモ之ヲ爲ス前ニ米國ハ英國及日本トノ間ニ協定ヲ得タリト云ヒ得ルノ地位ニ達スル事ヲ望ムモノナリ

○加藤男―若シ佛國カ十七萬五千噸ヲ受諾スルナラハ日本ニ於テハ何等異議ナシ右公正ナル數字ナリ

○「ヒューズ」氏―ハ佛國ニ對シ探ラムト欲スル態度ヲ概括シ尙若シ佛國ニ於テ受諾ヤサル時ハ他國ノ地位ニ混亂ヲ與フルモノナル旨指摘ス

○「バルフォア」氏——佛國ニ於テ説得シ難キ時ハ英國ハヨリ大ナル噸數ヲ要求セサルヲ得サルヘク從テ全般ニ對スル困難トナルヘシ

○翌日午前十一時半國務省ニ於テ再會ヲ約シ散會尙ホ

○「ヒューズ」氏——ハ若シ御同意ナラハ佛國及伊國全權ト前以テ會見スル時間ヲ殘シ翌日午前午後新分科會ヲ招集スヘシト述ヘタリ

第五項 第七回會見

○千九百二十一年十二月十五日午前十一時四十五分

國務省「ヒューズ」氏室

○出席者

米 國 「ヒューズ」氏 「デール、アール、クラーク」氏

英 國 「バルフォア」氏 「モリス、ハンケー」氏

日 本 加藤男爵 市橋氏

○「バルフォア」氏——長辯論ニ互ルヲ要スルナキヤヲ恐ルルモノナルカ今朝「ヒューズ」氏ヨリ電話ニテ噸數ヲ三萬五千米噸ヨリ三萬七千米噸ニ増加スヘシトノ提議ヲ承知シ予ハ甚タ之ヲ欣諾スルト共ニ之ヲ記錄ニ殘サント欲スルモノナリ茲ニ於テ予ハ英國專門家ノ意見若クハ予カ彼等ノ意見ト信スル所ヲ述ヘムニ先ツ左程重大ナラスト存スル點ヨリ初ムレハ英國專門家ハ實際の見地ヨリシテ米國式ヲ捨テ英國噸數計算方法即チ「レゼンド」噸法ヲ採ル事ヲ望ムモノナリ彼等ハ國內ニ於テ國内ノ目的ノ爲ニ米國法ヲ採ルコトニ付テハ何等非難スル所ナシト雖之ヲ國際的ノ目的ニ試ムルハ甚タ難シトスル所ナリ米國法ニ依レハ軍需品及補給品即チ貯藏食糧及燃料ノ三分ノ二ハ乗組員ト共ニ艦上ニアルモノト推定スルモノト承知スルカ右ハ一定ノ不安定ヲ含ムモノニシテ之ヲ計量スル事困難ナリ例ヘハ英國政府カ一艦ヲ製造シ其ノ完

噸數計算ノ基礎

成ニ際シ海軍專門家ヲ招致シテ噸數ヲ計量セシムルトスルニ食糧其他ノ三分ノ二カ果シテ積込マレ居ルヤ否ヲ検査スルハ甚タ困難ナルヘシ之ニ反シ英國法ハ倉庫及軍需品ノ全部及乗組員並ニ燃料一千噸ト限定セリ之等ノ事實ヲ確ムルハ比較的簡單ナリ之ヲ以テ英國海軍專門家ハ若シ國際的ノ計算法アラサルヘカラストセハ然モ本協定ニ右アラサルヘカラストルハ明カナレハ右ニ付テハ米國法ヲ採ルヨリモ英國及日本法ヲ採ル方優レリトナスモノナリサレハ幸ニシテ英國專門家ノ同意ヲ得レハ將來ノ軍艦ニ對シテハ三萬五千噸ノ制限ヲ附スルモノトシテ右噸數ノ計算ニハ英國法ヲ採リ米國法ヲ採ラサルム事ヲ望ムモノナリ素ヨリ彼等ノ目的ハ言葉ノ同一ナルノ際ニ隱レテ實質的ノ差異ヲ隱蔽セムトスルモノニアラスシテ單ニヨリ實際的ナル計算方法ヲ採用セムトスルニアリ

第二ノ論點ハ特ニ予自身ニ成ル程ト思ハセタルモノニシテ專門家ハ三萬五千「レゼンド」噸ヲ希望ス右ハ三萬七千米國式噸ニ精確ニ該當スルモノニハ非ルカ彼等カ甚タ熱心ニ之ヲ主張スル所以ハ彼等カ他ノ水上艦ニ對シテヨリ有效ナル軍艦或ハ米國、日本ノ海軍軍艦ヨリモ一層有勢ナル軍艦ヲ望ムカ故ニアラスシテ反ツテ目下成サレツツアルカ如キ或ハ間モナクナサレントスル航空機及水底ノ攻撃ニ對シテ必要ナル防護ヲナサムカ爲ナリ

本問題ハ三大海軍國ノ總テニ關係アル所ニシテ其戰艦隊ニ關スル限り共通ノ利害關係アルモノナリ素ヨリ目下ハ水上艦ノ討議ヲ主トシ互ニ右ニ關スル一定ノ比率ニ達セントスルモノナルカ英國海軍當局ハ精神上及事實上右ノ比率ヲ受諾スト雖尙其外ニ考慮スヘキ點ハ之等水上艦カ空中又ハ水底ヨリスル新發明ノ方法ヲ以テ妨ケラルル事ヲ好マサルコトナリ彼等ノ主張スル所ニ依レハ空中ヨリ投下スル爆烈彈ニ抵抗スルニ足ルヘキ甲板或ハ恐ラク間モナク存在スルニ至ルヘキ大魚形水雷ニ抵抗スルニ足ル程ノ船體ハ一定噸數ノ増加ニ依ル外成就シ難キモノナリ例ヘハ上述セルカ如キ甲板又ハ水底裝置ヲ有スル一萬噸ノ主力艦ヲ建造セムト企畫セリトセムニ恐ラクハ右ノ軍艦ニハ何等ノ大砲或ハ殆ト短艇ヲモ裝置スル能ハサルヘシ之等必要ナル一切ノ防護ヲ施ス爲ニハ先ツ一定ノ積量ヲ必要トス彼等ハ水上艦ニ對スル之等ノ軍艦ノ武裝ノ増大ヲ望ムモノニアラスト雖之ト全然別ナル危害ニ對スル防護ハ之カ設置ヲ欲スルモノナリ若シ主力艦ニシテ

保留セラルヘシトスレハ之等ノ防護ヲ施ス事ニ付テハ米國及日本モ亦英國ノ例ニ倣フヘキ事ハ予ノ顧問ノ確信スル所ナリ之ヲ以テ予ハ之等ノ危害ニ對シテハ速時密接ナル關係ヲ有スル英國海軍ニ向ツテ之等最モ恐ルヘキ攻撃形式ニ對シ防護充分ナラサル軍艦ノ建造ヲ求ムルカ如キコトナカラン事ヲ望ム予ノ意見ニ依レハ右カ専門家ノ意見ノ強味ナリト信ス

○「ヒューズ」氏——具體案ハ如何

○「バルフォア」氏——具體案ハ三萬五千「レゼンド」噸即チ右ハ三萬八千米國式噸ニ略々該當スル由ナレハ之ヲ採用セム事ナリ

○「ヒューズ」氏——審査スヘキ問題ハ次ノ二點ナリ第一點ハ代艦噸數ノ最大限度ヲ決定スヘキ規準ニシテ第二點ハ英國軍艦ニ隻ニ付採用スヘキ規準ナリ、第一點ニ關シテハ米國噸ノ基礎ヲ採ル代リニ英國及日本ノ採用所ニ依リ三萬五千「レゼンド」噸ヲ採用スルコトニ付テ何等ノ異議アルモノニアラスト雖右ニ付留意スヘキ點ハ之ニ關スル陳述中ニハ右ノ問題ニ關シ誤解ヲ惹起スルカ如キ事ハ決シテ之ヲ述フヘカラサル事ナリ右ノ二方法ノ間ノ差異ハ之ヲ公衆ニ説明スル事甚タ困難ナルノミナラス英國専門家カ米國噸ヲ「レゼンド」噸ニ換算スルニ付米國ノ夫レトノ間ニ違算アルカ如シ予自身ハ米國専門家ノ計算ニ全然満足スルモノナルカ彼等ノ云フ所ニ依レハ其差異ノ最大限度ハ四乃至五「パーセント」即チ三萬五千「レゼンド」噸ハ三萬七千米噸ニ該當ストナセリ但右ノ差異ハ何等原則ニ影響スルモノニアラス、サリナカラ予ハ公表ノ際三萬五千「レゼンド」噸カ規準トシテ採用セラレタリトノ陳述ト共ニ常ニ米國ノ計算ニ依レハ「レゼンド」噸ト米國噸トノ差異ハ二千噸ナリトノ陳述ヲ加ヘムト欲ス假令英國ノ計算カ之ト異ルトスルモ右ハ本問題ニ影響スルコトナシ

「レゼンド」噸ヲ採用スルトセハ原則トシテ其間何等差異ナケレハナリ新艦ニ隻ニ「レゼンド」噸ヲ適用スルニ付テモ同一ノ條件ヨリ之ヲ米噸ニ引直ス事ヲ得ルモノニシテ之レ亦原則トシテ何等ノ差異ヲ生セス假令米國専門家カ其計算法

ニ於テ英國ノ夫レノ如ク精確ナラサルノ事實アリトスト雖實際上ニ於テハ何等ノ不都合ヲ來タスコトナシ事實上ノ問題トシテハ米國専門家ハ三萬五千「レゼンド」噸ハ三萬七千米噸ニ當ルモノト考ヘ其差異ハ單ニ一千七百五十噸ニ過キスト考ヘ居レリ

此問題ヲ考フレハ考フル程四萬五千噸ノ軍艦ヲ建造スヘシトノ英國案ニ關心セサルヲ得ス即チ右カ成就サルル如キ事アラハ英國ハ未曾有ノ大軍艦ノ建造ヲ開始スルモノナリトノ思想ヲ流布シ人民ニ於テハ到達セル協定ハ平和ヲ求ムルモノニアラスト考フルニ至ルヘク一方各國政府ニ對シ軍艦噸數増加ノ強烈ナル熱望ヲ懷カシムルニ至ルヘク從テ右ハ企畫ヲ重大ナル混亂ニ導クモノナリ若シ英國政府カ右ノ案ヲ捨テラルレハ予ハ大ナル心ノ重荷ヲ除クヲ得予ハ未タ右ニ付「否」ト答フル勇氣ナキモ若シ英國ニシテ右ヲ放棄セラルルナラハ事態ハ甚タ善化スヘシ

右ニ付テハ尙費用ノ問題アリテ右ハ英國ニ對シ甚タ重大ナルヘシト雖重ナル點ハ其外ニ及ホス影響ナリ何トナレハ公衆ハ英國ハ何ノ故ヲ以テ他國ヨリモ大ナル軍艦ヲ要求スルモノナリヤトノ疑ヲ懷クニ至ルヘケレハナリ之レ予ノ本問題ニ關心スルノ所以ナリ

此時「バルフォア」氏ハ「チャットフィールド」少將ト相談スル爲退出シ歸ルニ及ヒ

○「ヒューズ」氏——加藤男ニ依レハ日本ハ「レゼンド」噸法ヲ用ヒストノ由ナリ

○「バルフォア」氏——本國政府ニ請訓スル所ナクシテ行動スルハ予ノ好マサル所ナルモ目下ノ新事態ハ予ニ對シ速決ノ義務ヲ課スルニ至レリ予ハ此上遲延ヲ避クルコト甚タ重大ナルヲ感知セリ既ニ之迄遲延セルカ爲ニ絶エス何處カラカ新聞ニ漏洩シ爲メニ多大ノ害惡カ起コリタル以上ハ今ヤ直ニ佛、伊比率ノ討議ニ入ル事尤モ重要ナリト感スルニ至レリ之ヲ以テ予ハ本國政府ニ代リ英國政府ハ三萬五千「レゼンド」噸級軍艦ニ隻ヲ建造スルノ權利ヲ有シ右ノ新艦完成ノ上ハ之ニ換ヘテ「キング、ジョージ」五世型四隻ヲ廢棄スヘシトノ案ヲ受諾スルノ責任ヲ持タムトス

○加藤男——右ノ提案ハ予ニトリテ甚タ満足スル所ナリ

「バルフォア」氏
萬五千噸
新艦ニ
同意ス

公表文
起草

○「ヒューズ」氏——「バルフォア」氏ノ陳述ニ感謝シ予ニ採リテモ甚タ満足ニ堪ニス

○「バルフォア」氏——右ノ決定ハ佛、伊海軍ニ關スル適當ナル協定ノ締結ヲ條件トスルモノナリ

○「ヒューズ」氏——同意

○加藤男——要塞ノ現狀維持ニ關スル了解ハ又之ヲ看過スルヲ得ス

○「ヒューズ」氏ハ速記者ヲ呼ビ其同僚ノ前ニテ公表文ヲ速記セシム右ノ速記中

○「バルフォア」氏——第一節ニ於テ確定協定 (definite agreements) ト云フハ不可ナリ協定項目 (Heads of Agreements) ト云フカ如キ言葉ヲ用ユルヲ可トス

○「ヒューズ」氏——草案ニ協定諸點 (Points of Agreements) ナル言葉ヲ入ルル事ニ修正ス右ノ議定ニ關シテハ條約ヲ作ルコト必要ニシテ之ハ批准ヲ條件トシテ海軍比率要塞ノ現狀維持及關係國間ノ軍艦ノ處置ニ關スル協定ヲ擧ケサルヘカラス軍艦隻數ハ佛、伊間ノ協定成立ノ假定ノ下ニ成立ス

○加藤男——之ニ同意ス

○「バルフォア」氏——同意

○加藤男——草案ニ於テハ單ニ主力艦ニ付キ適用セラルヘキ旨説明シアリヤ

○「ヒューズ」氏——速記者ニ謀リ其通りナリト確認ス

佛、伊ニ關スル手續

佛伊ニ關
スル手續

○「ヒューズ」氏——佛、伊ニ關スル手續順序ニ關シテハ「サロー」氏及「ジュスラン」氏ニ二時半會見ヲ求メ午後四時軍備制限ニ關スル新分科會ノ會合ヲ汎米會館ニ招集スヘシ尙右ノ會合前ニ伊國全權トモ會見スヘシ、予ハ前以テ出來得ル限り佛、伊全權トノ間ニ問題ヲ簡便化スル爲ニ先ツ彼等ニ對シテ公表スル事ニ決定セラレタル事實ヲ告ケ佛國全權ニ對スル議論ノ筋道トシテハ之レ迄ノ經過ハスヘテ各國ノ相對的勢力ニ依リタルモノナル所佛國ハ目下主力艦約二十二萬噸ヲ有シ其中終級船ハ十七萬噸ナレハ若シ之ニ對シ米、英ノ採用セル如キ廢棄方法ヲ用ユル時ハ四割ノ縮少ナルヲ以テ佛國ノ勢力ハ主力艦十三萬二千噸ニ下ルヘク伊國ハ其下ニナルヘシト雖佛國ハ戰時中建造スル能ハサリシ事ニ付特別ノ困難アルヲ認メ之ニ對シテハ軍艦ノ廢棄ヲ求メサルヘク予ノ顧問ノ計算ニ依リ十七萬五千噸ヲ以テ公正ナル比率ト認ム右ハ佛國ニ對シ其當然ノ程度ヨリ約四萬三千噸ヲ超過セシムルモノニシテ佛國力建造スル能ハサリシ事實ニ對シ公正ナル代償ヲ與フルモノナリ嚴密ニ云ヘハ伊國比率ハ十四萬八千噸トナルヘシト雖予ハ同國ニ對シ佛國ト同比率ヲ認ムヘク伊國ニ對シ何等軍艦ノ廢棄ヲ強要スルコトナカルヘシ佛國ニ對シテハ主力艦ハ之ヲ現狀ニ留メシメ代艦期ニ至リ之ヲ十七萬五千噸ニ縮少セシムヘシ若シ彼等カ本案ニ異議ヲ唱フル時ハ彼等ニ告グルニ右ノ原則ハ國家的必要ニ關スル專門的計算ニ依リ到達セルモノニアラスシテ現勢ノ基礎ニ依レルモノナルヲ以テスヘシ尙現在佛國ノ經濟事情ハ同情スル所ナルモノコノ事情ノ下ニ於テ尙主力艦ヲ建造スヘキノ理ヲ認ムルヲ得スト云ハント欲ス彼等ニ勸ムルニ先ツ右ノ案ヲ彼等自ラ分科會ニ提出スルヲ以テスヘク若シ右ノ要求カ容レラレサル時ハ余自ラ之ヲ提出スヘシ尙分科會ニ於テハ自ラヲ窮地ニ陷ルル如キ陳述ヲナササル様彼等ニ注意ヲ與フヘシ

○「バルフォア」氏——右ハ予ノ意見ニ於テモ目下ノ事情ニ處スル最良ノ方法ナリトス

○加藤男——同意

○「ヒューズ」氏——先ッ佛國全權ニ次ニ伊國全權ニ會見スヘシ

彼等ニ對シテハ充分腹藏ナク對スヘシト雖結局彼等カ同意スヘシト信スヘキ理由アリ

主力艦問題カ片附キタル上ハ引續キ直ニ同分科會ニ於テ補助艦問題ヲ提出スヘク其後ニ於テ潛水艦ノ討議ニ入ルヘシ右ニ付テハ英國全權ニ於テ何等カ發言セラレントスルモノト承知ス

○「バルフォア」氏——潛水艦廢止ヲ主張セサル可カラス巡洋艦ノ比率ニ付テハ多少困難トスル所アリ艦隊ノ補助艦ニ付テハ艦隊自身ニ適用セルト同様ノ比率ヲ適用スル事ニハ全然同意スト雖右ニ付テハ英國ハ遠距離ノ屬領ヲ有シ交通ノ安全

ヲ保ツニ困難ナルノ特別事情ヲ考慮スルノ必要アリ

○「ヒューズ」氏——主力艦問題片附キタル上ハ之等ノ特別點ヲ議ニシ上委員會ニ於テ討議スヘシ

驅逐艦及補助艦問題ノ處置方法ニ關シ尙暫ク討議シタル後會合ヲ閉ツ

第四款 日英米三國假協定

大正十年十二月十五日公表文ヲ左ニ掲ク

主力艦及
假協定公
表文

主力艦ニ關シ日米英三國間ニ討議シタル結果一致シタル諸點左ノ如シ

海軍勢力比率問題ニ關シ日米英三國間ノ協定成立シ米國政府ノ提案タル五、五、三ノ比率ハ三國ノ承認スル所ト爲レリ香港ヲ含メル太平洋上ノ要塞及海軍根據地ニ關シテハ現狀ヲ維持スルコト即チ此等要塞及海軍根據地ノ増築ヲ行ハサルコト但シ布哇諸島、濠太利、新西蘭及日本本土並合衆國及加奈陀ノ沿岸ハ固ヨリ本制限ノ適用ヲ受ケス全然各國ノ自由タルヘキコトニ關シ協定成立セリ

日本政府ハ其ノ最新艦タルノ故ヲ以テ陸奥ノ廢棄ニ關シ特殊ノ困難ヲ感スルヲ慮リ同艦ヲ存置スル爲メ米國提案ニ依リテ存置セラルヘキ舊式艦攝津ヲ廢棄スルノ提案ヲ爲セリ本提案ハ米國案ト同シク主力艦十隻ヲ保有スルコトナル攝津ノ代リニ陸奥ヲ存置スルコトハ日本ノ主力艦噸數ヲ米國原案ニ依ル二十九萬九千七百噸ヨリ三十一萬三千三百噸ニ増大シ一萬三千六百噸ノ差ヲ生セシム噸數ノ差ハ小ナルモ陸奥ノ存置ハ最新設計ノ「ジュトランド」海戰後型 (Post-Intand) 軍艦二隻ヲ日本ニ與フルコトトナリ實勢力ニ於テハ著シキ差ヲ來スヘシ右ノ狀況ニ鑑ミ一致ヲ見タル勢力比ノ均衡ヲ保ツ爲合衆國ハ建造中ノ二艦即チ既ニ約九割ノ工程ニ達セル「コロラド」(Colorado) 及「ワシントン」(Washington) ヲ完成シ舊式艦二隻即チ原案ニ於テ存置スルモノトセラレタル「ノース、ダコタ」(North Dakota) 及「デラウエア」(Delaware) ヲ廢棄スルコトニ協定セラレタリ

右ニ依レハ合衆國ハ主力艦ノ隻數ハ原案ト等シク十八隻噸數ハ原案ノ五十萬六千五百噸ニ對シ五十二萬五千八百五十噸ヲ保有スルコトナル保有セラルヘキ艦中三隻ハ「メリーランド」型 ("Maryland" type) ノ「ジュトランド」海戰後型 (Post-Intand) 艦タルヘシ

英國ハ部分的ノ「ジュトランド」海戰後型艦 (Post-Intand) ト云フヘキ「フード」(Hood) ノ外「ジュトランド」海戰後型 (Post-Intand) 艦ヲ有セサルヲ以テ適當ナル勢力比ヲ保ツ爲計畫噸數三萬五千噸ノ新艦二隻ヲ建造シ得ルコトニ協定セラレタリ右ノ噸數ハ英國計算標準ニ依ルモノニシテ米國計算法ニ依ルトキハ三萬七千噸ニ相當ス

以上ノ新艦二隻完成ノ曉ニ於テ英國ハ「キング、ジョージ」五世型 ("King George V" type) 艦四隻即チ原案ニ依リ保有スルモノトセラレタル「エリン」(Erin)、「キング、ジョージ」五世 (King George V)、「セント・ジョージ」(Centurion) 及「ジャックス」(Jacks) ヲ廢棄スルコトニ協定セラレタリ右ニ依レハ英國ノ主力艦噸數ハ米國原案ノ二十二隻ニ對シ二十隻トナル新艦二隻ノ噸數ハ米國計算法ニ依レハ七萬四千噸ニシテ廢棄セラルヘキ四隻ノ噸數ハ九萬六千四百噸ナルヲ以テ差引二萬二千四百噸ノ減少トナリ英國主力艦ノ總噸數ハ六十萬四千四百五十噸ヨリ五十八萬二千五百噸ニ減少ス

右ノ計算ニ依レハ英國ハ米國ニ比シ五萬六千二百噸ノ超過トナルモ「ロイアル、ソベレン」(Royal Sovereign) 及「クイン、エリザベス」型 ("Queen Elizabeth" types) 艦ノ船齡ヲ考慮シ公平ト認メラレタルモノナリ代艦ノ最大噸數ハ前記ノ諸變更ニ伴ヒ計畫噸數三萬五千噸ト制限セラレタリ右ノ噸數ハ英國計算標準ニ依ルモノニシテ米國計算法ニ依ルトキハ三萬七千噸ニ相當ス

代艦建造計畫ニ依リ建造セラルヘキ主力艦ノ總噸數ハ左ノ如ク定メラル

合衆國	五二五、〇〇〇噸
英國	五二五、〇〇〇噸
日本	三二五、〇〇〇噸

本案ヲ米國原案ニ比較スルニ合衆國ハ原案ト等シク主力艦三十隻ヲ廢棄ス但シ未成艦十五隻ハ十三隻トナリ舊式艦十五隻ハ十七隻ト爲レリ廢棄セラルヘキ主力艦ノ總噸數ハ建造中ノモノヲ合セ完成ノ曉ニ於テ八十四萬五千七百四十噸ヲ數ヘシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ八十二萬五千四百四十噸トナル

保有セラルヘキ日本ノ艦數ハ原案ニ同シ、原案ニ依リ廢棄セラルヘキ總噸數ハ未成艦完成ノ曉ニ於テ四十四萬八千九百二十三噸ナリシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ四十三萬五千三百二十八噸ト爲ル

英國ノ廢棄艦數ハ原案ニ從ヘハ主力艦十九隻(既ニ廢棄セラレタル前弩級艦ヲ合セ)ナリシカ本案ニ依レハ更ニ四隻ヲ加ヘ合計二十三隻ヲ廢棄スルコトナル、米國カ廢棄スヘキ總噸數ハ起工セルモノトシテ原案ニ掲ケラレタル新「フード」(Hood)四隻ヲ合セ完成ノ曉ニ於テ五十八萬三千三百七十五噸ト計算セラレタリ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ二萬二千六百噸ヲ増加シ合計六十萬五千九百七十五噸トナレリ

米國ノ原案ニ從ヘハ廢棄セラルヘキ主力艦ハ完成未成ヲ合算シ六十六隻百八十七萬八千四百三十三噸(建造中ノモノヲ完成シタルモノトシ)ナリシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ六十八隻百八十六萬千六百四十三噸ト爲ル

主力艦ニ關スル十年間ノ海軍休暇ハ上記諸艦ヲ建造スルノ外米國政府ノ原案實行セラルヘキモノトス

日米英三國間ノ本協定ハ保有並廢棄セラルヘキ艦數ニ關スル限り目下進行中ニ係ル主力艦ニ關スル佛伊兩國トノ圓滿ナル協定成立ヲ俟テ決定セラルヘキモノトス

第二節 佛伊ノ海軍及會議再開問題

概説

米國ハ先ツ日英米三國ノ海軍制限ニ關シテ提案シ佛伊ニ及ハサリシコト既述ノ如クナルカ十二月十五日日英米三國間ノ假協定ノ成立スルヤ同日午後直ニ日英米佛伊五國ノ全權及海軍専門委員ヨリ成ル十五人委員會ヲ招集シテ佛伊ノ海軍問題ノ審議ニ入り主力艦ニ關スル限り四回ノ十五人委員會二回ノ總委員會ニ於ケル討議ヲ經テ決定セリ、佛伊ノ主力艦ヲ審議スルト共ニ將來今次ノ協定改訂ノ爲メ開カルヘキ會議ノ件モ論セラレタリ

以下議事録ニ依リ會議ノ經過ヲ略述スヘシ

第一款 海軍軍備制限問題ニ關スル十五人委員會ニ於ケル討議

十五人委員會ノ成立

十五人委員會 (Sub-Committee of Fifteen on Naval Limitation)

組織ハ十二月十二日第十五回極東委員會ノ終了後(第三回軍備制限總委員會)「ヒューズ」氏ヨリ從來ノ海軍専門家ノミノ分科會ニ代ヘテ各國全權一名及全權若クハ全權ニ非ラサル文官及武官各一名ヲ以テ一分科會ヲ作ルコトヲ提議シタルニ由來シ意見交換ノ結果全權以外ハ凡テ武官トスルモ差支ナシトノ諒解ノ下ニ成立セリ斯クテ其第一回ヲ十二月十五日午後汎米會館「ロンズ」室 (Columbus Room, Pan American Building) ニ開キ爾來第二回十二月十六日午前第三回十二月十七日午前第四回十二月二十日午前四回ニ渡リ主トシテ佛伊ノ主力艦問題ヲ議シタリ同委員會ニ出席セル各國委員左ノ如シ

十五人委員會出席者

合衆國 (國務卿ヒューズ氏(議長)) (Mr. Hughes)

海軍次官ルーズヴェルト氏 (Colonel Roosevelt)

クーンツ大將 (Admiral Countz)

英帝國 (バルフォア氏) (Mr. Balfour)